

令和2年度・3年度
近江今津駅周辺地域まちづくり構想
策定に関する調査報告書

令和4年3月

高 島 市

目 次

第1章 検討の概要	1
1. 背景と目的	1
2. 対象地域	1
3. 検討の流れ	2
第2章 地域の現状と動向の把握・分析	3
1. 近江今津駅周辺の現状	3
(1) 地域の概要	3
(2) 上位関連計画・事業	7
(3) まちづくり施設・機能配置	9
(4) 市民活動団体	17
2. 観光・交流の現状	19
(1) 観光客	19
(2) 観光対象	22
(3) 来訪者が感じる「今津」のイメージ	30
(4) 観光サービス、誘客施策	32
3. 今津の観光を取り巻く環境変化と影響	35
(1) 北陸新幹線敦賀延伸に伴う影響	35
(2) 観光行動の変化と新型コロナウイルスによる影響	38
(3) 観光・交流に関わる地域、行政の動向	43
第3章 観光まちづくりについての関係主体の意見	45
1. 実施概要	45
2. 意見のまとめ	46
第4章 今津駅周辺地域の特性と観光まちづくりの課題	55
1. 観光地域としての特性と強み・弱み	55
2. 今津駅周辺活性化に向けた課題	56
第5章 類似事例の研究	59
1. 課題に対応した事例の収集・整理	59
2. 今津駅周辺地域での適用可能性	69
第6章 今津駅周辺地域の観光まちづくりを検討する際の方向性	70
1. 地域の目指すべき姿	70
2. 取組の方向性	71
3. 周辺遊休地の有効活用	76
4. 取組の推進体制	77
第7章 今津駅周辺地域の観光まちづくりに当たっての留意点と今後の進め方	78
参考資料 庁内プロジェクトチーム会議による検討	79
1. 実施概要	79
2. 検討結果	80

第1章 検討の概要

1. 背景と目的

高島市の鉄道の玄関口である近江今津駅周辺には、歴史、文化、自然、食など魅力あふれる素材が点在しているが、その魅力を十分に活用できていない現状がある。また、2023年度末には北陸新幹線の金沢～敦賀間の開業に伴い、京阪神から敦賀に向かう新たな人の流れが起こり、本市においても観光やビジネスなど様々な面で波及効果が期待される。

これらの背景を踏まえ、新幹線敦賀延伸の波及効果をより高いものとするためにも、近江今津駅周辺地域の活性化が重要であり、活性化のイメージや方向性を住民、事業者、行政が共有し、共に取り組んでいくことが必要である。

本検討は、活性化のあり方を示す「近江今津駅周辺地域まちづくり構想」の策定に向けて、必要情報の収集・整理、分析を行い、まちづくりの課題と基本的な考え方を整理することを目的に行った。

2. 対象地域

高島市今津町の JR 近江今津駅周辺地域（下図参照）を対象地域とする。



図 対象地域

3. 検討の流れ

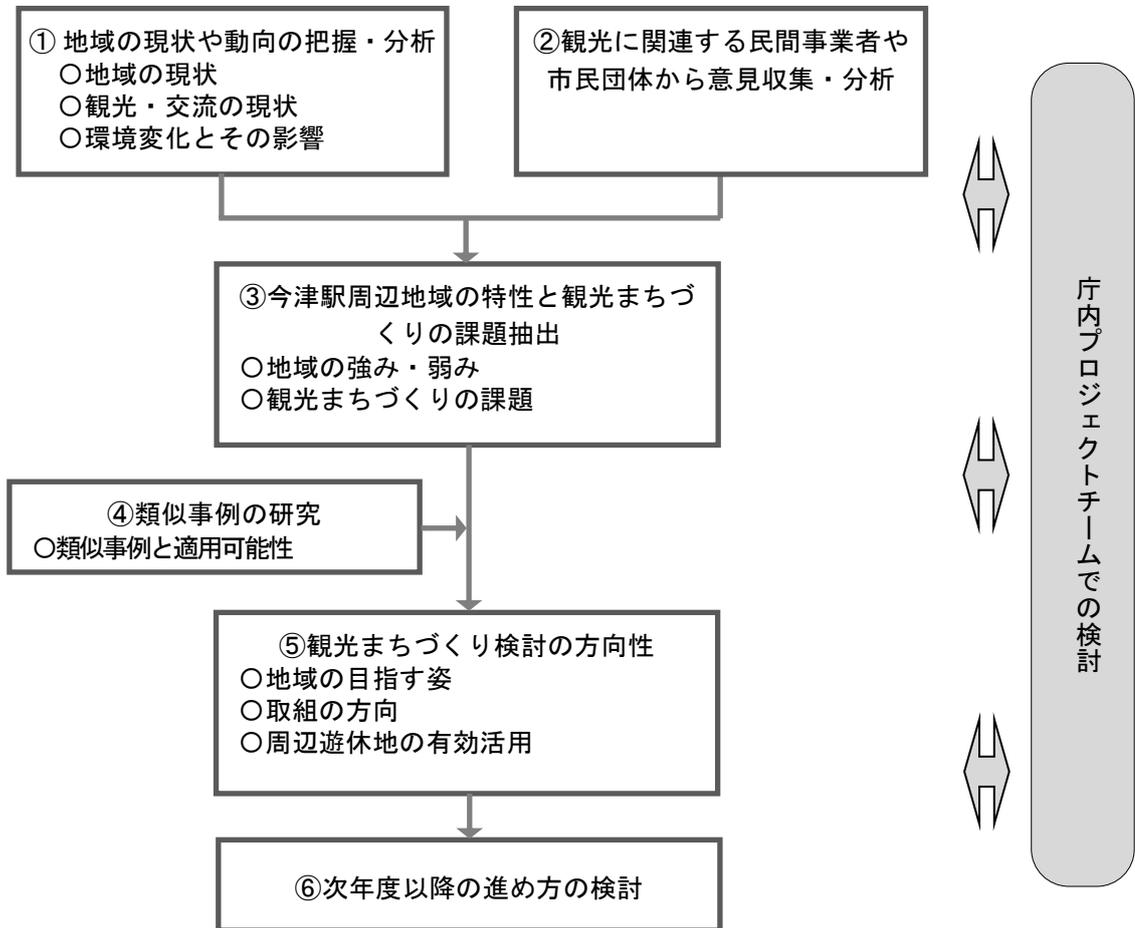


図 検討フロー

第2章 地域現状の把握・分析

1. 近江今津駅周辺の現状

(1) 地域の概要

① 位置

高島市は、平成17年1月1日にマキノ町・今津町・朽木村・安曇川町・高島町・新旭町の合併により誕生した市であり、近畿地方北東部にある滋賀県の北西部に位置する。

今津駅周辺地域は、高島市の北部に位置し、東は琵琶湖、西は比良山地に面する東西に広がる地域である。湖西道路を利用すると京都中心部から約1時間30分、敦賀インター・小浜インターから約50分、また鉄道利用では大阪駅から約1時間20分、京都駅から約50分の距離にある。

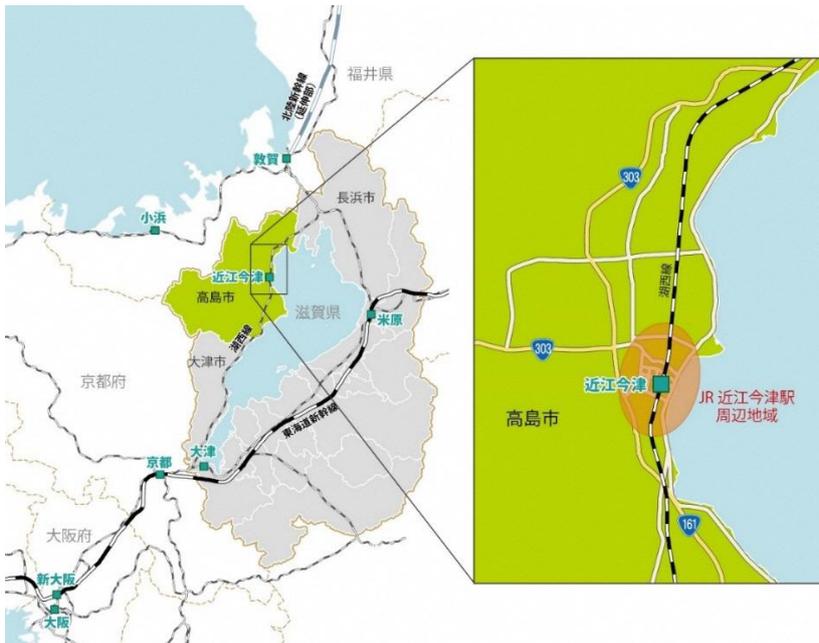


図 地域概要

② 沿革

今津駅周辺地域は、古くから湖西の交通の要衝として発展し、様々な街道と大津方面への湖上交通の拠点である港町や宿場町として多くの人や物が行き交い、栄えてきた。

近代以降には、自衛隊演習場の開設によるまちの賑わい、鉄道の発達などがみられ、この頃に竣工されたウィリアム・メレル・ヴォーリズが主宰するヴォーリズ建築事務所が設計した建造物は、現在も観光資源として活用されている。

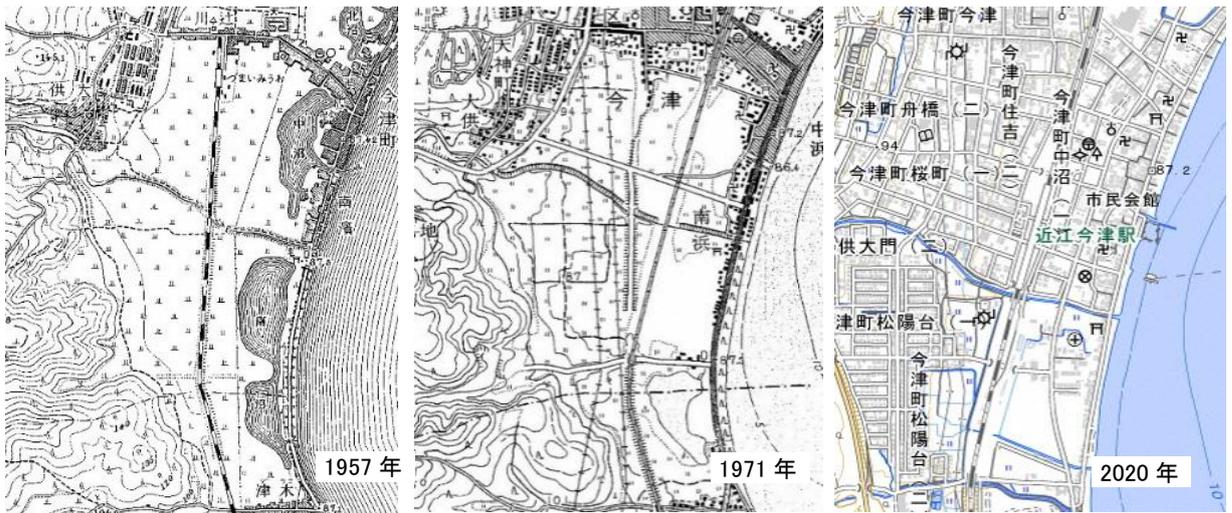
現代に入ると、国鉄湖西線開業を契機に近江今津駅周辺の開発が進んだが、平成初期の大型スーパー開業をはじめ、当地域の北隣にある南新保地区周辺の店舗開発が進み、商圈が移ることで近江今津駅周辺の賑わいは薄れてきている。

表 今津町地域の沿革（先史～近代）

時代	内 容
先史	<ul style="list-style-type: none"> ・古墳時代、豪族が出現し、古墳が築かれ始める。 ・民衆は、農業のほか、林業を生業とする。 ・若狭・越前へと通じる古代交通の十字路として利用される。
古代	<ul style="list-style-type: none"> ・中国大陸・朝鮮半島からの文化流入ルートの大要衝とされ、仏教信仰が伝わる。 ・大宝年代、今津町が郡郷に編成され、高島郡に位置づけられる。 ・平安時代末期、北陸道（西近江路）が敗走路として使われるようになる。
中世	<ul style="list-style-type: none"> ・15世紀後半、蓮如の布教によって湖西の地に多くの真宗寺院が誕生する。 ・荘園が成立し、京の寺院の領所としての役割を持つようになる。 ・室町時代、東国、北国からの物資の積出し港として木津（新旭町）が繁栄、応永34年（1427）には主要な港の中に今津港が加わる。 ・陸路として、保坂の重要性が高まる。 ・織田信長政権下において琵琶湖が交通路として重視され、豊臣秀吉政権下では、隣接する木津に代わり、今津が水陸の物資輸送の中継地として重要な位置を占めるようになる。 ・豊臣政権下では、金沢藩の支配を受けるようになる。
近世	<ul style="list-style-type: none"> ・農業技術の発達や交通網の整備によって生活時間にゆとりが生じたことより、俳句や短歌を読む人々や、町外の文化人たちと交流を持つ人が登場する。 ・徳川家康政権下でも湖上交通は重視されたが、17世紀後半、西廻り航路が使われるようになり、今津を通る船数は減少していく。 ・江戸時代末期、日本近海に出没した外国船の来航により、西廻航路が回避されるようになり、湖上交通が再び注目され、今津村は宿場として利用されることが多くなる。また、金沢藩から役人が派遣される。
近代	<ul style="list-style-type: none"> ・明治5年（1872）、犬上県の滋賀県への編入を機に今津村に出張所の設置を嘆願し、明治11年（1878）、郡区町村編制法の制定後、高島郡役所が曹澤寺に設置される。 ・明治22年（1889）、饗庭野が陸軍に買い上げられ、演習場が設置される。 ・明治39年（1906）今津村から今津町に変わる。 ・大正6年（1917）、今津町内の宿にて、小口太郎が京都の旧制第三高等学校水上部の仲間に「琵琶湖周航の歌」の詩を披露する。 ・大正12年（1923）、ヴォーリス建築事務所設計による百三十三銀行今津支店が建設される。 ・昭和6年（1931）、江若鉄道 安曇-近江今津間が開通する。 ・昭和9年（1934）、ヴォーリス建築事務所設計による日本基督教団今津教会会堂が建設される。 ・昭和11年（1936）、ヴォーリス建築事務所設計による今津郵便局、今津基督教会館が建設される。 ・町村合併促進法により、今津町・川上村・三谷村を合併し、昭和30年（1955）に高島郡今津町が誕生する。
現代	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和43年（1968）、駅前整備として内湖（北沼・中沼・南沼）を埋め立て、国鉄湖西線新駅につながる幹線道路の整備が行われる。 ・昭和44年（1969）、江若鉄道が廃線となる。 ・昭和49年（1974）、国鉄湖西線が開業される。 ・平成5年（1993）今津ショッピングセンターリプル（平和堂今津店）が開業。 ・平成6年（1994）、今津サンブリッジホテルが開業。 ・平成17年（2005）マキノ町・今津町・朽木村・安曇川町・高島町・新旭町の合併により現在の高島市が誕生

③ 土地利用

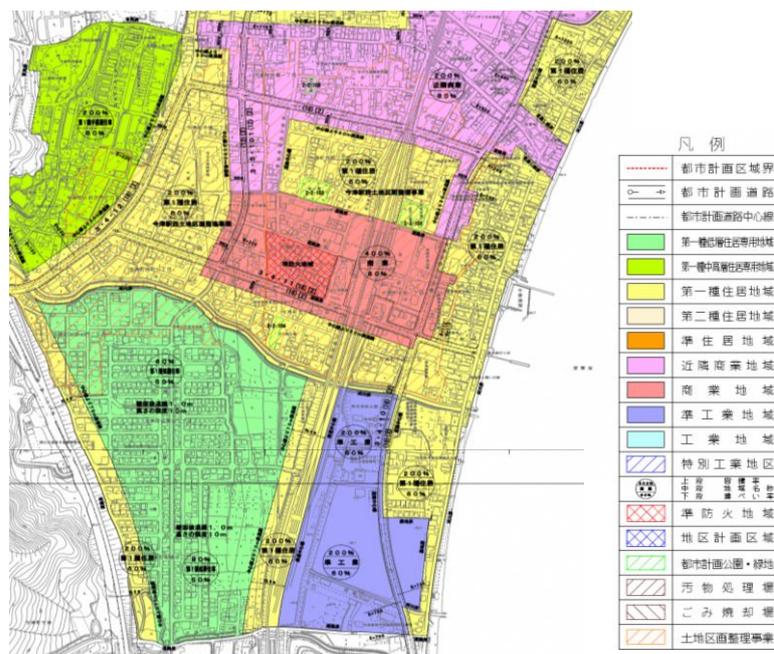
今津駅周辺地域の土地利用は、琵琶湖と内湖（北沼・中沼・南沼）に挟まれた浜通り沿い周辺、北沼と中沼の間にある辻川通り沿い周辺の2ヶ所が主な集落として存在し、周囲には田地在り広がっていた。昭和49年（1974）の国鉄湖西線開通に伴い、昭和43年（1968）から駅前整備が行われた。新駅に通じる幹線道路と駅前広場が整備され、浜通り、辻川通りとの連携が図られ、さらには整備用地として今津町の景観的な特徴を示していた3つの内湖が埋め立てられた。同時に国鉄湖西線開通を見越した京阪神への通勤圏としての開発が進み、田地は宅地へと変容していった。



出典：国土地理院

図 土地利用の変遷

用途地域は、駅周辺を中心に「商業地域」、辻川通り周辺および辻川通りの南地域は「近隣商業地域」、駅南市有地は「準工業地域」、その他の地域は「第一種住居地域」に指定されている。



出典：高島市 用途地域について

図 用途地域

④ まち並み

今津駅周辺地域のまち並みは、古くから集落として存在する、琵琶湖との関係性の強い浜通り、まちとしての機能性の高い辻川通りに特徴が現れている。

【浜通り沿いの集落】

浜通り沿いの地域では、川を境に集落が区分されているところが多くある。集落の中には、浜通りと琵琶湖をつなぐ通路「辻子」が数軒に1本あり、独特な空間を形成している。また、琵琶湖沿いの家では、家の前の浜を「うちの浜」と呼んでわが家の浜とする空間認識があり、琵琶湖と住民の生活の密接な関係が伺える。

昭和初期、浜通りでは山側の家をセットバックさせ、道が拡幅された。その要因の一つとして、饗庭野演習部隊の誘致が考えられる。道路拡幅を契機に建て替えられた家屋が多かったため、山側では古くからの家屋があまりみられないが、琵琶湖側には現在もツシ二階や出格子が残る古くからの建物が所々に残っている。

中浜から北浜にかけての浜通りは、昭和初期には湖西随一の歓楽街として知られ、旅館や料理屋、置屋が軒を並べ、陸軍上級将校の訪問も多かったと伝わる。昭和中期には、饗庭野演習場内での時代劇の映画撮影が人気となり、俳優陣の宿泊も多くみられた。また、同時期まで、浜通りの住民は、結婚にあたって中浜の住吉神社で式を挙げ、今津の旅館や料理屋で披露をすることが多くあった。

昭和39年(1964)、自衛隊の演習への支障を理由に饗庭野演習場での映画撮影が禁止されたこともあり、戦後、旅館として営業を続けていた置屋を含め、浜通りの旅館は徐々に減少していった。現在は、古くからの旅館や小売店、飲食店が点在する住宅地として存在している。



図 浜通りの旅館

【辻川通り沿いの集落】

中浜の住吉神社から中沼と北沼の間を西に伸びる辻川通りは、商店街として賑わっていた。金物屋、川魚屋、造り酒屋などの店があり、住民の生活必需品の調達はこの商店街で済まされていた。商店街は辻川通りに沿って饗庭野演習場のある西へ伸び、演習場手前には娯楽施設もみられた。現在も辻川通りの商店街では地域住民による買い物風景がみられるが、栄地区の娯楽施設をはじめとした全盛期の賑わいはなく、浜通りを北上した南新保地区周辺に大型スーパーや大手チェーン店が進出したことにより、まちの様相や機能が変化している。

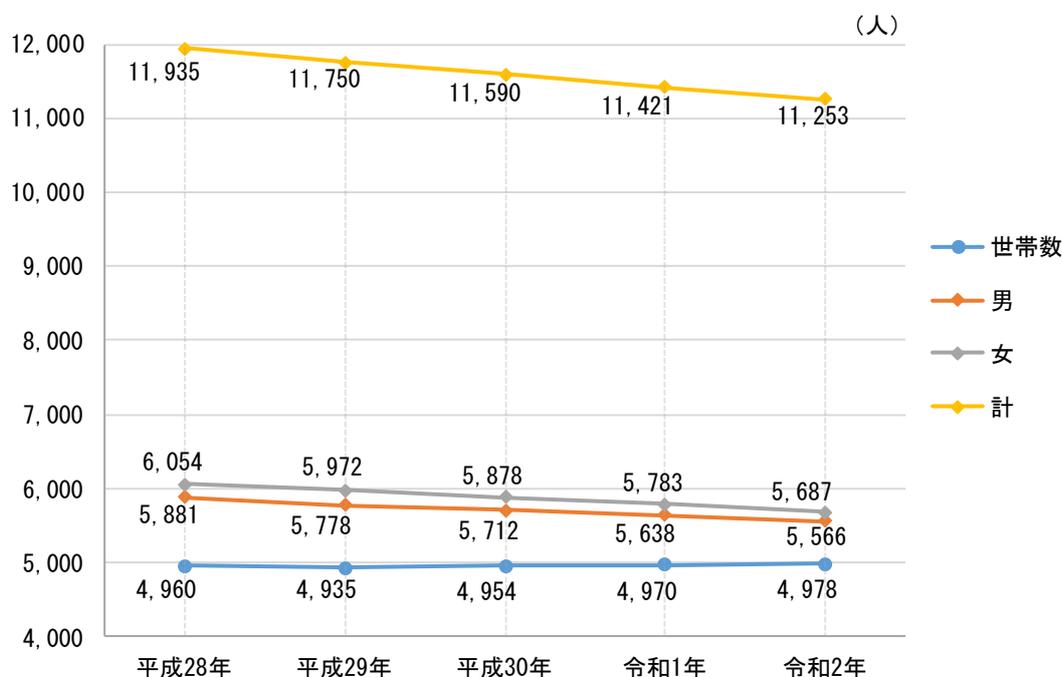
一方で、辻川通りにとって最も重要なまち並みの要素として挙げられるのは、ヴォーリズ建築である。大正後期から昭和初期にかけて、ヴォーリズ建築事務所設計による西洋の意匠を持つ3軒の建造物が通り沿いに建てられた。地域住民にとって大切な存在であり、辻川通り的一部分には、「ヴォーリズ通り」との愛称もつけられている。



図 日本基督教団今津教会会堂

⑤ 人口

今津駅周辺地域を含む今津町の人口は令和2年現在 11,253 人、4,978 世帯である。過去5年間の推移をみると、総人口は682人 5.7%の減少で、減少傾向が続いている。一方で、世帯数は横ばいであり、世帯あたりの人数の減少が考えられる。



出典：高島市住民基本台帳

図 今津地域人口推移

(2) 上位関連計画・事業

① 上位関連計画

高島市で策定されている高島市総合計画、高島市まち・ひと・しごと創生総合戦略において、高島市全域での観光に関し、特産品の積極的な情報発信、体験型の観光について記されている。また、高島市都市計画マスタープランでは、当地域における賑わい創出が計画されている。

【高島市総合計画（平成29年～令和8年度）】

高島市総合計画には、観光に関わる内容として、『かもし』産業・経済-にぎわいや潤いが『かもし』出されるまちづくり-が政策分野として打ち出されており、魅力的なものづくりと積極的なPRを推進することで、高島ブランドを育成する他、これまで力を入れてきたエコツーリズムでテーマとしてきた自然に、暮らしや食、人の魅力をかけ合わせて、滞在時間の延伸につながる観光振興に取り組むとされている。

【高島市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年3月策定）】

高島市まち・ひと・しごと創生総合戦略には、観光に関わる内容として、「稼ぐ地域をつくる」とともに、「安心して働けるようにする」「高島とのつながりを築き、高島への新しい人の流れをつくる」の2点が基本目標として掲げられている。この中では、高島市の歴史・文化財資源と食

文化を活かした観光誘客、高島市ならではの1次産業・伝統産業や特産品の販路拡大、高島市の魅力を学ぶ多様な体験の場づくり、観光や特産品販売とタイアップしたシティプロモーションが施策内容として取り上げられている。

【高島市都市計画マスタープラン（平成24年3月策定、平成29年7月部分改訂）】

都市計画マスタープランには、都市づくり構想における都市拠点として JR 近江今津駅周辺および今津港周辺が、都市集積と交流拠点として位置づけられており、歴史的文化資源を活かし、歩いて楽しめるまちの賑わい創出が計画されている。

表 観光まちづくり、今津地域に関わる上位関連計画

上位関連計画	計画内容
高島市総合計画	基本計画第1章「かもす」産業・経済 施策項目2 高島ブランドを育成・発信します 方針1 地場産業の魅力をさらに高めます 施策1 新商品開発などによる地場産業の振興 施策2 国内・海外への進出支援による販路拡大 方針2 自然の恵みの魅力をさらに高めます 施策3 水産品の魅力化による食材利用の推進 方針3 「発酵」を生かしたオリジナルブランドを育成します 施策1 発酵研究の推進による魅力向上 施策項目3 観光で国内・海外に「高島」を伝えます・ 方針1 豊かな自然や恵みを活かした観光を推進します 施策1 観光プログラムの充実による観光客の増加 施策2 周遊性の向上による滞在時間の延伸 施策3 自然と食を生かした観光の魅力向上 方針2 高島の魅力を国内・海外に発信します 施策1 情報発信の強化による集客力の向上 施策2 海外向けの情報発信による観光客の誘致 施策3 国際理解の推進による受入体制の整備 施策4 スポーツイベントによる観光と地域振興
高島市まち・ひと・しごと創生総合戦略	基本目標1 稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする 施策1-① おいでよ、高島！水と緑、食や歴史を活かした観光まちづくりプロジェクト 施策1-② いいものいっぱい！高島を全国・世界に売り出すプロジェクト 基本目標2 高島とのつながりを築き、高島への新しい人の流れをつくる 施策2-② 知って高島！びわ湖高島ブランド発信プロジェクト
高島市都市計画マスタープラン	第3章 都市づくり構想 3 将来の都市構造形成の考え方（2）都市拠点 ②都市集積と交流拠点（JR 近江今津駅周辺および今津港周辺） ・既存商店街との回遊性の高い、やや広がりのある拠点形成を目指した店舗経営者の誘導や新規起業育成対策 ・ヴォーリズ建築をはじめとするその他歴史文化資源を活かしたイベントなどのソフト施策 ・公園等のリニューアル ・歩行者の安全性の向上

② 関連事業計画

観光まちづくりに関連する当地域での計画として、高島市長期財政計画（2019-2028年）における「今津東コミュニティセンターの大規模改修に伴う機能集約・複合化」が計画され、2020年3月、地域文化・コミュニティ発展の場として、また観光・情報発信の拠点として、市民に親しまれる施設を目指し、リニューアルオープンした。

(3) まちづくり施設・機能配置

① 生活・文化、産業

今津駅周辺地域には、警察署や国の出先機関など、高島市全域を対象とする施設が駅北東部を中心に立地している。一方で、平成17年の高島市合併により、市役所をはじめ、市内他地域への公共施設の新設・移転がみられ、行政のまちとしての当地域のイメージは薄れてきている。

表 生活・文化、産業関係施設一覧

種別	番号	施設名	トピック
教育 ・文化	1	今津幼稚園	
	2	高島市立今津東保育園	
	3	高島市民会館	1,024席を有する市内最大のホール
	4	今津東コミュニティセンター (たかしま市民協働交流センター)	令和2年3月1日リニューアルオープン
	5	今津図書館	
医療・保健 ・福祉	6	高島保健所	
交通	7	近江今津駅	JR湖西線 普通・快速・新快速、 JR西日本 特急サンダーバード
	8	今津港（琵琶湖汽船(株)観光船のりば）	令和2年3月22日リニューアルオープン
国出先 機関	9	大阪国税局 今津税務署	
	10	高島簡易裁判所	
	11	大津家庭裁判所 高島出張所	
	12	大津地方法務局 高島出張所	
その他	13	高島警察署	
	14	今津郵便局	



図 生活・文化、産業関係施設の分布

② 防災

今津駅周辺地域において、水害・土砂災害の危険性が考えられるものは水害であり、200年に一度の大雨（時間最大 131mm 程度の雨が降った場合）が発生した場合、浸水深は 0.5m～3.0m と想定され、内湖の埋立地を中心に想定浸水深が深くなっている。また、広域避難場所に指定されている「高島市民会館」「今津東コミュニティセンター」は、想定浸水深 2.0m となっている。

琵琶湖の洪水浸水想定は 0m～2.0m であり、JR 沿線から東にかけての区域において、浸水深が深くなっている。

地震リスクについては、震度 6 弱～6 強と想定されており、内湖の埋立地（南沼・北沼）周辺において、震度が強いとの想定がされている。

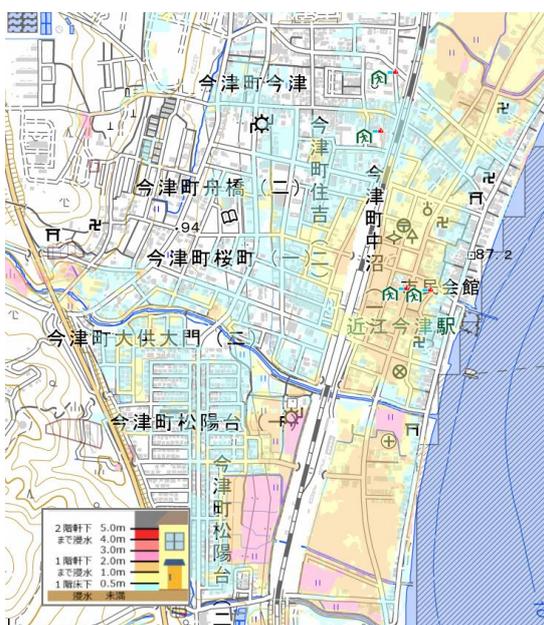


図 地先の安全度マップ(最大浸水深 1/200 年確率)

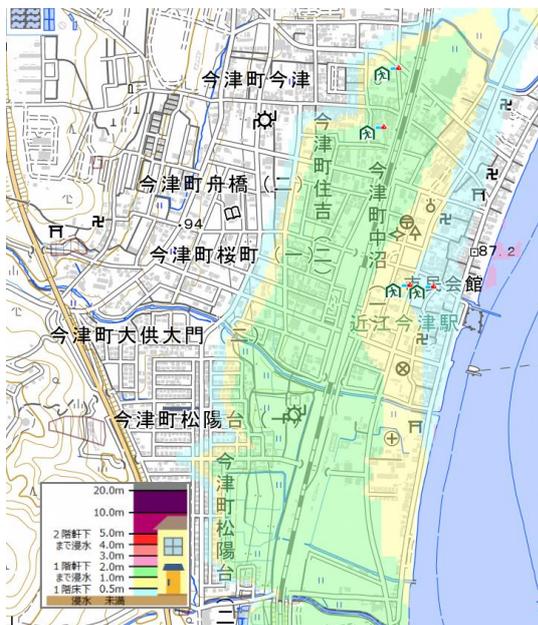


図 琵琶湖 洪水浸水想定区域図(想定最大規模)

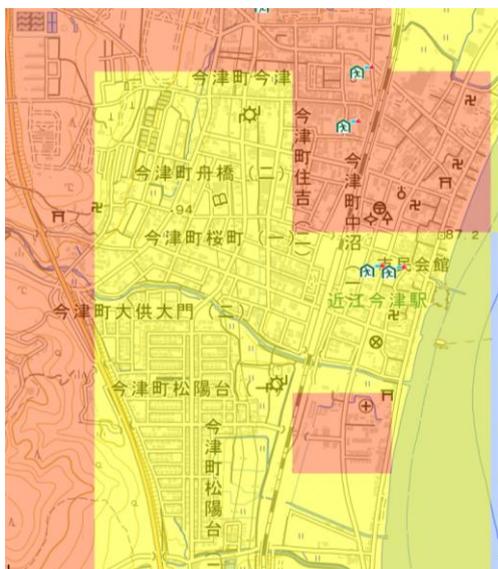


図 推定震度分布(全地震最大)

	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震性の低い建物は揺れの揺れがせきせきに激しくなる ・耐震性の低い建物も揺れが大きい ・はたは倒壊の恐れがある ・揺れが大きい建物には、耐震性の低い建物は、倒壊の恐れがある
	<ul style="list-style-type: none"> ・立てているが倒壊の恐れがある ・揺れが大きい建物には、耐震性の低い建物は、倒壊の恐れがある ・揺れが大きい建物には、倒壊の恐れがある
	<ul style="list-style-type: none"> ・物につかまらないと倒壊の恐れがある ・揺れが大きい建物には、倒壊の恐れがある ・揺れが大きい建物には、倒壊の恐れがある
	<ul style="list-style-type: none"> ・大勢の人が居る中で倒壊の恐れがある ・揺れが大きい建物には、倒壊の恐れがある ・揺れが大きい建物には、倒壊の恐れがある
	<ul style="list-style-type: none"> ・揺れが大きい建物には、倒壊の恐れがある ・揺れが大きい建物には、倒壊の恐れがある ・揺れが大きい建物には、倒壊の恐れがある
	<ul style="list-style-type: none"> ・揺れが大きい建物には、倒壊の恐れがある ・揺れが大きい建物には、倒壊の恐れがある ・揺れが大きい建物には、倒壊の恐れがある
	<ul style="list-style-type: none"> ・揺れが大きい建物には、倒壊の恐れがある ・揺れが大きい建物には、倒壊の恐れがある ・揺れが大きい建物には、倒壊の恐れがある
	<ul style="list-style-type: none"> ・揺れが大きい建物には、倒壊の恐れがある ・揺れが大きい建物には、倒壊の恐れがある ・揺れが大きい建物には、倒壊の恐れがある
	<ul style="list-style-type: none"> ・揺れが大きい建物には、倒壊の恐れがある ・揺れが大きい建物には、倒壊の恐れがある ・揺れが大きい建物には、倒壊の恐れがある

表 防災拠点

種別	番号	施設名	トピック
物資集積拠点 (輸送拠点)	1	今津港	広域湖上輸送拠点
	2	今津漁港	広域湖上輸送拠点
防災路線	3	県道 海津今津線 (今津町弘川～今津町今津)	第1次緊急輸送道路 第2次緊急輸送道路
	4	県道 安曇川今津線 (今津町今津～安曇川町北船木)	第2次緊急輸送道路
	5	市道 橋線 (今津町今津名沼1丁目～今津町今津)	第2次緊急輸送道路
広域避難所	6	高島市民会館	
	7	今津東コミュニティセンター	
	8	今津東保育園	

出典：高島市地域防災計画



図 防災拠点

③ 交通

今津駅周辺地域における交通機関として、市内外・他府県をつなぐ鉄道・路線バスの他、市内を運行するコミュニティバス・予約乗合タクシー、観光を主な目的とした船・レンタサイクル・レンタカーがある。

【鉄道】

当地域内で運行される鉄道として JR 湖西線があり、近江塩津・敦賀方面と堅田・京都方面を結んでいる。近江今津駅は市内唯一の特急停車駅であり、広域的な利用もみられる。

各方面への所要時間は、敦賀駅へは特急利用で約 20 分、新快速利用で約 35 分、京都駅へは特急利用で約 35 分、新快速利用で約 50 分である。近江塩津・敦賀方面へは平日・土日祝ともに 1 日あたり 25 本（うち特急 4 本）、堅田・京都方面へは平日 1 日あたり 32 本（うち特急 3 本）、土日祝 1 日あたり 33 本（うち特急 3 本）が運行している。

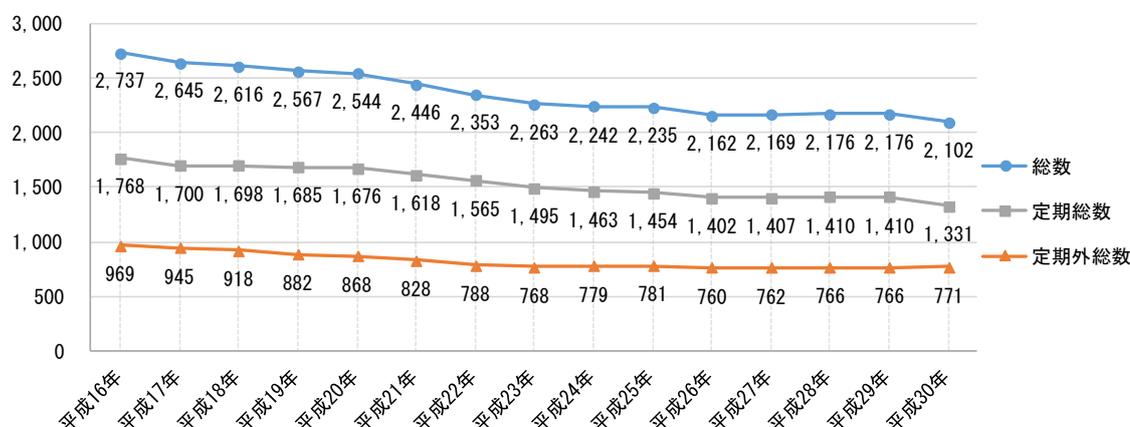
近江今津駅における乗降客数（1 日あたり）は、平成 30 年（2018）現在、4,204 人、うち定期券外が 1,542 人で、経年推移は、定期、定期外共に横ばいから微減傾向である。

駅前には福井ナンバーの自動車が停車しており、福井県からの鉄道利用者もみうけられる。

表 JR 近江今津駅停車本数（令和 3 年 3 月改正時点）

方面	行先	1 日あたりの本数	
		平日	土日祝
敦賀方面 近江塩津・	永原	〈普通〉 4 本	〈普通〉 4 本
	米原	〈普通〉 1 本	〈普通〉 1 本
	近江塩津	〈普通〉 5 本	〈普通〉 5 本
	敦賀	〈普通〉 1 本 〈快速〉 1 本 〈新快速〉 8 本	〈普通〉 1 本 〈快速〉 1 本 〈新快速〉 8 本
	福井	〈普通〉 1 本	〈普通〉 1 本
	金沢	〈特急〉 4 本	〈特急〉 4 本
京都方面 堅田・	京都	〈普通〉 19 本	〈普通〉 20 本
	大阪	〈特急〉 3 本	〈快速〉 1 本 〈新快速〉 2 本 〈特急〉 3 本
	姫路	〈快速〉 1 本 〈新快速〉 9 本	〈新快速〉 5 本
	網干	—	〈新快速〉 2 本

出典：JR 西日本



出典：高島市統計書・運輸

図 JR 近江今津駅乗客数推移

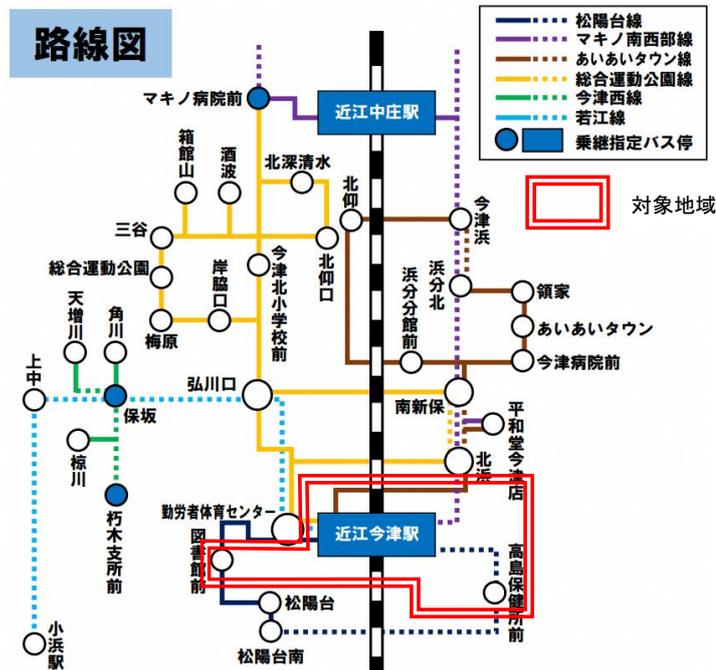
【路線バス・コミュニティバス・予約乗合タクシー】

当区域内を運行する公共交通機関には、市内を循環するコミュニティバス・予約乗合タクシー、小浜までを範囲とする広域の路線バスがある。コミュニティバス・予約乗合タクシーの運行本数は、平日と土日祝とでは平日の方が1本多い程度の違いであり、1日あたり3~11本が運行している。広域路線バスは平日・土日祝、上下線ともに1日あたり13本が運行している。

表 路線バス・コミュニティバス・予約乗合タクシー運行概要

路線		1日あたりの本数	
		平日	土日祝
高島市コミュニティバス 総合運動公園線	南回り	4本	3本
	北回り	7本	6本
予約乗合タクシー あいあいタウン線		11本	10本
予約乗合タクシー 松陽台線	南回り	7本	7本
	北回り	7本	6本
予約乗合タクシー マキノ南西部線	近江今津駅-近江中庄駅	6本	6本
	近江中庄駅-近江今津駅	6本	6本
JRバス若江線（近江今津駅-小浜駅）	上り	13本	13本
	下り	13本	13本

出典：高島市HP 暮らしの情報 交通 市内バス・乗り合いタクシー時刻表・路線図



出典：高島市HP 暮らしの情報 交通 市内バス・乗り合いタクシー時刻表・路線図

図 コミュニティバス・コミュニティタクシー路線図

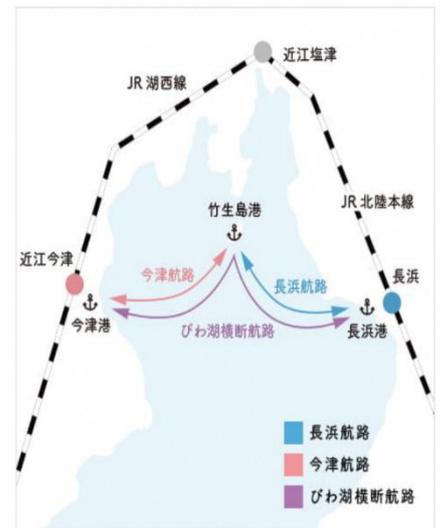
【船】

当地域内には今津港があり、観光を主な目的に今津港と竹生島港を往復する今津航路、今津港・竹生島港・長浜港を結ぶびわ湖横断航路のクルーズ船が、琵琶湖汽船によって航行されている。今津航路の運行本数は、1日あたり通常期間4～5本で冬季は2～3本、びわ湖横断航路は、1日あたり5本が運行し、冬季は運休している。

今津港における乗客総数は、年々増加を続けており、令和元年が最も多くなっている。また、月別では、4月が最も多く、5月、10月と続き、2月が最も少なくなっている。

表 琵琶湖汽船竹生島クルーズ概要

航路		1日当本数		料金
		平日	土日祝	
今津航路 (今津港-竹生島港往復)	通常期間 4/1~12/6 3/7~3/31	4本	5本	大人 2,640円 学生 2,120円 小学生 1,320円
	冬季期間 12/7~12/25 1/4~3/5	2本	2本	
	年末年始 12/26~1/3	3本	3本	
びわ湖横断航路 (今津港-竹生島-長浜港)	冬季期間 (12/7~3/6) は運休	5本	5本	大人 2,880円 学生 2,300円 小学生 1,440円
びわ湖横断航路 (長浜港-竹生島-今津港)		5本	5本	

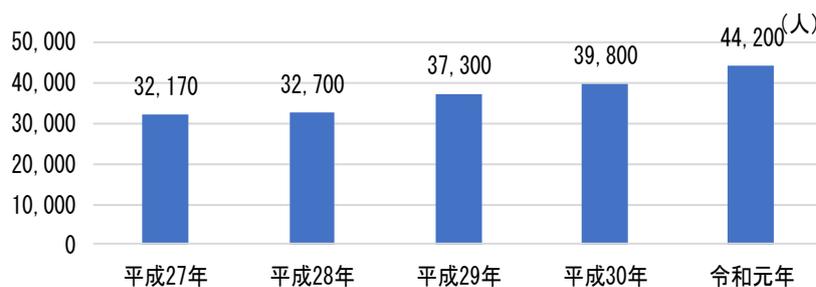


出典：琵琶湖汽船 HP 竹生島クルーズ

表 琵琶湖汽船乗客数推移

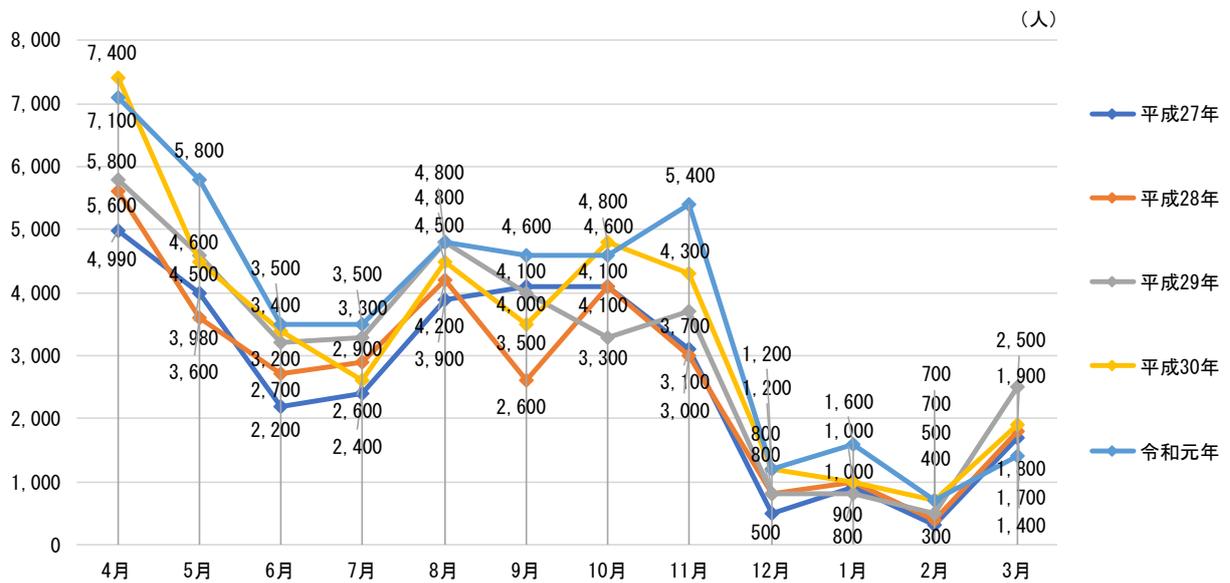
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年	4,990	3,980	2,200	2,400	3,900	4,100	4,100	3,100	500	900	300	1,700	32,170
平成28年	5,600	3,600	2,700	2,900	4,200	2,600	4,100	3,000	800	1,000	400	1,800	32,700
平成29年	5,800	4,600	3,200	3,300	4,800	4,000	3,300	3,700	800	800	500	2,500	37,300
平成30年	7,400	4,500	3,400	2,600	4,500	3,500	4,800	4,300	1,200	1,000	700	1,900	39,800
令和元年	7,100	5,800	3,500	3,500	4,800	4,600	4,600	5,400	1,200	1,600	700	1,400	44,200
合計	30,890	22,480	15,000	14,700	22,200	18,800	20,900	19,500	4,500	5,300	2,600	9,300	

出典：琵琶湖汽船株式会社



出典：琵琶湖汽船株式会社 (※令和2年は4~6月)

図 琵琶湖汽船乗客数推移 (年別)



出典：琵琶湖汽船株式会社

図 琵琶湖汽船乗客数推移（月別）

【その他の域内交通】

当地域内にある上記以外の域内移動手段としては、レンタサイクル、レンタカー、タクシーがあります。レンタサイクル貸出所、レンタカー貸出所、タクシー営業所は、駅周辺にあり、電車での来訪者が容易に利用できる状況にある。

(4) 市民活動団体

今津駅周辺地域において、観光・まちづくりに関する活動を行う市民団体は、居住地域の共有空間を維持管理する「地縁組織活動」、事業を通して観光・まちづくりの活動を行う「事業系活動」、地域資源の保存・活用を目的とした「テーマ別活動」の3つに分類できる。

① 地縁組織活動

当地域内での活動を行う地縁組織としては、自治会があり、各自治会の対象範囲内にある川や辻子など共有空間の管理やコミュニティの維持や活性化の活動を行っている。

② 事業系活動

市内全域を対象として活動する団体として、公益社団法人びわ湖高島観光協会（以下、観光協会）、高島市商工会（以下、商工会）がある。観光協会では、高島市内の観光・物産に関する情報発信、観光客の受入体制の整備・調整を主な業務として行い、商工会では、高島市特産品の情報発信を行っている。

当地域で活動を行う団体としては、名小路商店街、今津町農業協同組合がある他、まちづくり・地域活性化を見据えて事業を展開する民間企業等がある。

③ テーマ別活動

当地域内にある観光施設ごとに施設の管理運営を行う団体があり、来訪者へ向けた施設案内の他、地域住民を主な対象としたイベント開催を行っている。また、来訪者を対象に、当地域の観光資源をつなぐまちあるきコースを案内する団体も活動している。

表 市民活動団体

分類	団体名	活動概要
地縁組織活動	自治会	・川普請など、地域内共有空間の維持管理
事業系活動	高島市商工会	・高島市の特産品に関する情報発信 ・発酵をテーマとした情報発信に力を入れている
	公益社団法人びわ湖高島観光協会	・高島市内の観光地の情報発信 ・受入体制（ガイドグループ、宿など）の整備・調整 ・他都市と連携したパッケージツアーの開発
	名小路商店街	・地域活動団体主催の地域住民を対象としたイベント開催の協力 ・浜通り、辻川通りの商店が移転・支店開業することで作られた商店街 ・平和堂内今津ショッピングセンターにも支店を出しており、商店街自体は活気がない状態
	今津町農業協同組合	・農業祭をはじめ、各種農業関連イベントや、地域活動への協賛・後援を行う
	有限会社橋本燃料	・たかしま油田プロジェクトとして、地域内で排出される廃油をバイオディーゼルに生成する事業を行う
	株式会社モアイ	・琵琶湖のありのままの姿に魅力を感じ、当地域内で古民家を活用したカフェや旅館を経営。 ・ほどよい賑わいのあるまちづくりを念頭に置きながら事業を展開 ・今後、浜通りを中心に上質な宿泊施設や飲食店を増やし、事業を進める予定
	びわ湖ブルワリー株式会社	・クラフトビールの製造販売、その他物販 ・地域活性化を目指して事業を展開
テーマ別活動	VIPO ヴォーリス今津郵便局の会	・旧郵便局の建物を補修・保存し、活用（コンサートなどイベント開催）することで、旧郵便局に対する地域住民の愛着を高める活動を行う ・寄付、クラウドファンディング、補助金を原資として活動を進める ・登録会員は約 100 名、うち活動会員は約 30 名、うちコア会員は約 10 名。 ・旧郵便局は個人所有のため、所有者の意向によっては、突然の活動中止が考えられる。会員を増やし、活動を広げ、郵便局の保存と活用を続けることを課題とする
	江若鉄道近江今津駅舎の会	・令和元年（2019）の江若鉄道近江今津駅跡解体決定を受け、保存を目的に結成された会 ・廃線ウォーキングや駅舎の思い出を語り合うなどイベントを催して地域資源としての存在を示すとともに、活用方法を提示した保存要望を所有者に提出し、会として保存を請願している ・会員は 7～8 名 ・令和 3 年（2021）2 月に文化財登録の申請を予定
	今津ガイド勉強会	・JR Discover West ハイキングのガイドツアーとして、来訪者を対象に歴史に沿ったまち案内を行う（3～11 月の第 1・3 土曜日 10～12 時、約 2km） ・観光協会から依頼される年数回のバスツアーでのガイドも行う ・ガイドに必要な勉強を行い、ツアー参加者用の冊子を作成 ・メンバーは、70～80 歳代の 5 名であり、会存続の危機を感じている
	New Era Oasis	・平成 15 年（2003）より今津ヴォーリス資料館の指定管理を担う ・来訪者へのヴォーリスの説明、地域住民に対する居場所提供を行う ・所蔵数、サービス内容より入場無料としており、飲食物販売による売上金により、館内の補修費を賄う ・情報発信や今後の活動内容の拡充を課題としている

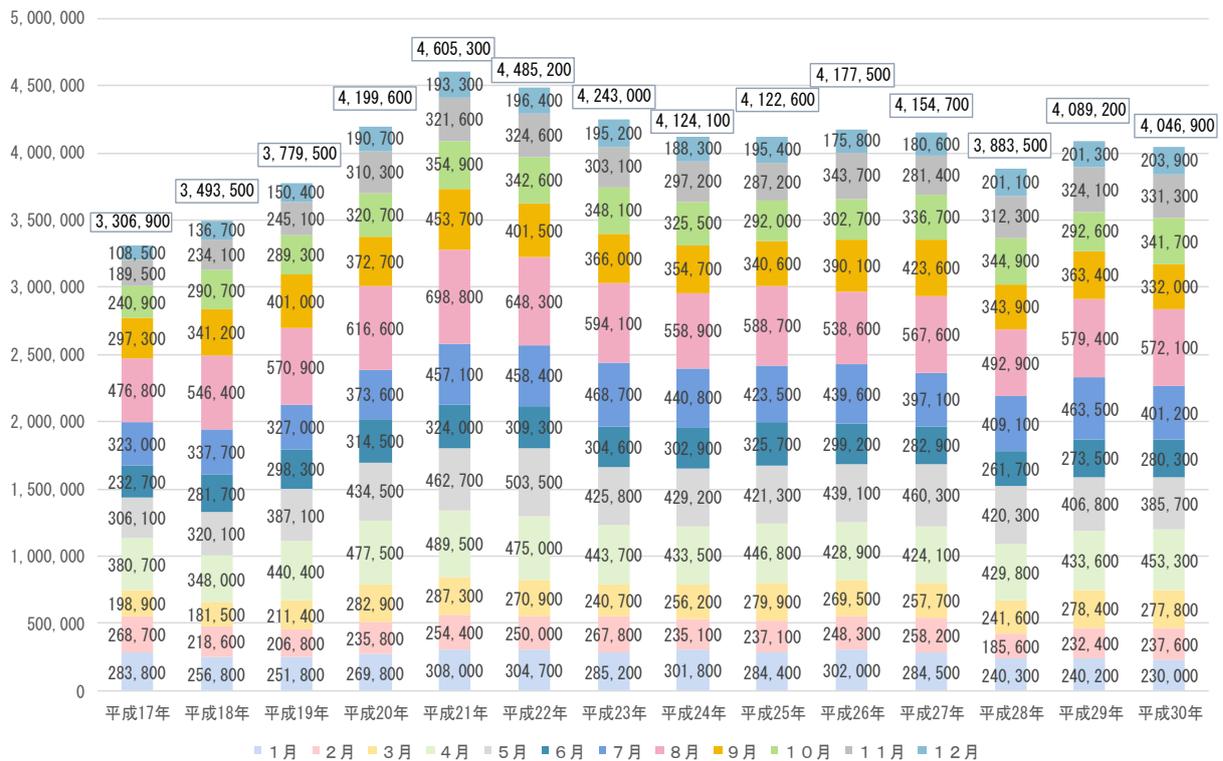
2. 観光・交流の現状

(1) 観光客

高島市全体としては、公園やキャンプ場など自然をテーマとした目的に、また、外国人旅行者には歴史をテーマとした目的に人気があります。当地域ともに観光客数は減少傾向にあります。

① 観光客数

増加を続けてきた高島市の観光客数は、平成 21 年に約 460 万人でピークを迎え、その後減少して最近では 410 万人前後で横ばいとなっている（平成 30 年（2018）までのデータ）。

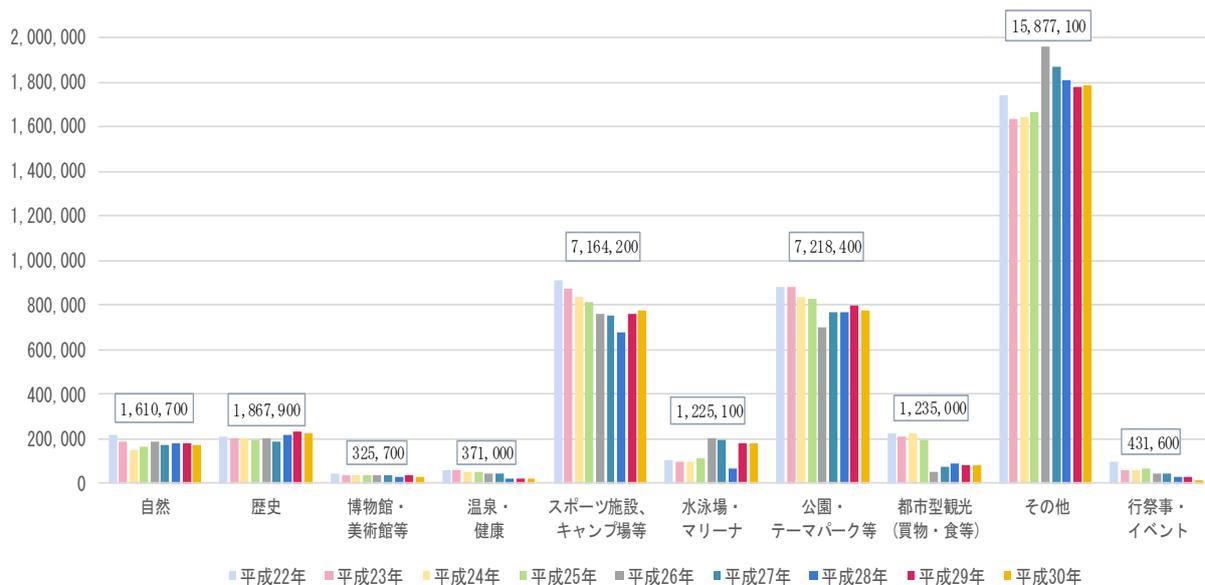


出典：高島市資料

図 高島市月別観光客入込客数の推移

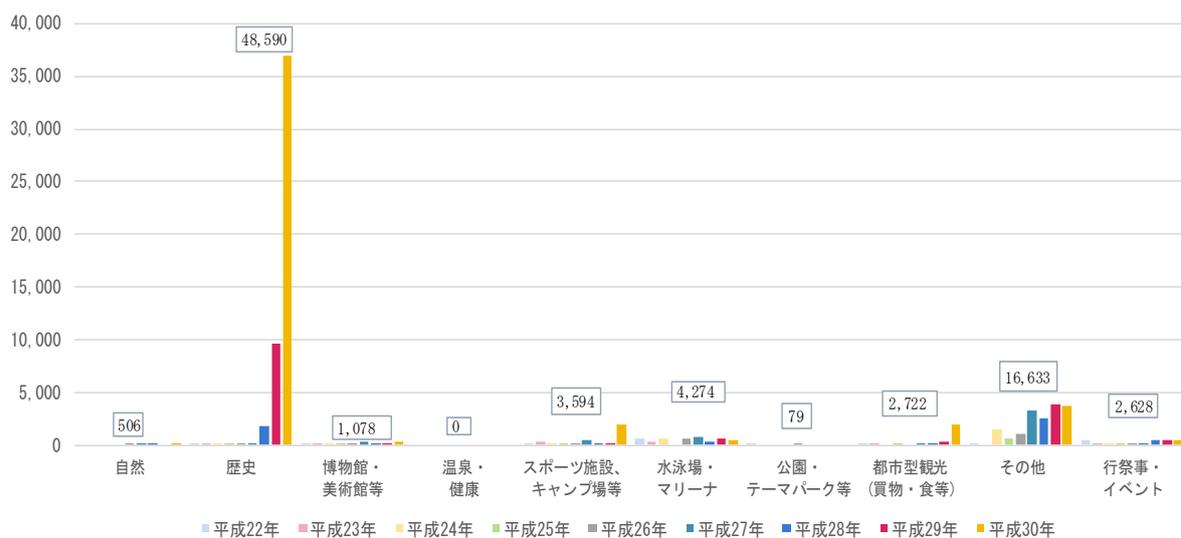
目的別の観光客数は、「その他」が最も多く、「公園・テーマパーク等」「スポーツ施設・キャンプ場等」に人気がある。令和2年(2020)7月にリニューアルオープンした「びわ湖箱館山」(旧 箱館山ゆり園)による来訪者増加が期待されている。

外国人観光客については、平成27年(2015)頃から増加しており、「歴史」を目的とした来訪に人気があることが伺える。



出典：高島市資料

図 高島市目的別観光客入込客数の推移

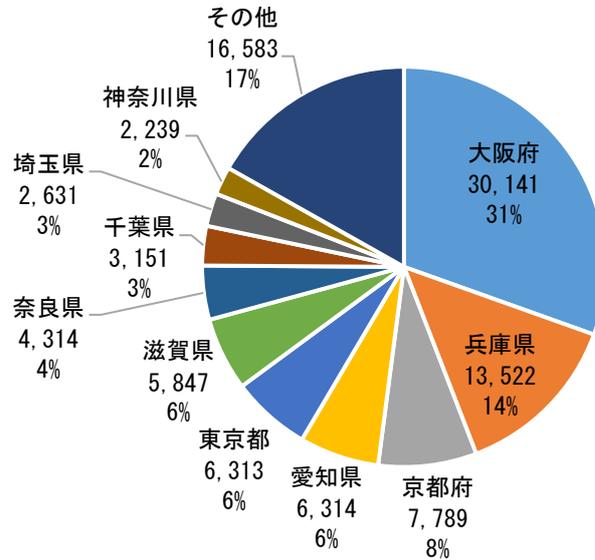


出典：高島市資料

図 高島市目的別観光客(外国人)入込客数の推移

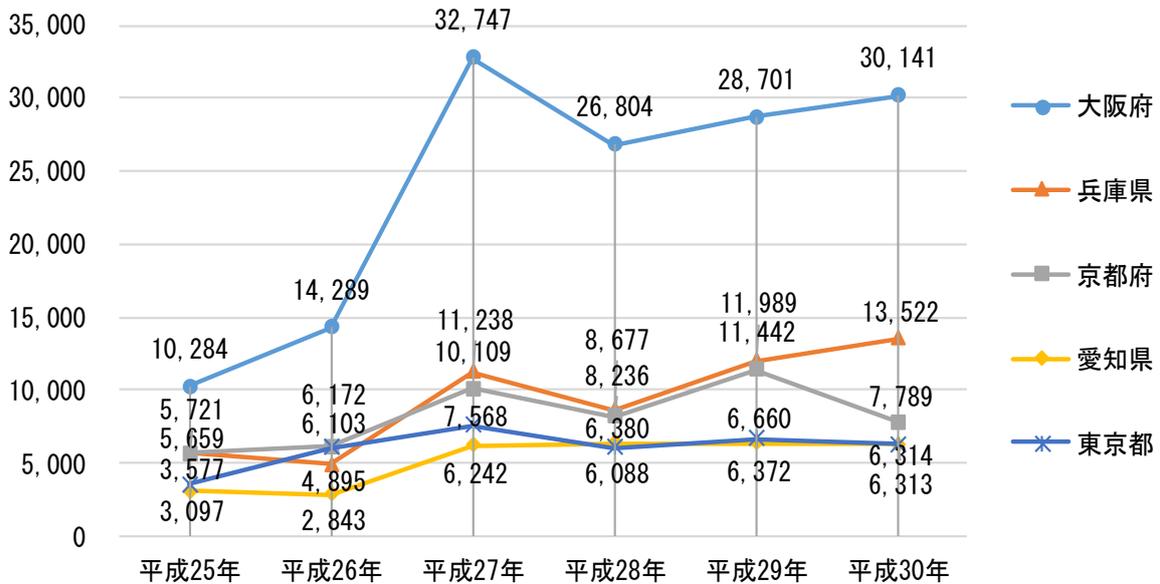
② 来訪目的、出発地、来訪手段

高島市への来訪者は大阪府からが最も多く、これに兵庫県、京都府と近畿圏内からのものが多く、過去からの推移をみても、大阪府からの来訪者が最も多くなっている。一方、愛知県、東京都と近畿圏外からの来訪もみられるが、隣接する福井県からは少ない。



出典：観光予報プラットフォーム推進協議会

図 平成 30 年（2018）居住都道府県別の延べ宿泊者数



出典：観光予報プラットフォーム推進協議会

図 居住都道府県別の延べ宿泊者数の推移

(2) 観光対象

高島市内の観光対象としては、白鬚神社やメタセコイア並木等、写真映えする資源が有名であり、自然に関する資源が多い。一方で、今津駅周辺地域では、史跡や水に関する資源が多くみられる。特産品としては、高島市、今津駅周辺地域ともに、川魚をはじめとした魚の加工品が挙げられる。

① 観光資源

1) 高島市

【観光対象資源】

高島市の観光資源において、代表的なものは、白鬚神社、メタセコイア並木、マキノ農業公園、海津大崎、針江生水の郷、滋賀県立びわ湖こどもの国が挙げられる。全国観光資源台帳（公益財団法人日本交通公社）に基づく属性毎に分類すると、「テーマ公園・テーマ施設」「湖沼」など自然に関する資源が多くある。

表 高島市内観光資源（観光対象資源）

分類	名称（市内地域別）
池・湖沼	淡海湖＜処女湖＞（今津）、今津浜水泳場（今津）、針江の生水（新旭） 乙女ヶ池（高島）、萩の浜（高島）、大溝の水辺景観（高島）
山	中央分水嶺高島トレイル（マキノ、今津、朽木）、蛇谷ヶ峰（朽木）
河川・渓谷	安曇川の築漁（安曇川）、小入谷（朽木）
滝	八ツ淵の滝（高島）
植物	ザゼンソウ群生地（今津）、生杉ブナ原生林（朽木）、メタセコイア並木（マキノ）、 海津大崎の桜（マキノ）
史跡	藤樹書院・良知館（安曇川）
神社・寺院・教会	シコブチ信仰（安曇川）、酒波寺（今津）、阿志都弥神社・行過天満宮（今津） 興聖寺（朽木）、白鬚神社（高島）、鶴川四十八体石仏群（高島）、大崎寺（マキノ）
城跡・城郭・宮殿	清水山城館跡（新旭）、大溝城跡（高島）
集落・街	市場の町並み（朽木）、大溝の城下町（高島）、海津の町並み（マキノ）
郷土景観	畑の棚田（高島）、海津・西浜・知内の水辺景観（マキノ）
庭園・公園	森林公園くつきの森（朽木）
年中行事	川上祭（今津）、七川祭（新旭）、大溝祭（高島）、海津力士祭（マキノ）
博物館・美術館	近江聖人中江藤樹記念館（安曇川）、新旭水鳥観察センター（新旭）、 高島歴史民俗資料館（高島）、朽木資料館（朽木）、マキノ資料館（マキノ）、 白谷荘歴史民俗博物館（マキノ）
テーマ公園・ テーマ施設	近江白浜（安曇川）、びわ湖畔リゾート白浜荘（安曇川）、 滋賀県立びわ湖こどもの国（安曇川）、びわ湖箱館山（今津）、箱館山スキー場（今津）、 家族旅行村ピラデスト今津（今津）、リバーランズ角川（今津）、 グリーンパーク思い出の森（朽木）、朽木オートキャンプ場（朽木）、 朽木スキー場（朽木）、六ツ矢崎浜オートキャンプ場（新旭）、STAGEX 高島（新旭）、 フィッシングパーク高島の泉（新旭）、ガリバー青少年旅行村（高島）、 琵琶湖里山オートキャンプ場（マキノ）、高木浜オートキャンプ場（マキノ）、 知内浜オートキャンプ場（マキノ）、マキノ高原（マキノ）、 マキノ農業公園ピックランド（マキノ）、マキノサニービーチ（マキノ）、 マキノ高原ファミリースキー場（マキノ）、国境高原スノーパーク（マキノ）
温泉	宝船温泉（安曇川）、朽木温泉てんくう（朽木）、マキノ高原温泉さらさ（マキノ）、 マキノ白谷温泉八王子荘（マキノ）
道の駅	マキノ追坂峠、藤樹の里あどがわ、くつき新本陣、しんあさひ風車村

【特産品】

高島市内の特産品としては、地酒や醤油などの発酵食品のほか、川魚をはじめとした魚の加工品、扇子などがあり、郷土料理には、味付けかしわの「とんちゃん」、湯立てによる炊込みご飯「しょいめし」がある。

表 高島市内観光資源（特産品）

分類	名称（市内地域別）
特産品	地酒（高島、新旭、今津、マキノ）、酢（高島）、醤油（安曇川、マキノ）、味噌（安曇川、朽木、高島）、鯖寿司・鮒ずし・川魚（安曇川、今津、マキノ、朽木）、湖魚佃煮（マキノ、今津、新旭、安曇川、高島）、近江牛（全域）、蕎麦（今津）、とちもち（朽木）、富有柿（今津）、アドベリー（安曇川）、高島いちじく（全域）、高島扇骨（安曇川）、高島ちぢみ（新旭）、帆布バッグ（新旭、安曇川）、雲平筆（安曇川）、和ろうそく（今津）
郷土料理	とんちゃん（高島市全域）、しょいめし（高島市全域）

出典：公益社団法人びわ湖高島観光協会、高島市商工会

2) 今津駅周辺地域

【観光対象資源】

当地域の観光資源としては史跡が多いほか、自然資源や神社・寺院、その他人物資源などにおいて、水に関わる資源がみられる。

表 当地域観光資源（観光対象資源）

分類	名称	概要
自然資源	琵琶湖	交通手段、食料供給、景観をはじめ、今津のまちの成り立ちに欠かせない存在
	天川	山から琵琶湖に通じる川、琵琶湖から遡上する魚の姿がみられる
	名水	琵琶湖周辺の地下水には硬水が多い中、辻川通りには7ヶ所の軟水の湧き水スポットがある
郷土景観	辻子	浜と浜通りをつなぐ小路、かつては生活用水を汲む人が行き交った。湖西では、海津、今津、打下でみられる
	浜石垣	琵琶湖の波除として金沢藩統治時代（1700年頃）に造成された約900mにわたる自然石の石垣。崩壊している部分については、コンクリートにて修復されている
史跡	琵琶湖周航の歌記念碑	平成6年に造成された小口太郎作「琵琶湖周航の歌」の歌詞が刻まれた石碑、湖北が見渡せる景色の美しい場所でもある
	中川橋梁と今津棧橋跡地	今津港全盛期の中心地であり、当時の様子の絵図と説明が立て看板に記されている
	金沢藩今津代官所跡	建物と浜をつないでいた自然石の石積みが残っている
	九里半街道起点	小浜と琵琶湖を結ぶ九里半街道の終起点。写真と説明が立て看板に記されている
	松谷末広堂前石碑	九里半街道沿いの石碑、「右わかさ」「左京」と記されている
社寺	日枝神社・大水別神社	2社合祀の神社で、邇邇芸命と天水分神を祀っている。毎年5月4日に行われる今津祭の祭礼神社の1つ
	泉慶寺	蓮如上人にまつわる伝説が残る寺、伝説にちなむ地藏菩薩が安置
	住吉神社	弘安元年創建、現社殿は明治12年造営。参拝者は湖上安全祈願を行い、今津祭の祭礼神社の1つ
集落・街	辻川通り	九里半街道の一部をなし、今津地域の旧2集落の1つで商店が並び、活気にあふれていた。平和堂開業後、賑わいが薄れている。ヴォーリズ建築が3軒あることから、一部、ヴォーリズ通りとの愛称が付けられている
	浜通り	宿場町として栄えた時代以降、宿、料理屋、置屋、問屋の倉庫などが立ち並んだ今津地域のかつての2集落のうちの1つ。商店と住宅、宿が立ち並び、琵琶湖側には辻子がみられる
建造物	日本基督教団今津教会会堂（旧今津基督教教会館）	ヴォーリズ建築事務所設計で、昭和9年日本基督教団今津教会会堂として建造された（登録有形文化財）、現在は幼稚園としても運営されている。見学不可
	旧今津郵便局	ヴォーリズ建築事務所設計で、昭和11年に今津郵便局舎として建造、昭和53年まで郵便局として使用され、一時倉庫として使われた後、現在、ヴォーリズ今津郵便局の会が借用し補修、活用中（登録有形文化財）
交通施設	今津港	琵琶湖汽船のクルーズ船乗り場、2020年3月リニューアルオープン。竹生島までの往復航路、竹生島を経由し長浜まで向かう片道航路の2航路がある
	近江今津駅観光案内所	観光協会が運営、駅周辺を始め、高島市、若狭の観光案内並びにレンタサイクルの貸出窓口

分類	名称	概要
美術館・博物館	琵琶湖周航の歌資料館	今津東コミュニティセンター内で、琵琶湖周航の歌、小口太郎、旧制第三高等学校水上部についての資料を展示。移転前は今津関連物販コーナーが併設されていたが、現在はない
	今津ヴォーリズ資料館	ヴォーリズ建築事務所設計で、大正 12 年に旧百三十三銀行今津支店として建造された（登録有形文化財）。ヴォーリズの作品や略歴などの展示に加え、まちなみ交流館として、地域住民を対象とした居場所づくりも担っている
庭園・公園	眺めの良い休憩所	琵琶湖沿いにあるタイル張りの休憩所、ベンチが設置されている
	ヴォーリズ公園	今津基督教会会堂の向かいにある公園。タイル張と芝生に分かれ、タイル部分にはベンチを設置
人文	琵琶湖周航の歌	大正 6 年に旧制第三高等学校水上部の小口太郎が作詞した歌。多くの有名歌手が歌い一世を風靡したが、時代とともに認知度が低下
宿泊施設	丁子屋	置屋として江戸後期に創業した旅館。現在は鴨料理を提供する予約制の飲食店として営業
	福田屋	明治初期創業（HP より）の料理旅館。数十年の休業を経て、令和 2 年にリニューアルオープン
	丸茂	海外からの来訪者にも対応する料理旅館、雉料理を提供している
施設 飲食	ひょうたん亭	手打ち二八そばの店。琵琶湖の風景を模した盛付けの「周航そば」を提供している
	Cafe LAC	商工会議所の事業により平成 19 年に開業したカフェ。琵琶湖を臨むテラスがあり、冬にはユリカモメが見られる。2 階は宿泊施設としての利用が検討されている

【特産品】

特産品として川魚の加工品を提供する店舗が多くある。その他、他地域には少ない産品とし和ろうそくがある。

表 今津駅周辺地域の主な観光資源（特産品）

分類	名称	概要
特産品	魚岩	川魚の加工販売店
	魚清	川魚の加工品販売店、創業 100 余年。先代は商工会の会長
	魚友商店	川魚の加工販売店
	西友	川魚の加工販売店、昭和 13 年（1938 年）創業。うなぎ料理をメインとしたレストラン経営も行う
	カネカク 藤橋商店	茶の販売店
	茂兵衛	こんにやく製造販売店、明治 20 年創業。とうふこんにやくを看板商品として販売する
	池本酒造	辻川通りの地下水を仕込み水として使用する造り酒屋、琵琶の長寿が看板商品。酒造りに杜氏を雇わず若旦那が行う
	近江手造り和ろうそく大興	大正 3 年創業の和ろうそく製造販売店、滋賀県伝統工芸品に認定。人数は限られるが、事前相談により、工房見学も可能
	今津銘菓ざぜん草もなか	小倉あん栗入り、抹茶あん栗入りの 2 種がある。今津地域の菓子店が考案し、各店舗で販売している



※飲食店・小売店については、湖魚、特産品を中心に抜粋。一般的な飲食店、小売店は省略した。

＜コラム＞ 浜石垣と辻子が特徴的な水辺空間

琵琶湖沿いには、金沢藩統治時代（1700 年前後）に新設された浜石垣が残っている。今津港からサンブリッジホテルあたりまで続くこの石垣、全長は約 900m で、波除のために造成されたそうである。琵琶湖岸に石垣がある地域としては海津が有名だが、ゆったりと砂浜を歩きながら楽しめる今津の石垣もまた、貴重な資源と考えられている。



浜石垣を上ると、数軒に 1 本まちへと続く小路がみられる。この小路は辻子（ずし）と呼ばれ、琵琶湖の水が生活用水として使われていた時代には、水を汲む住民たちが行き来していたそうである。浜からはまちが、まちからはキラキラ輝く湖が見える辻子。この辻子もまた、今津にとって大切な存在である。



一方で、場所によって自宅裏の浜や辻子を自身の敷地であるかのようにプライベートな空間として使われているところがあり、樹木や私物によって見えなくなっている石垣、通ってよいのかわからないような状態の辻子が見受けられる。琵琶湖とともに生活を営んできた今津のまちの共有財産として、大切に残していきたいものである。



② 周遊テーマ・ルート・プログラム

観光用パンフレットやオンラインサイトに記載されている周遊モデルルートとして、高島市では、戦国史跡をテーマにしたものが多く、その他に山間部のハイキングが紹介されている。

今津駅周辺地域を含む観光ルートは、「琵琶湖周航の歌」、「ヴォーリズ建築」を主なテーマとするものであり、周辺地域と連携したルートでは、竹生島めぐりやザゼンソウ群生地も含まれている。

表 当地域周遊テーマ・ルート・プログラム

ルート番号	周遊テーマ	立ち寄りポイント・プログラム																					
		近江今津駅(出発)	今津の浜通り	琵琶湖周航の歌資料館	琵琶湖周航の歌記念碑	今津港	今津漁港	辻子からの琵琶湖	泉慶寺(お初地蔵)	代官屋敷跡	湖畔散策	住吉神社	九里半街道起点	ヴォーリズ通り	今津ヴォーリズ資料館	日本基督教団今津教会	ヴォーリズ公園	旧今津郵便局	辻川通り	江若鉄道近江今津駅舎跡	和ろうそく大興	近江今津駅(終着)	
1	琵琶湖周航の歌 誕生のまち	○		○	○	○								○									○
2	湖西のモダン文化レトロな 建築物が並ぶヴォーリズ通り	○	○											○	○		○						○
3	琵琶湖を望む自然あふれるま ち、かつての賑わいを伝える 建物や食文化	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

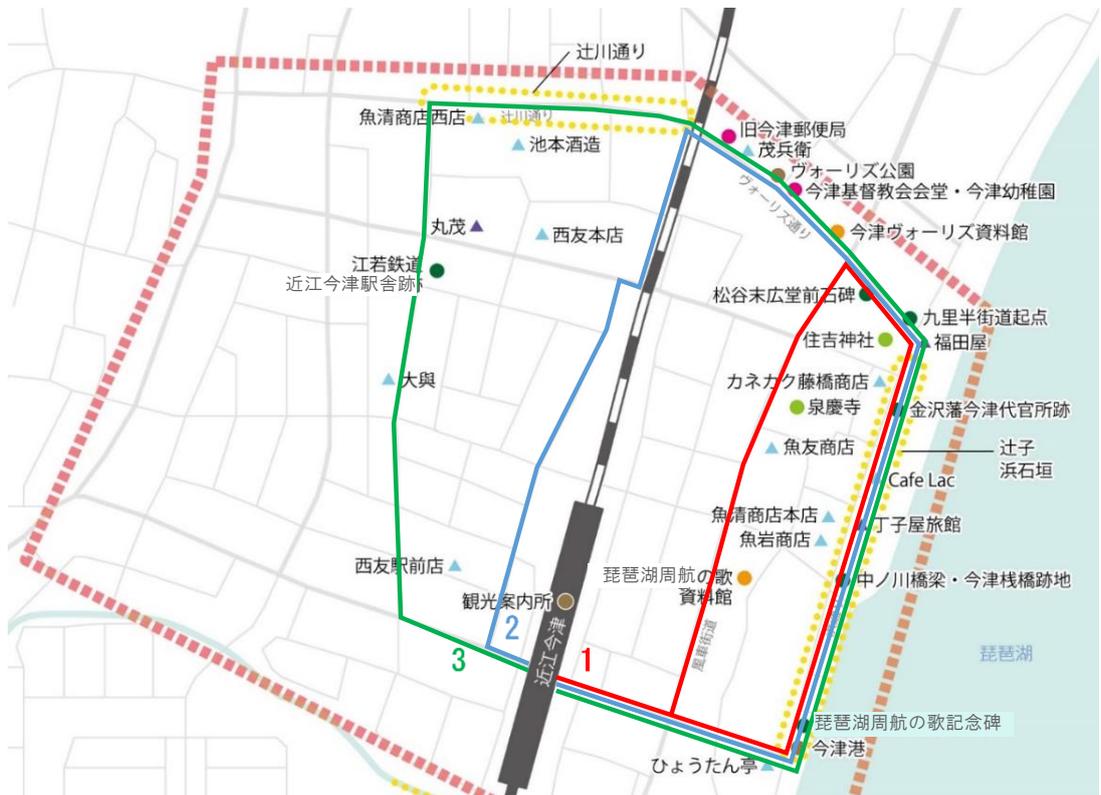


図 当地域周遊テーマ・ルート・プログラム

表 周辺地域と連携した周遊テーマ・ルート・プログラム

ルート番号	周遊テーマ	立ち寄りポイント・プログラム
4	ザゼン草鑑賞コース	○近江今津駅 ○ローラン名小路商店街 ○和ろうそく大興 ○江若鉄道近江今津駅舎跡 ・ 忠魂碑 ・ 阿志都弥神社・行過天満宮 ・ 宮の森公園 ・ ザゼン草群生地
5	高島メモリアルコース	・ 白鬚神社 ・ 記念品づくり①キャンドル or ハーバリウム（たかしまびれっじ） ・ ②マイオリジナル扇子（道の駅藤樹の里あどがわ） ・ 興聖寺 ・ グリーンパーク想いの森 <宿泊> ○琵琶湖周航の歌資料館 ○竹生島めぐり ・ びわこ箱館山 ・ メタセコイア並木 ・ マキノ農業公園マキノピックランド ・ たかしま・まるごと百貨店
6	自転車で走る自然豊かな湖岸	○近江今津駅 ○琵琶湖周航の歌資料館 ○今津港 ・ 湖岸の風景（新旭） ・ 道の駅しんあさひ風車村 ・ 船木港棧橋跡（安曇川） ・ たかしまびれっじ（高島） ・ 近江高島駅

※○は今津駅周辺地域の観光施設



図 周辺地域と連携した周遊ルート

(3) 来訪者が感じる「今津」のイメージ

写真共有サイト Instagram の投稿から、今津で感じたイメージや今津での行動に関係するものを絞り込み、写真、コメント内容（一部タグ付け内容を含む）をもとにキーワードを整理した。

<調査概要>

調査日 : 2021年9月15日

調査対象 : Instagramでの投稿

検索ワード : #近江今津 #近江今津

※

○自然の美しさを感じる景色としての琵琶湖

湖と空から夏らしい風景、湖の音や湖面の反射等の心惹かれる情景、川魚を育む環境等、琵琶湖が持つ自然環境としての魅力が投稿されている。

夏の琵琶湖	キレイな湖水
幻想的な琵琶湖	川魚が育つ素晴らしい環境
湖面がキラキラ	うなぎ産地
波の音に癒やされる	今津港からの琵琶湖
琵琶湖の音	ホテルから眺める湖
	風が強いと、湖なのに波がある

○アクティビティの場としての琵琶湖

サイクリング、ツーリング、ドライブ等、景色を楽しめる場所（ルート）として、また、湖水浴やマリンスポーツ、BBQ等、アクティビティが楽しめる場所として認識されている。

水辺の旅	コロナで湖水浴場が閉鎖されていた
琵琶湖一周の旅	手軽に湖水浴を楽しめる琵琶湖畔の住民が羨ましい
サイクリング・ポタリング	最高のBBQ
琵琶湖を眺めながらの原付ツーリング	初の水上市バイク
愛車で琵琶湖、今津へドライブ	今津と言えば箱館山と竹生島クルーズ
海ではないのに泳げる	

○取寄せ・贈答の商品

取寄せ・贈答の品として、うなぎ関連の商品についての投稿が多く見受けられる。

今津のお店の鰻ひつまぶしが最高	うなぎ茶漬が美味しい
お中元で今津のうなぎの蒲焼	「接待の手土産セレクション 2020」に選ばれた今津の
今津のうなぎと肝吸い	うなぎ茶漬

○お店やホテルで利用した商品・サービス

各店舗のお気に入りの商品、特徴的な名物商品について、おいしさやボリューム感が紹介されている。

今津の鰻の蒲焼	カボチャあんぱんが絶品
うなぎが食べたくて、ランチに近江今津へ	西瓜クッキーはデザインも味も一流
お昼ごはんの鰻が美味しかった	餡入り米粉ベーグルで朝ごはん
土用の丑の日に今津の鰻	すごいボリュームの唐揚げが美味しい
ランチに今津で鰻のひつまぶし	激ウマでボリュームミーな唐揚げランチ
夏バテ防止スタミナ補給に今津のうなぎ茶漬	安い美味しい定食屋さん
今津駅前の老舗喫茶店で待ち合わせ	クリームチーズあんこボールは驚愕の旨さ
昔ながらのナポリタンが有名な老舗喫茶店	サイクリング中、今津の自転車屋でパンク修理
駅前ビジネスホテルに宿泊	巨大なクレープは想像以上の大きさ
大浴場付きの駅前ホテル	今津のクラフト地ビールが楽しみ
駅前ホテルに泊まって近江牛すき焼き	
駅前ホテルの朝食は豪華	

○電車・駅

乗換駅、特急停車駅であり、交通結節点、電車が通る町として認識されている。また、車両の連結・切り離し作業を見られる駅、貴重な電車の出発駅、JR バスとの乗換駅である他、青春 18 きっぷで訪れたい駅など、鉄道マニアにとって情報発信をしたくなる駅と考えられる。

江今津駅は高島市のメインの駅	新快速 225 系
7 月 20 日は湖西線開業の日	連結、切り離しの瞬間が見られた
JR バスからの乗り換え	長浜から今津までの間で乗った 419 系が懐かしい
サンダーバードで敦賀から近江今津へ	湖西線は近郊区間大回りの定番コース
貫川内湖の水面に映るサンダーバード	1 日 1 本の近江今津発福井行きの貴重な列車
521 系	湖西線で新快速が高速走行
湖西線の 117 系	青春 18 きっぷで近江今津

○今津港・クルーズ船

西国三十三所めぐりを含む観光を目的に向かう竹生島への玄関口であり、琵琶湖を渡る船の搭乗場所として認識されている。また、竹生島が見える琵琶湖の風景も特徴的だと考えられる。

湖岸のホテルから竹生島が見える	往復きっぷを購入して乗船
夏空が印象的な近江今津港	竹生島、宝厳寺、唐門
今津から竹生島へ	
滋賀周遊クーポンでお得に乗船	

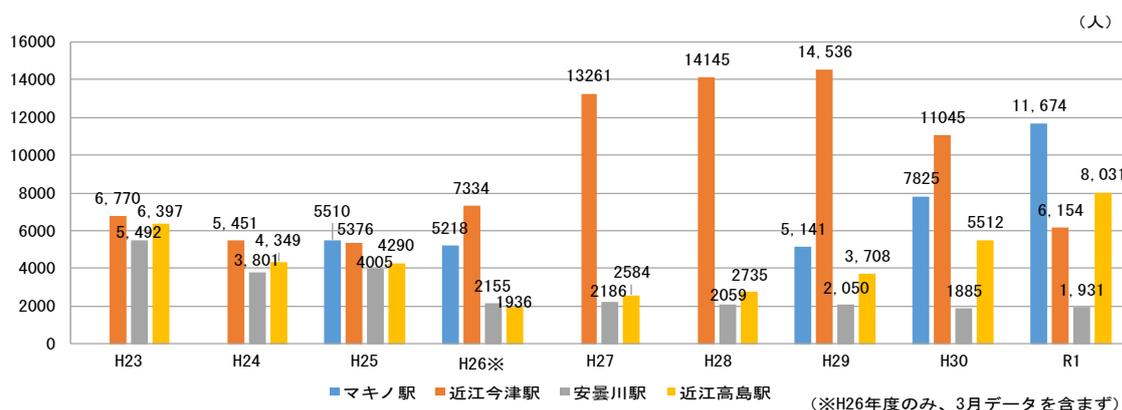
(4) 観光サービス、誘客施策

高島市全域に関する観光サービスとして、観光協会が運営するオンラインサイトがあり、市内の観光情報発信が行われている。また、市内各駅構内に設置される観光案内所では、来客者への観光案内が行われている。

① 情報提供、観光案内機能

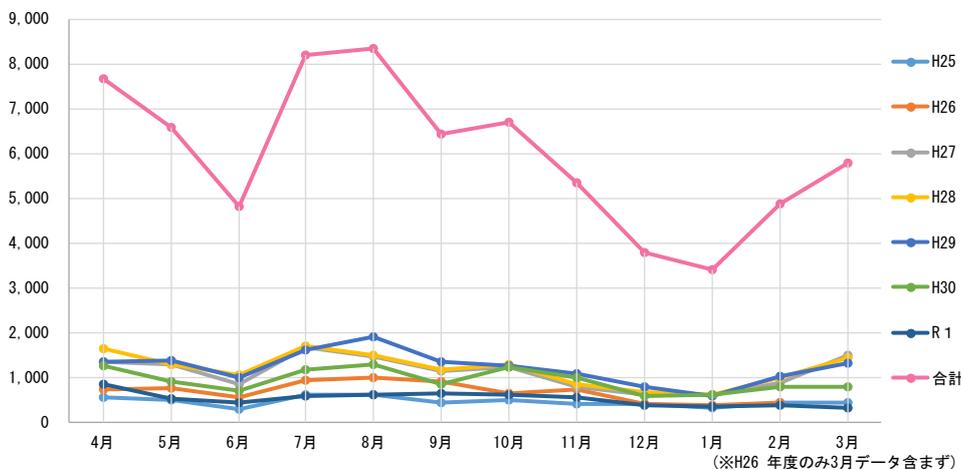
高島市内の各駅には、びわ湖高島観光協会が運営する観光案内所が設置されており（マキノ駅観光案内所はマキノツーリズムオフィスが運営）、来訪者への観光案内、レンタサイクルの貸出を行っている。近江今津駅構内の観光案内所では、近江今津駅周辺の他、竹生島クルーズや高島市内、若狭・小浜方面の観光案内を行っている。

各駅案内所における年別案内件数をみると、近江今津駅は、平成 29 年度（2017）にピークを迎え、その後減少に転じており、令和元年度（2019）には、マキノ駅、近江高島駅よりも少なくなっている。また、近江今津駅における月別案内件数（平成 26 年度は 3 月のみデータなし）をみると、8 月が最も多く、次いで 7 月、4 月、10 月、5 月となっている。来訪者は、梅雨時期、寒い時期に減少し、ザゼンソウが咲き始める 2 月に増加し始めると考えることができる。



出典：公益社団法人びわ湖高島観光協会

図 高島市内各駅観光案内所における年別案内件数



出典：公益社団法人びわ湖高島観光協会

図 近江今津駅観光案内所における月別案内件数

高島市が公式にオンラインで提供する観光情報として、観光協会による「びわ湖高島観光ガイド」があり、その中で、今津駅周辺地域の情報については、以下の通り整理されている。

表 びわ湖高島観光ガイドにおける掲載情報

ページ項目		当地域についての掲載情報
高島はやわ かり	高島市について	—
	おすすめ特集	・物産品-食特集-発酵食品-地酒 琵琶の長寿（池本酒造）
	エリアガイド	・今津を楽しむ-「琵琶湖周航の歌」誕生のまち 今津 ・モデルコース（下部に記載）
	旬の特集	・Blue Green- Cycling, Running, Walking-高島ロングライド100
観光スポッ ト	自然	—
	観る	・ヴォーリズ通り ・今津の浜通り ・今津ヴォーリズ資料館 ・琵琶湖周航の歌資料館 ・琵琶湖周航の歌碑 ・お初地蔵（泉慶寺）
	遊ぶ	・今津港（観光船乗り場）
	体験	—
	食べる・買う	・今津ヴォーリズ資料館 ・琵琶湖周航の歌資料館 ・近江手造り和ろうそく 大與 ・有限会社カネカク藤橋商店 ・茂兵衛 ・琵琶の長寿・池本酒造 ・周航そば・ひょうたん亭 ・Cafe Lac ・喫茶パロマ ・和食 Kitchen しみず ・Cafe Cozy ・喫茶&軽食きく ・近江今津 西友本店 ・西庵
	道の駅	—
泊まる	・ホテル可以登・可以登楼別館 ・丸茂旅館 ・福寿旅館	
食べる・買う	（上部記載）	
泊まる	（上部記載）	
イベント	イベント	・近江今津駅から始まる「まちなか」ガイド
	ツアー一覧	—
	フォトコンテスト	—
インフォメ ーション	お知らせ	—
	知っ得!!情報	—
	ブログ	—
モデルコース	・琵琶湖周航の歌誕生のまち 近江今津散策コース ・大切な人と行く 高島メモリアルコース ・今津エリア	
フォトライブラリ	—	
アクセス	—	
ブルーグリーン	・Cycling, Running, Walking-高島ロングライド100	
お問い合わせ	—	
お役立ちガ イド	学校様向け	・モデルプラン-各種合宿-ホテル可以登（音楽・高校生・大学生 各種合宿、大学生・企業オリエンテーション） ・ご宿泊-ホテル可以登 ・緊急対応機関-高島警察署
	観光案内所	・JR 近江今津駅構内観光案内所
	観光ガイド	・今津エリア-今津ガイド勉強会
バス時刻表	・高島市バス・予約乗り合いタクシーのご案内-高島市 HP リンク	
レンタサイクル	・レンタサイクル貸出&返却窓口-JR 近江今津駅構内観光案内所 ・モデルコース-レンタサイクルおすすめモデルコース、高島市サイ クリングマップ「高島ロングライド100」	
バリアフリー対応情報	・琵琶湖周航の歌資料館 ・今津ヴォーリズ資料館	
パンフレット ダウンロード	・びわ湖高島観光 Navi ・びわ湖高島周遊ガイドブック ・Blue Green ・びわ湖たかしま旅季行 ・駅から MAP マキノ & 今津エリア ・高島今昔旅 ・ソウルフルロード ・若狭路湖西ぐるっと周遊まんぞくマップ	

出典：公益社団法人びわ湖高島観光協会

② 観光キャンペーン

観光協会は、高島市全体では小入谷の雲海やびわ湖箱館山など話題性の高い観光資源に力を入れており、観光ルートと同様に戦国史跡めぐりの他、アウトドアフォトコンテストを行うなど、時代のニーズに合わせたキャンペーンを打ち出している。

今津駅周辺地域については、竹生島クルーズに着目し、来訪者の滞在時間を長くし、宿泊を伴う観光商品を長浜市と共働して提案している。

③ 高島市と地域の取組

今津町中小小売商業高度化事業構想（今津町TMO構想、平成 16 年）に基づき、辻川通り・浜通りの案内看板や町家活用チャレンジショップ（現在は閉店）などが実現した。

最近の今津駅周辺地域内での観光に関わる大きな出来事として、2020 年 3 月に琵琶湖汽船株式会社による今津港のリニューアルオープンが行われた。

また、同年 4 月には、琵琶湖周航の歌資料館が今津港前から今津東コミュニティセンターへ移転した。移転に伴い展示スペースが拡張されたことで、展示資料数、展示内容とも充実し、今津が誇る貴重な文化資源の普及と次世代への継承が行われている。

今津地域とつながる琵琶湖岸では、風車村のグランピング施設、鴨川河口湖岸へのリゾートホテルなど、新たな集客機能の整備が進んでいる

3. 今津の観光を取り巻く環境変化と影響

(1) 北陸新幹線敦賀延伸に伴う影響

① 北陸新幹線の延伸

北陸新幹線は、2015年3月に上越妙高～金沢間が開業し、さらに金沢～敦賀間の延伸工事が進められている。当初計画では、敦賀延伸開業は2023年春の予定であったが、现阶段で1年程度の遅れが見込まれている。(北陸新幹線の工程・事業費管理に関する検証委員会中間報告、国土交通省、2020年12月)



出典：「北陸新幹線がつなぐ『北陸』の未来」JR西日本、2019年8月

② 金沢延伸による観光への影響

1) JR利用者数の変化

○首都圏との間で旅客流動量が大幅に増加

金沢開業により、東京～金沢間は約3時間50分から約2時間30分～約1時間20分短縮された。その結果、沿線地域と首都圏間での旅客流動量が大幅に増加し、石川県～首都圏間では2014年から2015年で約2.8倍増加となっている(JR西日本パンフより)。

○金沢駅、和倉温泉駅を筆頭に定期外の乗降客が増加

金沢駅並びに、北陸本線・七尾線の特急停車駅の乗車人員について、開業前後の増減率(前後各4年間平均)を定期外と定期で比較する。

※観光・ビジネス等の非日常的利用である定期外は、通勤・通学で日常的に利用される定期とは利用目的が異なる。乗降客数の変化をみたときに定期に比べて定期外の増加が大きい場合は、観光目的での利用増がその多くを占めていると判断できる。(地域の産業構造がすぐには変わらないのでビジネス利用客急増は考えにくい)

北陸新幹線終着駅金沢(+60.0ポイント)と和倉温泉(+71.0ポイント)の増加が著しく、この多くが観光客の利用であると推察される。また、北陸本線各駅の松任(金沢より9km)～武生(同90km)の各駅では10ポイント台の伸びを示しており、新幹線開業効果は未延伸区間の在来線にも及んでいると考えられる。

表 北陸新幹線開業前後の在来線特急停車駅乗車人員の推移

路線	駅 別			乗車人員増減率 (%)		
	駅名	自治体名	金沢から営業距離	定期外	定期	定期外－定期
北 陸 本 線	金 沢	金沢市	0.0	42.2	-17.9	60.0
	松 任	白山市	9.4	27.8	16.0	11.7
	小 松	小松市	28.4	16.2	3.4	12.8
	加賀温泉	加賀市	42.3	19.6	4.7	14.9
	芦原温泉	あわら市	59.0	10.9	-2.2	13.1
	福 井	福井市	76.7	11.4	0.7	10.7
	鯖 江	鯖江市	90.4	17.3	6.9	10.4
	武 生	武生市	95.6	3.5	3.8	-0.3
	敦 賀	敦賀市	130.7	-3.4	8.4	-11.8
七 尾 線	羽 咋	羽咋市	29.7	-1.6	-1.2	-0.4
	七 尾	七尾市	54.4	4.8	-1.0	5.8
	和倉温泉	七尾市	59.5	63.0	-8.0	71.0

注) 乗車人員増減率：H27～30年度平均/H23～26年度平均 出典：石川県・福井県統計書

2) 観光入込数の変化

○金沢地域を中心とし、未延伸区間でも観光客が増加

同時期の観光客数は、石川県全体で16.4%の伸びを見せており、そのうち金沢地域(+27.4%)が最も高く、能登地域(+13.2%)、加賀地域(+6.8%)と続く。一方、白山地域(+1%)は横ばいである。JR乗車人員と同様に、金沢以外の地域においても一定の観光来訪を誘発しているといえるが、新幹線駅からの距離的要因が大きいと思われる。

○増分の大半は首都圏から

来訪観光客数の増減を発地別にみると、首都圏からの来訪(+80%)が著しく、一方、関西圏(+8.4%)は微増、中京圏(△1.6%)は微減となっており、増分の大多数は新幹線延伸による首都圏等からのものと推察される。

表 石川県観光入込客数の推移

		観光入込客数（千人/年）			増減率 （％）
		23～26平均	27～30平均	差	
地域別	金沢地域	8,060	10,266	2,206	27.4
	加賀地域	5,351	5,715	365	6.8
	白山地域	935	942	7	0.7
	能登地域	6,975	7,896	921	13.2
発地別	県内	9,424	9,556	132	1.4
	県外	11,897	15,262	3,366	28.3
	3大都市圏	6,930	9,017	2,086	30.1
	首都圏	2,376	4,282	1,906	80.2
	関西圏	2,534	2,746	212	8.4
	中京圏	2,021	1,989	-32	-1.6
	その他	4,967	6,246	1,279	25.8
合計		21,321	24,819	3,498	16.4



出典：「統計からみた石川県の観光」

③ 延伸による近江今津への影響

○東京から45分短縮も、効果は限定的

今後、敦賀延伸により、北陸新幹線経由での近江今津～東京間の所要時間は、現状の約4時間20分から約3時間36分へと約45分短縮される。なお、現行でも東海道新幹線を利用し、米原から近江塩津経由で約3時間15分、京都から湖西線経由で約2時間45分であり、敦賀延伸によっても他ルートと比べて大きな時間的優位性は生じないと考えられる。

※所要時間は乗り換え時間を考慮しない実乗車時間

○新幹線直行による地域イメージの向上に期待

しかし、新幹線で直行できる魅力向上により福井県・敦賀がクローズアップされることにより、周辺に位置する近江今津への関心の向上や来訪機会の増加が期待できる。

表 北陸新幹線の敦賀延伸による東京～近江今津間所要時間の変化

経路	現行	延伸後	差
北陸線経由（敦賀）	4時間20分	3時間36分	△44分
東海道線経由（米原・近江塩津）	2時間55分（△85分）	2時間55分（△41分）	0分
東海道線経由（京都）	2時間45分（△95分）	2時間45分（△51分）	0分

注）2020年11月現在の最速ダイヤの合計、待ち合わせ・乗り換え時間は考慮していない
北陸新幹線延伸区間（敦賀～金沢間）は、43分と想定（JR西日本パンフより）

④ 周辺自治体の動向

- ・敦賀市の策定するハーモニアポリス構想で、敦賀～高島間の新たな道路整備による広域的経済圏の構築が描かれるなど、周辺自治体での将来に向けた広域連携を進める動きがみられる。

(2) 観光行動の変化と新型コロナウイルスによる影響

観光をとりまく社会的動向として、観光行動の変化状況と昨年来の新型コロナウイルスによる影響について概略の整理を行った。

① 国内旅行の動向

1) 観光需要の推移

○国内旅行需要は横ばいで推移し、コロナで減少後、地方を中心に復活の兆しも

図 日本人国内観光旅行の回数及び宿泊数の推移



出典：R2 観光白書

図 日本人・外国人の延べ宿泊数の推移



出典：R2 観光白書

○急増したインバウンドはコロナで激減し、今後の回復は不透明

図 延べ宿泊客数の推移

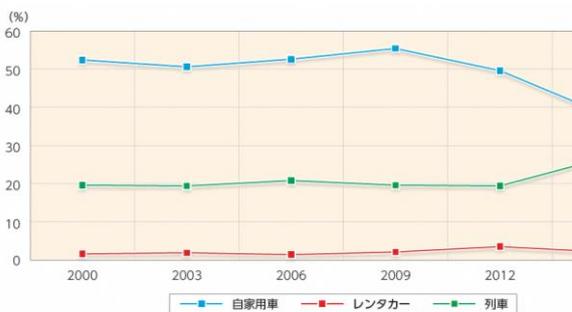


出典：R2 観光白書

2) 交通・情報利用の変化

○車から鉄道へのシフト傾向がみられるが、感染予防のため車旅行が再度増加

図 旅行における車の利用割合（目的地までの利用）



出典：H29 観光白書

図 旅行における車の利用割合（未婚・子育て後別）



出典：H29 観光白書

○旅の移動手段としての自転車ブームが到来

図 サイクルツーリズムの経験者数



表 ナショナルサイクルルート三大ルート利用者数等の推移

年	ビワイチ	つくば霞ヶ浦 りんりんロード	しまなみ海道 サイクルロード
2012			17.4万人 ()
2013			(8.2万台)
2014			(11.6万台)
2015	5.2万人	4.8万人	32.5万人 (13.5万台)
2016	7.2万人	5.5万人	(14.1万台)
2017	9.5万人		(15.0万台)

出典: 「サイクリスト国勢調査 2018」ツール・ド・ニッポン 出典: ナショナルサイクルルート制度検討小委員会資料 2018.11.30)

注) しまなみ海道の(台)は、レンタサイクル貸し出し台数

○ICTの向上によりローカル情報やニッチ情報の入手が容易に

図 旅行などに対するスマートフォンの影響



資料: JTB総合研究所「スマートフォンの利用と旅行消費に関する調査(2016)」

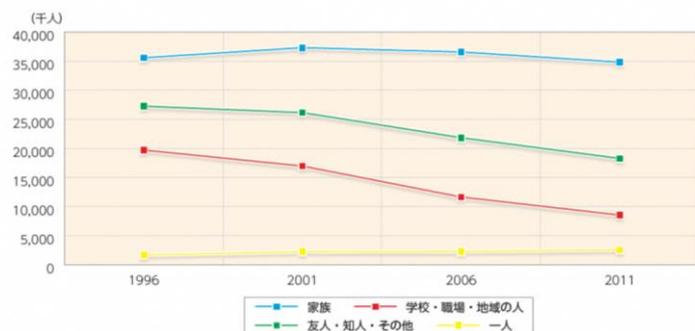
出典: H29 観光白書

② 観光の目的や行動の変化

1) 観光目的・嗜好の変化

○団体旅行から個人・家族旅行へのシフトはますます進展

図 国内旅行の同行者タイプ別行動者数の推移



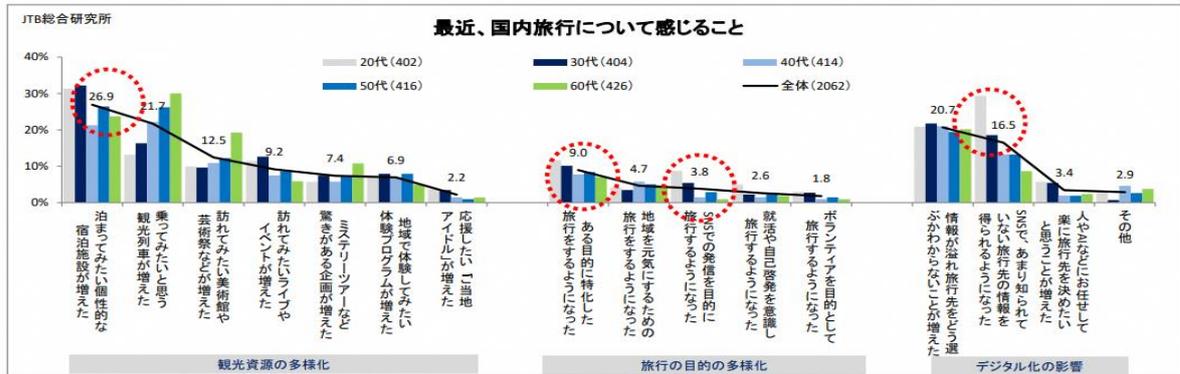
資料: 総務省「社会生活基本調査」

注: 総務省「社会生活基本調査」の国内観光旅行において、各同行者タイプでの旅行を実施した行動者数。2001年以降「友人・知人・その他の人」という区分となるため、経年比較のため、その他の人も含めて集計を行った。いずれも、10歳以上人口のものである。

出典: H29 観光白書

○地方でのコト消費や来訪先の住民生活エリアでの交流需要の高まり

図 国内旅行について感じる事(複数回答)



出典：JTB ニュースリリース 2019 年第 7 号

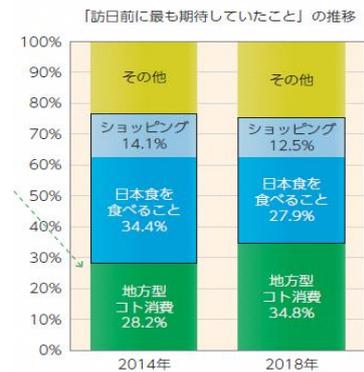
○インバウンドによる地方訪問の増加

図 訪問地別訪日外国人旅行者数の推移 図 訪日外国人旅行者による地方型「コト消費」への期待



資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局「訪日外客数」に基づき観光庁作成
注1：三大都市圏とは、「東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、大阪、京都、兵庫」の8都府県を、地方部とは三大都市圏以外の道県をいう。

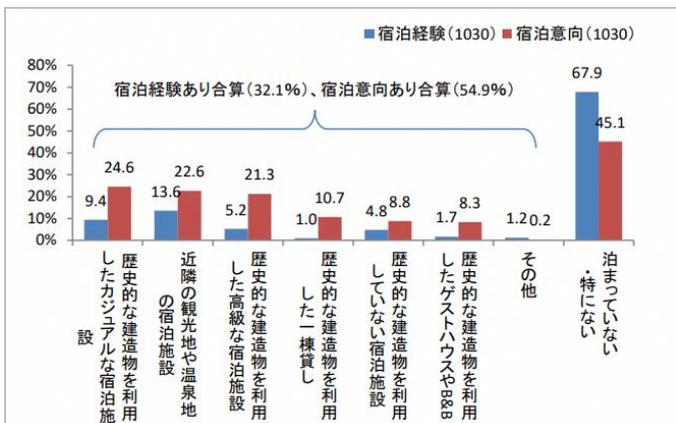
出典：R1 観光白書



出典：R1 観光白書

○歴史的建造物の利用等、宿泊施設の個性化・多様化志向の高まり

図 伝統的建造物保存地区訪問時の地区内宿泊経験と今後の意向(複数回答)

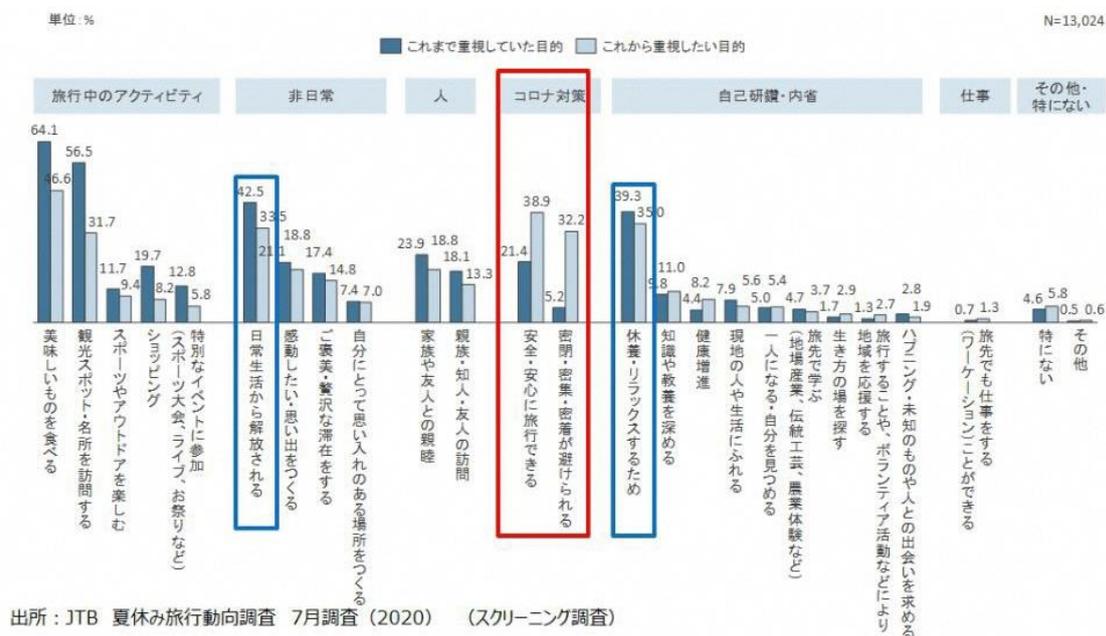


出典：JTB 総合研究所ニュースリリース 2019 年第 2 号

2) 新型コロナウイルスによる旅行志向の変化

○安全・安心、3密回避を前提に、休養、リラックス、日常からの解放を志向

図 ウィズ・コロナの旅行に求めるもの



出典: JTB 総合研究所調査レポート 2020年 10月

○ワーケーション、ブリージャー、二拠点生活、長期滞在など滞在スタイルの変化

図 ワーケーションへの興味 (会社員)

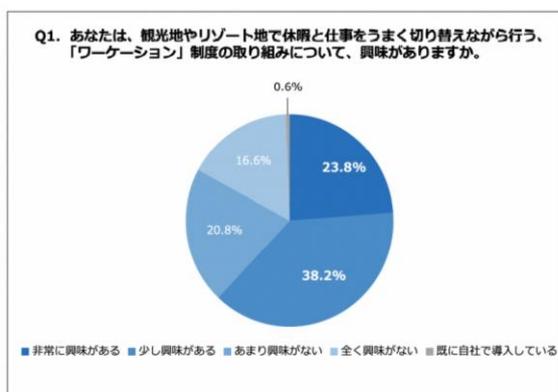
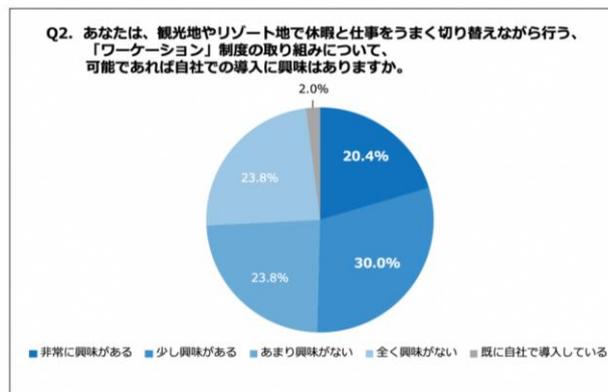


図 ワーケーションへ導入への興味 (経営者)



出典: ワーケーションに関するテレワーク導入企業への意識調査 (日本旅行、2020年)

○コロナ後の旅行と観光の将来動向の予測

今津のような地方の小さな街の、自然や文化など地域環境を対象として、個人や家族、友人などを中心とする、仕事や生活ともリンクした多様な訪問・滞在のスタイルが、今以上に求められるようになる

コロナ後の旅行と観光の 18 の将来動向（抜粋）

- ・長距離よりも短距離移動
- ・少人数での交通手段/海外からの個人旅行者の増加
- ・よりプライベートでカスタマイズされたツアー
- ・安全が良好な中規模から小規模のホテルへ
- ・自然の中でのライフスタイルの改善などに重点がおかれる

アジアエコツーリズムネットワーク会議（2020.4）より

ツーリズム変容に関わるトピック

日本人旅行者の82%が「旅行において、サステナビリティが非常に重要だ」と回答。一方、宿泊施設による取り組みや訴求、サステナブルな宿泊施設を探す仕組みが不十分という課題も。
（ブッキング・ドットコム調査）

2021.6.7 トラベルボイスニュースより

日本を含む世界8カ国テレワーク実態調査から、今後は勤務場所にとらわれない「フレックスプレイス制」という考え方が浸透すると提唱。（野村総合研究所）

2021.4.1 トラベルボイスニュースより

コロナ禍において若い人を中心に都市から地方の人口流動がかつてない規模で起きている。大都市部から地方分散へのパラダイムシフトが新しい「コ・ソサエティ（共創社会）」を生み出す可能性

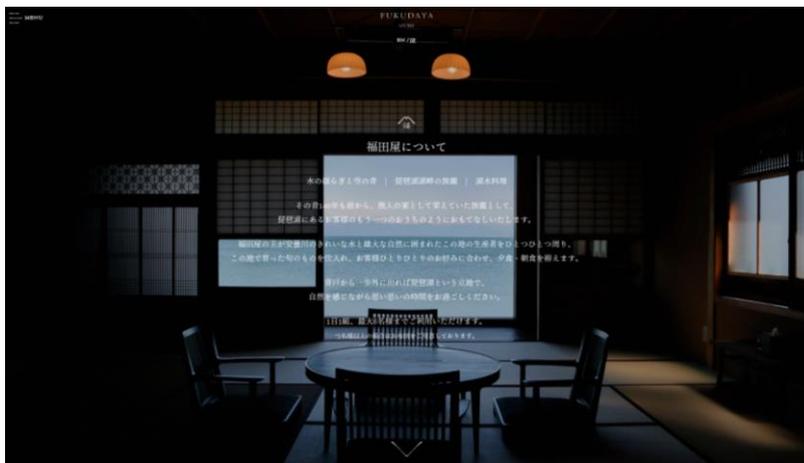
シェアサミット 2020（2020.11）アドレス社佐別当隆志社長発言

(3) 観光・交流に関わる地域、行政の動向

① 地域での新たな取組

今津地域内で、個人や小さな事業者による、「人」をターゲットにした、従来無かったような視点での個性的で多様な取組が始まっている。

福田屋 古旅館を再生した湖岸の高級旅館開業



びわ湖ブルワリー クラフトビール製造・販売・レストラン開業



古川満さん 今津出身の料理人で、実家を飲食・宿泊施設に改装中（2023年開業予定）



② 今津地域に関連する高島市施策・事業

関係人口の誘因にも関わり、活性化の取組のきっかけになり下支えするような多彩な施策メニューがある。

移住・定住促進

- 若者定住住まい手応援事業【市民協働課】
- 空家対策事業【市民協働課】
- 移住・定住コンシェルジュ事業【市民協働課】
- 高島市・JR西連携協定、地方暮らし体験実証実験【総合戦略課】
- 大学生等によるたかしま創生事業（空家活用コンペ）【市民協働課】

関係人口形成

- 「高島縁人」関連事業【総合戦略課】
- 高島リビング・シフト構想【企画広報課、総合戦略課】

文化財保全・活用

- 今津郵便局補修・保存ワークショップ【文化財課】
- 高島市文化財保存活用地域計画【文化財課】

地域産業振興

- オリーブ産地化促進事業（対象地域外）【農業政策課】

地域づくり活動支援

- 新たな住民自治の仕組みづくり事業
（今津地域住民自治協議会）【市民協働課、今津支所】
- 地域まちづくり事業【市民協働課】
- 今津東コミュニティセンター管理運営事業【市民協働課】

第3章 観光まちづくりについての関係主体の意見

1. 実施概要

今津駅周辺地域において、観光まちづくりに関する活動を行う14の団体・事業者を対象に、「近江今津駅周辺の特徴や魅力・活用のポイントとなる資源」、「地域魅力を生かしたまちづくりの方向やアイデア」、「駅南市有地の活用について」の3点を主な質問項目として、ヒアリング調査を行った。

表 ヒアリング調査概要

対象団体・対象者(敬称略)	団体・対象者の概要	実施日
びわ湖高島観光協会 事務局長 梅村一之 事務局次長 吉田正司	高島市の観光関連事業者で組織する観光団体	2020年10月19日
NEW ERA OASIS 八木喜美子	今津ヴォーリズ資料館の指定管理者	2020年10月19日
ヴォーリズ今津郵便局の会 大石義一	市民活動として旧今津郵便局の再生・保全・活用を活動中	2020年10月22日
今津ガイド勉強会 春山	今津地域でボランティアガイドの育成・派遣、イベントを実施	2020年10月22日
琵琶湖汽船株式会社 大津・長浜営業部 課長補佐 田村英治	琵琶湖クルーズ船の運航、今津港の管理	2020年10月22日
江若鉄道近江今津駅舎の会 橋本源之助	旧江若鉄道今津駅舎の保全・活用を目指して活動	2020年10月22日
株式会社モアイ 代表取締役 井上哲朗 他一名	旧旅館リノベーションによる福田屋を開業	2020年10月31日
西友商店株式会社 代表取締役社長 阪田嘉仁	今津で湖魚加工販売、飲食店経営、県内外百貨店にも多数出店	2022年1月28日
atelier umi 代表 藤田時彦(一級建築士)	今津出身、浜通りで個人建築事務所を開業	2022年2月2日
びわ湖ブルワリー株式会社 会長 牧野幸日	2021年にクラフトビール醸造、レストランを開業	2022年2月2日
南深清水FF倶楽部 代表 桂田隆司	柿畑や耕作放棄地でオリーブ栽培を通じた地域活動団体	2022年2月2日
R-PRO CO. Ltd. 代表 古川満	大津で飲食店経営、浜分の実家でオーベルジュを計画中	2022年2月8日
武庫川女子大学建築学部景観建築学科 教授 曾和治好	大学院で今津駅周辺地域の景観をテーマに授業(演習)を実施	2022年2月17日

(2) 意見のまとめ

① 近江今津駅周辺の特徴や魅力・活用のポイントとなる資源

まちの特徴として、交通の便がよく住みやすい一方で、特徴的な資源がみえにくく、来訪者に通過されてしまうことが話された。また、まちの住民は保守的であり、地元に残っている人のつながりが強いことがよいこととして話される一方で、しがらみの強さがまちづくりやイベントなどに影響している可能性についても話された。

具体的な資源については、漁業に関するもののほか、琵琶湖と琵琶湖周辺の水辺景観、豊かな自然環境、浜通りなどが挙げられた。

観光の課題として、特徴や個性が見えにくく、体験的な要素も少ないこと、通過されてしまっているといった点が指摘された。

【まちの特徴】

<交通の便がよく住みやすいまち>

- 駅も近くてよいところだと思う。
- 今津駅周辺地域は住みやすい地域。
- 琵琶湖汽船がある、特急が止まる、小浜へのバスがある。大阪からは電車一本で来られ大都市圏アクセスが良く、身近なリゾート地になれるのに、良さのアピールをしていない。今津駅を拠点として活性化したらよいと思う。
- 今津駅からすぐに行ける竹生島は、信長などで何回もメディアに取り上げられるなど関心も持たれている。きっかけさえあれば、軽井沢や那須のように化ける可能性がある。大都市から近く京阪神で一番立地が良い。

<移住者はいるが人口減少のまち>

- 今津地域では、小学生も減っていく一方。
- 駅前にスーパーがなく、商店街にも人はいない。人がいないとどうにもならない。関係人口を増やすのは人。
- 移住者も大切なリソース。高島には、芸術家や建築家など、都会の生活では物足りないと思っている人、水やランドスケープに魅了された人が移住しており、面白い人が集まってくる。

<特徴的な資源がみえにくいまち>

- 今津駅周辺地域から琵琶湖があまり見えないのが残念。琵琶湖汽船の建物は観光としての目印になっているが、駅から琵琶湖が見える工夫があっても良いかも。
- 今津駅前パツとしないが、港が一番大きな存在。
- ヴォーリズ通り、今津港など様々な資源があるが、それぞれの主張がまとまっていない。
- まちづくりは以前から市でやっていたが、よい意見があってもそれがあまり長続きしていないのではないか。これは課題のある部分かと思う。なにをどうしていくのかがはっきりしない。

<通過されるまち>

- メタセコイアから長浜の黒壁に行くなどされており、今津は通過点という観光客が多いのではないかと。黒壁のように、今津が観光の目的地になると良いが。
- 浜通りの人通りは、平日（特に冬）にはほとんどないが、土日祝日には多くみられる。琵琶

湖汽船の乗客とみられるが、乗降前後に今津散策をしているようにはみえない。

- 近江今津駅から浜通り、ヴォーリズ通り、辻川通りを歩き、駅に戻るまち歩きルートはよいと思う。

【住民の特徴】

- 地元に残っている人は繋がりが強い。それは大きなものだと思う。
- 高島市全体に言えることだが、昔からの住民は保守的な人が多い。住民の意見を聞くと多様な考え、価値観もあるだろうし、一つにまとめるのは難しく、これまでの事業でも上手く継続しているものは少ないのではないか。
- 今津地域は高島市の中心地としての思いが強く、その思いが時として新しい取り組みへのブレーキになっているのではないか。
- 一般的に若者には昔からのしがらみ（町内会活動、溝掃除など）が敬遠される傾向がある。今津のまち（今津駅周辺地域）でもそういうしがらみがあるのではないか。
- この地域へ（今津駅周辺地域）の入りやすさ（転入）については、Uターンであれば気にならないだろうが、Iターンなどの完全な移住であれば入りにくいかもしれない。

【飲食店】

- 高島の人、そもそも市内で外食や飲み歩きをすることが少ないと思う。
- 高島市民は外食に出ることが少なく静かだが、人が静かなのではなく、まちの雰囲気人が静かにさせているところがあると思う。
- コロナ禍のため、飲食店の利用が減っている。
- 今津駅周辺地域には、定食屋や韓国料理など飲食店もそれなりにあるが、食べに行く人が少ないのが問題。食べ物以外で何を売りにするか。
- 昔からある喫茶店や、クレープが有名であるなど魅力的な店もあり、SNSで結構発信されている店もあるが、全体的に発信力が足りないと感じる。通りすがりには寄ってもらえる環境ではないため、わざわざ来てもらえるようなお店として認知される必要がある。
- 以前、今津駅前居酒屋を営んでいたときには、高島市在住者（市内一円から）、駅前ホテルの宿泊客等に利用され、意外と若者がいると思った。

【漁業・湖魚】

- 今津には鰻屋さんが多い。
- 漁協は人が少なくなってきたが、サラリーマン退職後の第二の人生として漁師になる新規参入者もいる。
- 今津には、湖魚の加工店が多いが、湖魚を打ち出そうとする飲食店が少なく、地産地消できていない。大津などには他府県からの客がいるため、湖魚を出す店も多い。
- 湖魚は、飲食店で打ち出すものとして力が弱い。道の駅には置かれているが。
- 今津を湖魚で売り出すという考えは、昔ならあり得たが現在は難しい。関西の冬の風物詩であったモロコをはじめ、湖魚の佃煮を食べる習慣が薄れるなど、実情は変わっている。商品製造に何年も費やす鮎ずしもビジネスとしては大変だろう。鮎ずしはSNSで発信力があり

話題性はあるがあまり食べないだろう。

- 商業者はしっかり勉強して売れるものを生み出すとともに、社会への還元意識を持つべき。

【観光資源】

<琵琶湖と琵琶湖周辺の水辺景観>

- 琵琶湖沿いが今津駅周辺地域（特に浜通り）の一番の魅力。
- 琵琶湖から見える朝日が素晴らしい。
- 琵琶湖一周や湖岸に寝転がるなどして楽しめる場所。大津や堅田などよりもよい土地。今津側から見る琵琶湖の景色が美しく、水もきれい。
- 遊びに来た友人に、浜通りから辻子を通って浜に出るルートを案内した。対岸が遠く、琵琶湖の見え方が他地域とは違うよい所との感想をもらった。
- 湖岸で SUP をしている人も見られるが、身内での楽しみにとどめられており、ビジネス（観光集客）という感じではなさそう。
- 浜は狭く浜に降りている人は少ない。浜を歩く人はちらほらいるが、降りる場所がわかりにくい。天川周辺には階段があるのでそこには人がみえる。

<豊かな自然環境>

- 何もないところ。自然がよいところか。
- 長年住んでいるとわからないが、ビラDEST今津に来た人は景色が美しいと言う。
- 農地から見る空は、東京からの人に雰囲気があるイタリアのようだと言われたこともある。魅力を感じてもらえる場所なので来てもらったのかと思うが、地元の人には感じない。気が付かない資源があるのかもしれない。

<浜通り>

- 浜通りの町並みと琵琶湖の関係がみられるこの空間を残したい。こんなによい場所であるのに、もっと来訪者に見てもらえる工夫があっても良いのではないか。活用できていないのもったいない。
- 福田屋の建物に魅力を感じている。浜通りでも商売をできればいいなと思っている。
- 空家はそこそこあるようだけれど、手に入れにくい状況。
- 昔ながらの建物が湖岸に並ぶと魅力的だが、浜通りの琵琶湖側の家は、もともと漁師の家で一般の人が借りにくい。
- 外から人に来てほしいが観光客が増えすぎるのは困る。周辺住民が観光客の増加についてどう思っているのかはわからない。辻子に知らない人が通ることは、あまり嬉しくないこととして捉えている人の方が多いのではないか。一方で、整備の行き届いている所では、あまり問題に思われていないのではないか。近所の人を通る分には問題ない。

<ヴォーリズ建築>

- ヴォーリズ通りは、素敵な地域資源だと思うが、人が少ない。有名な近江八幡には劣る。
- ヴォーリズ郵便局の歴史に魅力を感じる。

【高島市の特徴や魅力・資源】

- 高島市のよさは、ちょうどよい田舎。

- 高島といえば発酵。酒は酒波からというロマン的な話を聞いたことがある。
- 水の美しさはあまり知られていない隠れたリソース。高島は、比良山系の伏流水を含めて、琵琶湖にきれいな水を供給しているまち。このことが知られていないことがもったいなく、もっとアピールすべき。高島は、買ったミネラルウォーターよりも美味しい水が湧き出ている贅沢な土地であり、本当に美しい水を体験できる。琵琶湖は関西の水源であり、大阪、京都のたくさんの人に飲み水を供給しているため、影響力が大きい。きれいな水を大事にする文化が広がると、関西の人はもっと幸せになれるのではないかと。生物多様性戦略や市が実施している里山や水辺での事業と関係してくるかと思うが、まちづくりで強調すべきリソースの第一だと思う。
- 高島には古くから引き継がれる文化として、古式水道がある。
- 琵琶湖の景観の美しさもリソースのひとつ。3つの重要文化的景観（海津・西浜・知内の水辺景観、針江・霜降の水辺景観、大溝の水辺景観）、日本の原風景ともいえる湖岸の黒松と白浜、琵琶湖の東側から昇る朝日、比良山系に落ちる夕日など、京都市内ではみられない風景、大阪、神戸では体験できない美しいランドスケープの資産がたくさんある。湖東にも同様の風景があると思われるかもしれないが、湖東や長浜は、耕地整備された真四角の水田、比叡山系に落ちる夕日など、風景の構造が高島市とは全く異なる。これらの要素を活かしながらどのようにアピールするかが課題。
- 以前は海津大崎の桜が有名だったが、それを上回る全国的観光地として、メタセコイアが出てきた。メタセコイア、白鬚神社などは、楽しめる時期が長いため、賑わう期間が長い。観光では、食べる、買う、加えて見るが大事。

② 地域魅力を生かしたまちづくりの方向やアイデア

今後のまちづくりに必要なこととして、住民の自主性と実行力、地域内での連携のほか、行政の役割などについて挙げられた。

まちづくりのテーマやアイデアとして、琵琶湖に関する体験や景観施策、既存資源の活用や滞在時間を延長させる仕掛けづくり、ピワイチ関連、観光受入体制の内容などが挙げられた。

【まちづくりの方向】

<住民の自主性と実行力>

- 地域づくりは、役所に「おんぶに抱っこ」ではだめ。
- 住民の「行政が何かやってくれる」という意識を変えるべき。
- アイデアは、地元住民主導のもと作り出していくべきもの。
- 住民自治協議会には実現可能性のある議論を期待したい。
- まちづくり、地域活性化というものは、取り組みを継続させるため、きれいな絵を書くだけではなく、内から生み出さないといけない。
- 自力で何かをする、活力のあるまちにしていかなければいけない。飲食店でも地域内でライバル心を持ってメニュー開発をするなど、それだけでも大きく変わる。
- ハード整備であれば地主の意向などもあるだろうし、ソフト事業であってもアクションを起こさないと事業は何も進まない。できないことはないはずなので。これまでそれができな

った原因を紐解いていかないといけない。

<Uターン者の活用>

- 美山のかやぶきの里が成功した要因のひとつには、Uターン者の力があるとのこと。Iターン者は発言力がなく、まちを動かす力がない。ずっと住んでいる人は変化を好まない。Uターン者は最新の社会状況を知り新しい価値観を持っている上に、地元住民との繋がりがあるため、説得力がある。Uターン者の受入れとまちでの活躍に対する行政のバックアップ（税制優遇、町家で事業を始められる制度など）を検討しては。

<地域内での連携>

- これまでの行政事業が続いていないのは、色々な意見を聞きすぎるからだと思う。テーマを設定し、何をすべきか共通課題を示していくべきではないか。今津駅周辺地域では、地域住民が共通の課題を持ってまちをどうすべきか考えていかなければならない。
- 事業を実現させるためには、まちのことを本気で考える人が数人いるだけでもちがう。本気で意見をぶつけあうことで何か生まれる。まちの皆に同じ思いを持ってもらうことはできない。1つでもよいので成功事例をつくれれば、真似するようになるだろう。
- 「我がみな大将」として、皆で行動しようとしなのが田舎の悪いところ。同じ思いを持つ仲間がいると、皆で方向性を決めて進むことができる。反対者と組んでもうまくいかない。
- 長浜ではまちづくり公社をつくり活動しているが、団体を作って地元の賛同を得ながらまともって行動しないとまちづくり事業は難しいのではないか。
- 人口減少は止まらないし、皆でつながって動かないとやっていけない。

<行政の役割>

- 行政は補助金などにより住民の行動を応援すべき。補助金ありきの事業実施は不要。
- 市役所の職員はすぐに異動してしまう。各部に1人でも専門職員がいてもいいのでは。県庁には水産などの専門職員がいる。

【まちづくりのテーマ・アイデア】

<美しい景観とイメージ戦略>

- イタリアのベネチア、日本では京都など、世界的な観光都市においては景観美と都市イメージが最大の魅力であり、実際に多くの観光客を集めている。今津地域においても「美しい景観」と「イメージ戦略」が観光活性化への第一要因だと思う。

<琵琶湖のあるまちを体験する>

- 来訪者には、「見る」だけでなく、何かを「体験」してもらうことが大事。鰻を触ったり、掴んだりする体験を提供するなど、今津を鰻のまちにしてもよいのではないか。
- ビワマスを一本釣りし、調理し、食べてもらうという一連の流れを漁師と一緒に体験してほしい。

<琵琶湖を感じる景観の保存・育成>

- 駅のホームから琵琶湖が見えるような高度規制（建物の高さ制限）を作るなど、今津駅周辺地域で視点場を決めて、琵琶湖や比良山系の美しさの見える都市計画レベルの景観規制を、風景を守るためにすべきだと思う。景観規制がうまくいくと20~30年後に、倉敷、美山、京都のように風景の美しいまちとして評価されるのではないか。建築物の色彩、屋根形状など

道を規制することにより、琵琶湖の景色をまちあるきの中で体感できるようの方がよいと思う。

- 道路ではなく景観を軸とした高度規制を導入し、低層住宅程度の高さまでに留め、琵琶湖の美しさを体感できるまちづくりをしてもいいのではないかな。大きな商業施設や工場の誘致はエリアを限定し、水も美しい、まちも美しいという今津を目指してもよいのではないかな。
- 日本以外の地域にはない、高島だけの景観条例を作ってはどうか。歴史的価値のある建物であっても、その建物を文化財として指定することによって使いづらくなり、死んだ建物、生活感が抜け落ちた抜け殻のようになるケースがみられる。文化財指定をせずに生きた文化財として使用すべき。

<既存資源や歴史の活用>

- 浜通りに古民家を活かした施設が5軒ほどできれば、おもしろくなる。
- 空き地活用よりも先に、今ある町家の活用を考えるべき。既存建物の改修に補助金をつけるなど、まちにあるリソースを活用するための仕掛けがあってもよい。
- 浜通りの古民家を活用した店などについては、市有地の駐車場も使えるし実現性はあるだろう。若者がチームで手をあげてアイデアを練ればよいのではないかな。コンペをすれば多くの参加があると思う。
- 大規模商業施設は、商売がうまくいかなくなったらすぐに撤退するため、大きな古びた施設が負の遺産として残る傾向にある。町家などまちの資源を活かしながら商業地化していくことは、次の時代のまちづくりに必要だと思う。
- 本物志向の人が増えてきている時代。高島では、水の美しさ、ランドスケープの美しさを壊さず、これらを活かしたまちづくり、活性化をしていくにはどうしたらいいかを考えることが大事。
- 今津が元々持っていた、内湖、細長く伸びる浜通り、街道につながる辻川通りなど、歴史を持つリソースをまちづくりにどう活かすかが大事。
- 今津は、内湖を埋め立ててしまったことがもったいない。内湖を活かした駅がつけられたらよかった。高島市民会館など駅周辺の公共施設をどう活用するかがキーポイントとなると思う。

<滞在時間を延長させる仕掛けづくり>

- 外の人に今津を知ってもらうための仕掛けとしてイベントを行っており、今後もワークショップなどの実施を予定している。来訪者にちょっとでも立ち止まってもらえれば。関わっているばったり床几プロジェクトも、滞在してもらうためのもの。
- 琵琶湖ビエンナーレの湖西バージョンを行うのはどうか。町家など地域にある建築物を活用して展示や特産品の販売などを行い、イベントの中でまちなみの美しさを体験できる。町並みの保存にもつながり、地域のプラスにもなると思う。直島のアートフェスティバルのように国際的なアピールにもなる。アートは、まちの文化、イメージを高める。うまく利用できるのであれば使ったらよい。滋賀県のアールブリュットとの合致性も考えられる。
- 集客手段としてマルシェもよいのでは。今津には移住者も多いが、マルシェには、移住者と地元住民の交流の場としての機能もある。地元住民には馴染みが薄いかもしれないが、実際に立ち寄ってもらうと、移住者やマルシェに対する印象も変わる。

- 浜通りには、気軽に立ち寄れる店がない。コーヒーとパンを提供するパン屋があればと思う。乗船前後の人が港で琵琶湖を眺めながら食べるなど、滞在時間の延長と消費につながるのでは。パン屋であれば地元の人にも喜んでもらえそうだが、店舗に使える空き物件がない状況。

<ビワイチの拠点>

- ビワイチで通過する人を来訪者に変えるべき。現在は通過するだけとなっており、もったいない。まちを上げて自転車に力を入れている守山がスタート地点を謳っているので、今津を第2のスタート地点にしては。守山では大型商業施設をスタート地点としているので、今津では美しい景観を売りにしたスタート地点に。ビワイチで最も琵琶湖が美しく見えるまちとして打ち出すのもよい。メタセコイアや白鬚神社を見に行くプチビワイチのルートを作るなど、ビワイチ初心者を受け入れる地（ポータルの地点）にしてもよいのでは。
- ビワイチ人口は多くはないが、情報発信力としては大きい。また、自転車乗りには裕福な人が多いとも聞くため、消費も期待できる。宿泊施設、飲食店などで、高島らしいデザインの自転車ラックの設置、クリートを付けていても気にならない舗装材の使用、無料の駐車場の設置など、受入れ体制を整えるのもよいのでは。
- 自転車はエコロジーであり、走行時には給水が必要であるため、高島の美しい水と絡めてもよいのでは。

<駅の情報発信拠点性の強化>

- 施設がそれぞれ情報発信をするのではなく、高島全体の情報発信の核が必要。個人旅行、土地探し、田舎暮らしなど、多様な情報発信の拠点を駅に置くことで、人が来るのでは。待合室を小綺麗にしたり、パンフレット類をしっかりと整えるなど、近江今津駅に情報発信機能をもたせてもよいのではないか。
- 核となる商業施設を駅に併設させる。駅は近江今津以外にも、高島、安曇川などがあるが、知名度から近江今津しかないと思う。ラーメン屋、コーヒーショップなど、テナント料をとったとしても出店希望はあるのでは。

<食で売り出す>

- 滋賀県といえば琵琶湖。観光といえば食とマッチングしないと来てもらえない。
- 深清水は「農」がコンセプトであり今津とは違う。今津で農に代わるものは「食べる」かもしれない。深清水で作る今津駅前調理・消費するという構図の可能性はゼロではない。流行りのグランピングなどと連携ができてよい。
- 今津駅周辺の飲食店に対する需要はあるが、受け皿がない状態。このまちでは、コンテンツ（突出したもの）があればやっていけると思う。スモールスタートでぽつぽつと始めるとよいのでは。

<観光客受入れ体制の整備>

- 観光流入人口を活用すべき。その受け入れ体制の一つとして駅周辺地域を活用する。即効性があるようなものを考えていく。
- 今津駅周辺地域の観光に必要なのは、観光の受入体制を整えること。例えば飲食店では、ジビエ料理の提供、地域共通食材の使用などで今津らしさを出すなど。
- 手っ取り早く活性化に結び付くのは観光客で、SNSでどんどん発信してくれる。高島市全体で見ても、あるいは今津町、今津駅周辺地域として見ても、観光のポテンシャルのあるま

ちなので、知ってもらえば移住にもつながり、移住者が増えれば税収にも反映する。そういう循環のきっかけになるのが観光だと思う。

<観光まちづくり・その他>

- 琵琶湖汽船の乗客が多いため、この客を食・遊び、アウトドアに繋げられたらよいのではないと思うが、汽船の乗客には年配者が多いため、若者をどう取り込むかが課題。
- 湖西線は今津駅周辺地域にとって様々な意味で大きな存在であり、プラス要素としては交通の要衝であるとか、まちの中心的な役割であるが、マイナス要素としてはコンクリート造の駅舎や橋脚がまちの分断要素となっている。法面の傾斜を緩やかにするとか、緑化をするなど、分断のイメージを和らげるアイデアがあると良いと思う。
- 琵琶湖就航の歌をさらにアピールするべき。
- 例えば長野県や山梨県のアルプスでは初心者から上級者まで様々な登山コースがあり、東京や大阪からの登山者が多く、麓のまちは日帰り温泉もあり賑わっている。高島でも、高齢者をターゲットにして登山を押しすべき。登山の他にも3つのスキー場など発信できるものはある。
- 今津地域で1日中楽しもうと思うのであれば、今津駅周辺地域だけでなく、箱館山まで行けばよいと思う。
- 北陸新幹線が敦賀までつながる際には、特急はるかさを敦賀まで伸ばしてほしい。
- 焼き杉の住宅など、地元での「当たり前」に大きな価値がある。都会的なものを取り入れることにより、そのあたり前を壊しかねない。あたり前に価値をつけることがまちづくりの第一歩。

<先導的まちづくりのコンセプト>

- 商業者にとってメリットのあるまちづくりで活性化をしてはどうか。例えば、まち全体を商業施設と捉えたエリアを作り、その中で、歴史的な町並みの保存、おしゃれなカフェの誘致、駐車場や動線の確保、税制優遇など、行政がデベロッパーとしてまちづくりを行えば、大規模商業施設にも対抗していけるのではないかと。三重県多気町のVISONのような美しい商業施設であれば今津に似合うのではないかと。思う。
- オープンカレッジ丹後学のように大学のフィールドワークの受入を積極的に行うなど、まちづくりの中に教育活動を入れていくのはどうか。今津地域の活性化を考える女子大サミットを開催するなど。まちと手を組みたい大学はたくさんある。また、学生はコンペの賞を欲しがっている。
- 自動車中心の社会であるため、ウォークアブルシティの考え方を取り入れるのもよいのでは。歩道の整備や時間帯限定の歩行者天国など、ゆっくり安全に楽しく歩けるまち。健康にも、人の交流にも良い影響が得られる。

③ 駅南市有地の活用について

駅南市有地の活用方法としては、イベント利用や規模の小さな商業施設、発酵ミュージアム、低層建築物群のまちなどのアイデアのほか、活用の適切なタイミング、コンペによるアイデア募集などが挙げられた。

- 駅南市有地を内湖に戻すことは実現性の面で難しいかと思うが、100年、200年後を見据えて考え方を整理し、メッセージを出していくべきだと思う。埋め立てた内湖をどのような方向で活用するかは大きな社会メッセージになる。また、琵琶湖の水をきれいにするという点では、世界的にも強いメッセージ性があると思う。琵琶湖周辺の長期計画の中でそのメッセージがどう扱われるのか、長期的な視点が必要だと思う。
- 夏祭りの会場にしてはどうか。夏祭りでは花火を上げているが、駅南市有地は広いため、現会場の高島市民会館よりもきれいに見えるはず。
- イベント時の駐車スペースに困っており、土日なので琵琶湖汽船の駐車場も満杯。高島警察署に駐車場を貸してもらえよう依頼することも考えた。利用できるのであればぜひ利用したい。
- 世の中の流れから発酵は魅力的なものであり、駅南市有地を使った発酵ミュージアムがあってもよいのでは。関係人口となるような、人と繋げられるものがあれば良い。前々から発酵ミュージアムの話があったのかもしれないが、それが途切れたのはなぜか、そこが課題でありはっきりさせるべき。
- そのままにしておくのはもったいない。投資を回収できるものとして考えると、大型でなくても良いが、温浴施設を含む商業施設などがあると面白い。琵琶湖や山帰りの人、地元の人をターゲットにした温浴施設を併設し、地元のお店、発酵に関するお店、チェーン店からテナント収入を得る。地元のお店には、テナント料を下げるなどの優遇設定が必要かもしれないが、少しでも収益を得るべき。
- なぜ温浴施設かというと、高島市にはマキノと朽木しか温泉が無いが、市民でも遠いから今津地域の人はそのらにまで行かない。今津駅周辺地域にはそれなりの人口があるので、ここに温浴施設があれば、地域の人に来るし、マリンスポーツ・アウトドア後などの来訪者も来る。
- 駅南市有地をはじめ、土地が余ってきているので、寂しいエリアになっている。低層建築物群のまちを作るのもよいのでは。
- 市職員も多いので様々な意見を聞きながら、時間を置かず、かつお金をかけずに実行する。全国区で上手にコンペに出して進めれば半分の予算で実現できる。
- 駅南市有地などの計画は何年掛かるかわからないので、当てにしていない。商売はタイムリーなもの。
- 構想をゆっくりと進めるのもよいが遅すぎではいけない。駅南市有地については、メタセコイアや白鬚神社の世間的な評価が高いうちに腰をあげるのが大事だし、北陸新幹線敦賀延伸などタイミングを見計らって行動をするべき

第4章 近江今津駅周辺地域の特性と観光まちづくりの課題

1. 観光地域としての特性と強み・弱み

地域現状並びに市民意見の把握結果を踏まえ、今津駅周辺地域の特性、特性に基づく地域の強みと弱みをSWOT分析を用いて分析した。

観光まちづくりの観点からみた今津地域の強みと弱み

	プラス要素	マイナス要素
内部環境	<p>S 強み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○琵琶湖が近く四季を楽しめる 琵琶湖が間近で、景色や波の音、水の香り、辻子や浜石垣、琵琶湖に係る生業や生活を味わえる ○街道やヴォーリズ建築等の歴史文化が残っている 歴史的遺産として、街道、港跡、ヴォーリズ建築などの風情ある建物が残っている ○レトロを感じさせる食べものやお店が多い 地域の中心地として栄えた商店や伝統的な食べ物など、レトロな雰囲気味わえる ○近郊都市からのアクセスがよい 京都から鉄道で50分とアクセスがよい。近江今津駅には特急列車も停車する ○琵琶湖を横断する定期船が発着する港がある 数少ない琵琶湖クルーズ船の港があり、竹生島・長浜と結ばれている。港はリニューアルされ魅力が向上 ○実行力ある事業者が時代に合う事業を開始 旧旅館のリノベ復活、クラフトビール製造等、時代のニーズにあった事業が展開されつつある ○高島市には日本の百選などの観光資源が多い メタセコイア並木を始めとする有名観光資源や、レベルの高い農産物や工芸品等が多い ○ピワイチのルート上に位置している 今津駅周辺地域はピワイチのルート上にあり、ピワイチの拠点としての利用も可能 ○市外から人を誘引する取組が進んでいる 移住・定住や、関係人口づくりなど、市外から人を地域へ誘引する様々な取組が進んでいる 	<p>W 弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○琵琶湖に対する心理的距離が遠い 住民にとっては生活空間で、来訪者に見られるものとしての意識が低い ○集客力のある観光資源が少ない 知名度の高い観光資源が少なく、観光資源も点在し、ストーリー性や相互ネットワーク化が不十分 ○琵琶湖周航の歌の認知度が低下している 重要な文化資源であるが、歌を知らない世代が増えるなどアピールできる環境が脆弱になっている ○飲食や宿泊施設などの楽しみの機会が弱い 食事を楽しめる店、体験ができる店、宿泊施設や夜を過ごせる楽しみが少なく滞在や宿泊を促す要素が少ない ○存続の危うい観光資源がある 景観規制もなく、未利用の古民家などが取り壊されたり建て替えられていく ○今津らしい食・お土産・名物の印象が薄い 特産品が湖魚等の他に目立ったものがなく、来訪者を意識した店舗や食べ歩きできる商品も少ない ○観光関連の情報環境が不十分 Wi-Fi スポットやQRコード対応の案内など、スマホ等の情報機器の利用環境整備が進んでいない ○変化に対して慎重な住民気質 住民や事業者は、新しい事業やまちの変化に対して慎重な姿勢であり、じっくりとした取組みが求められる ○遊休地の増加 南沼市有地のほか、旧郡民会館跡地、民間空き地、空き家が増加し、まちの活気の低下を感じさせている
	外部環境	<p>O 機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○北陸新幹線敦賀延伸による関係地域の拡大 首都圏等からの注目の高まり、来訪増加を期待できる ○サイクリング人口が増えている ピワイチは人気が高く、多くのサイクリストが利用している（2015年5.2万人→2019年10.9万人） ○地方都市への関心が高まっている コロナ禍やアウトドアブームで地方都市の自然・文化・生活が注目されている ○潜在のスタイルが多様化している ワーケーション、二拠点生活などの滞在スタイルが注目されている ○サステイナブルな旅への価値観の変化 コト消費、環境、健康、自然回帰、食の安全・地産地消等、旅で得たいものへの価値観が変化している ○ICT社会進展により情報発信が容易に行える インターネット、SNSの普及により個人レベルの情報発信、ニッチな情報の流通が容易になっている

2. 近江今津駅周辺活性化に向けた課題

以上の分析結果から、今津駅周辺地域の強みを活かし、弱みを克服しながら、観光交流を基盤としたまちづくりに取り組んでいく上での課題を抽出した。課題は、①めざすべきまち、②まちの魅力づくり、③取組の実現という3つの視点から整理している。

《視点1》 どんな観光のまちをめざすべきか

■まちの暮らしと人に寄り添った、ほどよい賑わいをめざす観光

- 大規模な集客資源の無い今津駅周辺地域への来訪需要は潜在的に大きくなく、また行政による大規模な投資も難しいため、小さな取り組みをつなぎ合わせる形でのまちづくりがふさわしい。
- 今を大事にする住民の感性にあわせて、まちの姿が大きく変わり生活に影響が生じるような観光ではなく、地域と溶け合ったほどよい賑わいを求める観光まちづくりが求められる。

■観光・交流ニーズの変化、アフターコロナへ対応した先を見据えた観光

- 暮らすように過ごしたり、地域づくりへ参加することへの関心、地方、自然、ゆったりした時間や空間への嗜好、ワーケーション、二拠点生活への注目など、滞在スタイルの変化への対応が求められている。
- SNSの普及により、ニッチな観光情報へのアクセスが容易になり、小さな取り組みにも注目されるベースができつつある。
- コロナ禍を経て観光へのニーズが多様化するなかで、今津の強みを活かして、既成観念にとられない新しい発想で取り組むことが求められる。

■高島市への入り口として広域的なアピールができる観光

- 北陸新幹線敦賀延伸の効果が期待でき、高島市からの情報が発信しにくかった北陸や北関東方面へも高島をアピールする機会が増えるものと考えられ、従来からの京阪神や中京方面に加えて新たなマーケットとして対応していく必要がある。
- 特急停車駅である今津駅は、高島市の玄関口として、市内各地の観光地と連携しつつ、個性を発揮していくことが求められる。

■今津駅周辺地域と他地域との連携・差別化を図る観光

- 今津地域への来訪と滞在を促すために、今津独自のコンテンツを見出し育てていくことが求められる。
- 加えて、メタセコイア並木や白鬚神社等の市内各地、琵琶湖沿岸地域をはじめ県内の日本遺産やビワイチ等の広域ネットワークも視野に入れ、場所、モノ、人等のつながりをつくることで今津地域の魅力を向上させる取り組みも求められる。

《視点2》 何をどのように魅力化していくか

■眠った資源を活かした、滞在し、体験し、消費できる観光

- まちへの長時間滞在や宿泊そのものが目的となるような、これまでとは違う時間の使い方を提案するため、以下に示すような地域の資源を再発掘し、新たな光をあて、様々な体験や購買を行うことのできる観光を目指す必要がある。

<最大の資源である琵琶湖が持つ多面的な価値を活かす>

- 今津駅周辺地域は県内でも数少ない琵琶湖岸に発展した地域であり、自然、都市構造、生業、生活、文化がすべて琵琶湖と関わり有形無形の資源として残されているが、十分に活用されていない。
- 湖岸に面していながら、琵琶湖が民家の裏側に隠されているため、通りからのアクセスが難しい。
- 琵琶湖岸に接するまちとしての価値を改めて評価・物語化し、観光のメインテーマとするなど、琵琶湖を楽しむ場所や機会をつくっていくことが求められる。

<まちの暮らし、時間、風景などを観光コンテンツとする>

- 従来の今津駅周辺地域の観光は、例えば琵琶湖汽船とJRの乗り継ぎ時間を消化するための短時間の食事や「見る」観光が主であった。
- まちの背景にある暮らしの文化、湖魚に関わる生業や食、昔ながらのお店、湖岸の風景、流れるゆったりとした時間などを観光コンテンツ化しこれを体験し味わうことで、滞在したり宿泊できる観光へとシフトしていくことが求められる。

<ヴォーリズ建築の物語化と生きた活用>

- ヴォーリズ建築は貴重な観光資源であるが、建物を観る利用が主であり収益性が低い。
- 歴史的にも意匠的にも価値が高く魅力的な建築の姿を守りつつ、より幅広い来訪者を意識して多面的な利用を図ることで、付加価値を高めていくことが求められる。

<「琵琶湖周航の歌」の認知度向上>

- 「琵琶湖周航の歌」は琵琶湖を代表するソフト資源の一つで、かつては全国に知られたキーワードコンテンツだったが、近年は若い人に歌そのものが知られていない。
- 今津駅周辺地域と切り離せない観光資源である琵琶湖周航の歌に新しい視点で光をあてて、再度クローズアップさせる取り組みが求められる。

<今津駅周辺の遊休地の活用>

- 南沼市有地や旧郡民会館跡地のほか、現在は使われていないJR西日本の社宅など、中～大規模な遊休地が点在しているため、観光や商業だけでなく、まちの活性化にも寄与する形で活用されることが求められる。
- 個人所有の住宅や商店についても空き家となっている物件があるが、賃貸や売りに出されている件数は多くなく、休眠資産となっている。新築に比べて安価に移住や起業を誘致することが可能であり、地域に愛着を持って移住する人や、ビジネスチャンスを見出して起業する人がまちの一員となることで、まちの衰退に歯止めをかけることが期待できる。これらの民間空き家を活用することにより、まちの空洞化を食い止めることが期待できることから、空き家物件の有効な利用が求められる。

■今津駅周辺地域のストーリー化とエリア特性に応じた展開

- 今津駅周辺地域を市外に向けて広域的にアピールしていくためには、琵琶湖、水など、対象エリアを包含するテーマを設定し、その物語を描くことで地域魅力を打ち出していくことが求められる。
- 一方で、今津駅周辺地域には上記のような性格が異なる観光資源が複数あり、空間的にみても浜通り周辺、辻川通り周辺を中心にまちの様相が異なっているため、エリアの特性に応じたテーマ設定で売り出していくことも求められる。

■ワーケーションなど様々なスタイルで過ごせる居場所づくり

- 従来の物見遊山的な観光から、働き方改革やコロナ禍を経て人々の観光に対するニーズが多様化し、仕事、居住、社会参加等と旅が接近したり合体するような観光交流が広がってきており、これが地域活性化にも寄与することが期待できる。
- 今津駅周辺地域はその受け皿としての環境を備えており、多様化する観光ニーズに対応していけるよう、短期～長期の滞在・生活サービス、ワーケーション等にも対応できる情報通信、地域住民との交流といった機能を充実していくことが求められる。

《視点3》 どうやって取組を実現していくのか

■地域や民間事業者等が主体となり、これに行政が協働することを基本とする取組

- 地域資源を最大限活用すべき今津駅周辺地域の観光まちづくりは、地域住民の知恵と力による民間主体での推進が求められる。
- 行政には、民間主体の取組が円滑・効果的に進むように、行政施策間の連携や支援制度の整備、情報交流等が求められる。
- 今津駅周辺地域の住民は現状を大切にする傾向が見られ、また地元事業者の方も観光事業の関心が低いことから、住民や事業者のやる気を喚起させる取り組みが求められる。

■実行力のある人・企業・団体の動きを積極的に取り込んでいく

- 既に今津駅周辺地域内で、古い旅館のリノベーション利用や、Uターン者による料理店の開店、ヴォーリズ建築の保全・活用、地ビール製造等、地元や地域外の個人・事業者・NPOの手による新たな取組が展開されている。
- これらの取組が成功することで住民意識の改革に前向きな影響が生じ、観光まちづくりの起爆剤となることが大いに期待されることから、個々の取組や相互ネットワークの形成、また地域内外からの更なる参入を支援していくことが求められる。

■住民のまちへの関心、まちを愛する意識を育てる

- 地域主体の観光まちづくりは、地域住民の積極的な関わりが成否を左右するが、住民すべてがわがまちの魅力や可能性ポテンシャルを知っているわけではなく、来訪者に向けてわが町をアピールすることも少ない。
- 観光まちづくりの第一歩として、地域住民がまちを知り、地域の観光資源を保存・継承していく意識を育てることが重要であり、子供も含めて地域を学び地域資源の価値を知ることができる環境づくりが求められる。

■地域の取組をマネジメントする人・組織が必要

- 観光まちづくりの推進には、観光施設の整備や誘客施策だけでなく、そこに住む、または関係する住民や事業者の意識・活動の醸成、活動相互の調整、空家・空店舗活用やまちなみ維持等を通じた町の価値を維持・向上させていく取り組みが求められる。
- これらの幅広い地域マネジメントを行うための人材の確保と組織体制の構築が求められる。

第5章 類似事例の研究

1. 課題に対応した事例の収集・整理

まちづくりの課題を踏まえ、課題解決に関わりがあると思われる国内の取組事例を収集・整理した。

表 収集事例の概要

no.	実施地域	事業名	開始時期	ポイント
1	兵庫県 篠山市	篠山城下町ホテル	2015年	<ul style="list-style-type: none"> ○古民家・空き物件の活用と地域再生 ○まち全体を一つのホテルとして見立てた分散型のエリア開発事業 ○滞在を通して地域の歴史・文化を体感する
2	長崎県 小値賀町	おぢかアイランド ツーリズム	2010年	<ul style="list-style-type: none"> ○高付加価値の旅行商品の提供 ○古民家活用による宿泊施設、飲食店の展開 ○島民を巻き込んだ観光まちづくり ○ワンストップ窓口 DMO の創設
3	京都府 伊根町	舟屋を活用した農泊	2017年	<ul style="list-style-type: none"> ○舟屋を活用した宿泊施設での農泊 ○地域ならではの体験プログラムの展開 ○観光交流施設を活用した泊食分離の運営
4	佐賀県 佐賀市	佐賀「わいわい!!コ ンテナ2」プロジェ クト	2012年	<ul style="list-style-type: none"> ○空き地の活用による賑わい創出 ○コンテナハウスによるコミュニティスペース、図書館の設置 ○波及効果としての空き店舗活用の連鎖
5	佐賀県 鹿島市	酒蔵を活用した地域 全体の観光振興策	2012年	<ul style="list-style-type: none"> ○酒蔵と観光資源を巡る「酒蔵ツーリズム」の普及 ○市内で製造される酒類と地域が持つ文化や歴史を合わせて国内外へ発信
6	熊本県 阿蘇市	若手中心の新たな商 店街組織づくりと自 立的な集客事業によ る商店街の再生	2001年	<ul style="list-style-type: none"> ○商店街の店舗2代目中心の活動チーム結成とイベント活性化 ○湧き水の水基を活用した観光PR ○買物チケットの発行による回遊性の向上
7	神奈川県 三浦市	みさきまぐろきっぷ	2009年	<ul style="list-style-type: none"> ○交通・食事・レジャーがセットになったお得な切符の発売 ○混雑状況の見える化による来訪者の分散利用と利便性の向上
8	新潟県 村上市	むらかみ町屋 再生プロジェクト	1998年	<ul style="list-style-type: none"> ○プライベート空間の公開 ○まちの活性化から景観づくり ○行政に頼らない市民主導による取組
9	東京都 中央区	銀座地区のまちづく り	2004年	<ul style="list-style-type: none"> ○銀座デザイン協議会の設置 ○銀座デザインルールの策定 ○開発業者と協議により計画をコントロール

表 収集事例の詳細

no.1 篠山城下町ホテル	
実施地域	兵庫県篠山市
ポイント	○古民家・空き物件の活用と地域再生 ○城下町全体を一つのホテルとして見立てた分散型エリア開発 ○滞在を通して、集落が持つ自然環境の良さや人々の暖かさなど、地域の暮らし体験を提供

開始時期	2014年 特定地域再生事業開始 2015年 篠山城下町ホテル開業
背景	○人口減少、少子高齢化、空き家・空き店舗の増加、商店街の衰退、雇用の確保、町並みの保全等の複合的課題の解決
概要	○城下町に点在する空き家の改修と改修済み建築物への店舗運営者誘致によるエリア開発 ○地域の建築文化・生活文化に根ざした小規模分散型ホテルの創設 ○丹波焼陶芸体験の提供、4つの観光施設・重要伝統的建造物群保存地区を含む城下町散策の提案を通じ、地域を体感するアクティビティを提案
工夫や特徴等	○城下町に点在する歴史的建造物について、その建物が持つ趣と歴史性を尊重して改修 ○改修済み建築物に事業者を誘致し、宿泊施設、レストラン、工房、雑貨店などとして活用 ○「生活を大切に、安易な観光化は求めない」との住民の意向を汲み、住民にとって無理のない範囲での運営（稼働率30%）とすることで、高級感あるオーベルジュ形式としつつも、集落が持つ自然環境や人々の暖かさなど、地域の暮らし体験を提供



出典	内閣官房 https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kominkasupport//file/case_studies_2018_2.pdf http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/tiikisaisei/dai29nintei/plan/zenhan_a01.pdf 国土交通省 https://www.mlit.go.jp/common/001237080.pdf NIPPONIA 篠山城下町ホテル https://www.sasayamastay.jp/
----	---

no. 2 おぢかアイランドツーリズム

実施地域	長崎県小値賀町
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○個人客を対象とした高付加価値旅行商品の提供により、観光地域としてブランド化 ○古民家再生と宿泊施設・レストランとしての活用 ○農家、漁家を巻き込んだ観光まちづくり ○受注型企画旅行として手配できるワンストップ窓口 DMO の創設

開始時期	2007年 子どもを対象とした自然体験プログラム開始 2010年古民家活用施設開業
背景	<ul style="list-style-type: none"> ○過疎化対策の進行 ○小中高生対象の自然体験プログラム・民泊事業から個人客対象の宿泊・島暮らし体験プログラムへの転換
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○古民家を観光資源として再生し、レストラン・宿泊施設として活用 ○島民レクチャーによる漁業体験、波止場での小魚釣り、魚さばき、島民宅での料理づくりなど、体験プログラムの充実 ○船の運行状況の提供や島内での観光プラン提供などを行う島旅コンシェルジュの配置
工夫や特徴等	<ul style="list-style-type: none"> ○1棟1組貸切による宿泊で、暮らすように滞在 ○島内産の野菜・米・調味料の食材セットの提供により、宿泊施設内での調理も可能 ○食、宿泊、過ごす、を受注型企画旅行として手配できるワンストップ機能を持つ DMO 創設



出典	<p>おぢか島旅 https://ojikajima.jp/tourlism/1196.html 内閣官房 https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kominkasupport//file/case_studies_2018_2.pdf 国土交通省 https://www.mlit.go.jp/common/000213065.pdf</p>
----	--

no. 3 舟屋を活用した農泊

実施地域	京都府伊根町
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○舟屋を活用した宿泊施設での農泊（農山漁村滞在型旅行） ○宿泊施設で提供される暮らし体験、地域ならではの体験プログラムの展開 ○観光交流施設を活用した、泊食分離による経営者負担軽減の運営スタイル

開始時期	<p>2014年 観光交流施設整備のためのプロジェクト開始</p> <p>2016年 京都府北部地域の連携とネットワーク強化を図る「海の京都 DMO」設立</p> <p>2017年 観光交流施設「舟屋日和」開業</p>
背景	<ul style="list-style-type: none"> ○観光資源として人気のある舟屋が立ち並ぶ地域である一方で、観光客がゆっくと立ち寄れる居場所が少なく、曜日や時間によっては食事できる場所がない状況 ○食事提供のハードルが高く、農泊の新規開業が伸び悩む状態 ○観光受入体制の充実を目的とし、観光途中の立ち寄り場所となる観光交流施設の整備を計画
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○親水空間やイベントスペース、飲食店等を備えた公設民営の観光交流施設「舟屋日和」開業 ○宿泊施設所有船による伊根湾遊覧や漁業・釣り体験、漁師に教わる漁具づくり体験、地元ガイドによるまち並み散策ガイドツアーなど、漁師町の暮らしを体感できるプログラムの実施 ○海の京都 DMO による情報発信と旅行商品の販売
工夫や特徴等	<ul style="list-style-type: none"> ○観光交流施設の設計プランについては、町内の民間有志、各団体・自治組織の代表者、有識者等によって構成する「海の京都」伊根町実践推進会議が中心となり進行 ○観光交流施設の飲食店を活用した泊食分離により、農泊施設の新規開業でハードルとなっていた食事提供問題を解決 ○無償で実施していた散策ガイドを伊根町観光協会が新たな体験プログラムとして開発・販売 ○住民の自発的な体験プログラムへ参画 ○多くの宿泊施設がレストラン利用・体験プログラムの予約を代行し、宿泊者は宿泊代とともに食事代、体験プログラム代を宿泊施設に支払うワンストップ型のオペレーションを実施。



出典	<p>国土交通省 https://www.mlit.go.jp/common/001237080.pdf</p> <p>伊根町観光交流施設「舟屋日和」http://funayabiyori.com/</p> <p>伊根町観光協会（海の京都 DMO 伊根地域本部）http://www.ine-kankou.jp/</p> <p>海の京都 DMO https://www.uminokyoto.jp/city/detail.php?area_id=6</p>
----	---

no. 4 佐賀「わいわい!!コンテナ2」「オープンシャッタープロジェクト(派生事業)」	
実施地域	佐賀県佐賀市
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○まちなかで誰もが自由に楽しむことができる空き地リビングにより、賑わいを創出 ○コンテナハウスによるコミュニティスペース、図書館の設置 ○プロジェクトの波及効果として、空き店舗活用が連鎖的に増加

開始時期	2011年 わいわい!!コンテナ 2012年 わいわい!!コンテナ2 (わいわい!!コンテナ好評のため内容を充実させ開始) 2015年 オープンシャッタープロジェクト実施
背景	○周囲に駐車場が多く、閑散とした駅前商店街の賑わい創出
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○空き地を活用したコンテナ広場の整備 ○移動可能なコンテナハウスによる、スタッフ常駐のコミュニティスペース・図書館の設置 ○イベントやワークショップ、サークル活動などに利用できる芝生、ウッドデッキの設置 ○HP上やコンテナハウス内での商店街の情報発信 ○派生事業としてのオープンシャッタープロジェクトによる空き店舗と起業家のマッチング
工夫や特徴等	<ul style="list-style-type: none"> ○一部の地域に注力できない行政の力は借りず、民間の力で狭い地域に賑わいをつくる ○チャレンジショップや作品の展示、イベントなどに利用できる有料貸しコンテナの設定 ○コンテナ広場の賑わいの波及効果による周辺空き店舗の活用、まちの回遊性の向上

出典	わいわい!!コンテナ2 http://www.waiwai-saga.jp/container/book-community/ 内閣府 https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/seisaku_package/siryou_pdf/siryou_n3.pdf 事業構想大学院大学 https://www.projectdesign.jp/201508/pn-saga/002359.php LIFULL HOME'S PRESS https://www.homes.co.jp/cont/press/reform/reform_00552/
----	--

no. 5 酒蔵を活用した地域全体の観光振興策

実施地域	佐賀県鹿島市
ポイント	○市内 6 酒蔵を中心に協議会を立ち上げ、酒蔵と観光資源を巡る「鹿島酒蔵ツーリズム」を普及 ○市内で製造される酒類と地域が持つ文化や歴史を合わせて国内外へ発信

開始時期	2011 年「鹿島酒蔵ツーリズム推進協議会」設立 2012 年「第 1 回鹿島酒蔵ツーリズム」を開催 2013 年「鹿島市日本酒で乾杯を推進する条例」を制定
背景	○地域活性化を目的とした地元有志の会が、まちづくりについて意見交換する会議を毎月開催し、住民と行政の橋渡し役を担っていた ○酒文化が定着するほどの認知度がない当地において、2011 年 IWC 日本酒部門での「チャンピオン・サケ」を一銘柄が受賞 ○地酒について文化・歴史とともに情報発信するために「鹿島酒蔵ツーリズム推進協議会」を設立
概要	○鹿島市のお酒イメージを定着させるため、「酒蔵ツーリズム」を商標登録 ○協議会設立後、今後の取組について話し合う会議を月 1 回程度開催 ○市内の酒蔵、地域の食、文化を紹介するパンフレットを作成 ○市内 6 酒蔵の同時蔵開き、市内で別日に開催していたお酒に関係する 2 つのイベントと協力・連携し、「第 1 回鹿島酒蔵ツーリズム」を 2 日間開催。当日は、各酒蔵・イベント会場を巡る無料循環バスの運行、6 酒蔵を巡るスタンプラリー、記念グッズの販売を実施 ○翌年以降、さらなる別イベントとの協力・連携により、集客増加に成功 ○酒蔵ツーリズムボランティアガイド育成講座の実施、食との連携の取組も実施
工夫や特徴等	○地元の 6 酒蔵が鹿島全体の活性化のために協力的に動いた ○酒蔵ツーリズムの先駆け、世界一の酒誕生のまちとしてメディアが取り上げ、認知度が向上 ○英語版 HP・ガイドブックの作成、蔵元案内看板に英語を併記するなど外国人観光客に対応 ○酒蔵ツーリズム推進協議会の事務局は、市の商工観光課が担当



出典	国土交通省 https://www.mlit.go.jp/common/001237079.pdf https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/tebukuri/pdf/Part30_H27/H27_ippan_14.pdf 鹿島酒蔵ツーリズム http://sakagura-tourism.com/main/1.html
----	---

no. 6 若手中心の新たな商店街組織づくりと自立的な集客事業による商店街の再生	
実施地域	熊本県阿蘇市
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○商店街の将来に危機感を持つ2代目が中心の活動チーム結成とイベントの賑わい創出 ○湧き水の飲用場「水基」を活用した観光PR ○市内の協力店で利用できる買物チケットの発行による回遊性の向上

開始時期	2001年
背景	<ul style="list-style-type: none"> ○郊外型の大型店進出により賑わいの薄れた商店街の再生 ○跡継ぎ世代中心のグループを結成し、商店街の賑わい復活を目標に取組開始
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○これまで行ってこなかった隣接神社への観光客の取り込みを目的として、湧き水用の水基を複数設置し、新たな観光スポット「水基巡りの道」を創出 ○滞在時間の延長を狙い、水基、商店街、歴史などの情報を記したマップを作成 ○地域について語れる案内人養成のため、商店街関係者を中心に案内人養成講座を開催 ○市の遊休地を借上げ、観光客と地域住民の休憩所・交流場所として広場を整備 ○商店街に畳200畳を敷き詰めた「お座敷商店街」など、新たなイベントを開催 ○湧き水、熊本特産の馬肉など、地域性を生かしたオリジナル商品の開発 ○市内複数店舗で利用できるスイーツチケットの販売により、市内の回遊性を向上
工夫や特徴等	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の魅力を見直すことによる地域資源の発見 ○取組がメディアに取り上げられるようになり、来訪者が増加 ○組織の事業実施主体は機動性のある子世代が担当し、親世代は商店街の景観整備や次世代が活動しやすい環境づくりを行うことにより、商店街の意思決定が早まり、時代の流れを取り入れることが活性化につながったと考えられている



出典	<p>内閣府 https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/seisaku_package/siryou_pdf/siryou_n3.pdf</p> <p>中小企業庁 https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/sapoin/monozukuri300sha/2018/syoutengai028.pdf</p>
----	---

no.7 みさきまぐろきっぷ

実施地域	神奈川県三浦市
ポイント	○交通（電車・バス）・食事・レジャーがセットになったお得な切符の発売 ○飲食店の混雑状況見える化による来訪者の分散利用と利便性の向上

開始時期	2009年 発売開始 2017年 リニューアル
背景	○人口・観光客の減少による、京急沿線価値低下の懸念 ○都心から約1時間の地の利を生かし、来訪者増加・将来定住人口増加を狙う ○京浜急行電鉄、三浦市、アルコール離れを食い止めたい麒麟ビールの協働で行ったキャンペーン「三崎のマグロを応援し隊」（マグロMAP記載の飲食店での飲食、該当店舗での買物による、ビールや豪華景品が当たる抽選券のプレゼント）の盛況による、内容を充実させた新たなキャンペーンの実施
概要	○京急三崎口までの往復乗車券、三崎地区バス乗車券、食事券、レジャー施設利用券をセットにしたお得な切符の発売 ○交通渋滞緩和、地域回遊性向上のため、官民共同の協議会「みうらレンタサイクル運営協議会」を設立し、「三浦・三崎おもひで券」でのレンタサイクル、京急オープントップバスを利用可能に ○繁忙期の飲食店混雑状況の緩和を狙い、各店舗の混雑状況をオンライン上で確認可能なシステムを開発
工夫や特徴等	○京浜急行電鉄、三浦市、麒麟ビールマーケティングによる3者協働がきっかけ ○1日のプランを深く考えず、お得に、気軽に、美味しいものをすぐに体験できるパッケージ

主要駅からの発売額(大人の場合)		
品川から	京急蒲田から	京急川崎から
→3,570円	→3,570円	→3,570円
横浜から	上大岡から	金沢文庫から
→3,480円	→3,360円	→3,360円

1枚目 電車&バス乗車券
京急線往路乗車券(ゆき)
途中下車可、ただし退戻りはできません。
※発駅→三崎口駅間のみ
京急線復路乗車券(かえり)
途中下車可、ただし退戻りはできません。
※三崎口駅→発駅間のみ
京急バスフリー乗車券
乗務員にお見せください。
フリー区間の詳細については、
P.12～15をご覧ください。

2枚目 まぐろまんぷく券
P.3～7記載のみさきまぐろきっぷ
加盟店舗のメニューから1つお選び
ください。※1名さま1回限り有効。

3枚目 三浦・三崎おもひで券
P.8～11記載のみさきまぐろきっぷ
加盟店舗・施設から1つお選びください。
※1名さま1回限り有効。

改札機通過時は乗車券の
取り忘れにご注意ください

ご注文時に店舗および施設
スタッフにお渡しください

出典	京浜急行電鉄株 https://www.keikyu.co.jp/visit/otoku/otoku_maguro/ 国土交通省 https://www.mlit.go.jp/common/001237079.pdf 日本経済新聞 https://release.nikkei.co.jp/attach_file/0458357_03.pdf
----	--

no. 8 むらかみ町屋再生プロジェクト

実施地域	新潟県村上市
ポイント	○住民のプライベート空間の公開 ○商店街活性化の取組から景観づくりへの発展 ○行政に頼らない、住民有志の活動と市民ファンドでの資金調達による取組

開始時期	1998年 町屋の公開 2002年 「黒塀一枚千円運動」開始 2008年 「緑一口千円運動」開始
背景	○昔ながらの町屋が多く残されている商店街ではあるが、外観はアルミやサッシ、トタンなどに変わり、町屋の雰囲気を感じられない状態 ○郊外型の大型店出店に伴い、商店街の活気が失われ始めていた
概要	○生活空間である町屋内部の公開、観光客への散策地図配布により、まち中を散策する観光客が増加 ○さらなる取組として、住民所有のひな人形や武者人形、屏風を町屋に飾るイベントを開催し、一大イベントへと成長 ○時代の流れで増えたブロック塀のまち並みを城下町の歴史と風情を感じさせるものとするため、資金、製作とも住民有志による「黒塀一枚千円運動」を展開。取組は町屋の外観再生に発展し、全国初の市民基金設立後、外観を町屋らしいものとする事で町並みが整い始め、その取組に触発され自費で町屋風にリフォームする住民も出現 ○通りの緑化を進め景観をよりよくするため、「緑一口千円運動」を実施
工夫や特徴等	○行政に頼らない市民主導による取組 ○作業には、大工、建具屋など多くの職業が関わるため、まちの経済活性化にも繋がった



黒塀づくり作業前



黒塀づくり作業後



緑化前



緑化後

出典	国土交通省 https://www.mlit.go.jp/common/000213048.pdf https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/te dukuri/pdf/Part28_H25/H25_taisyuu_01.pdf ふるさとチョイス https://www.furusato-tax.jp/gcf/707
----	--

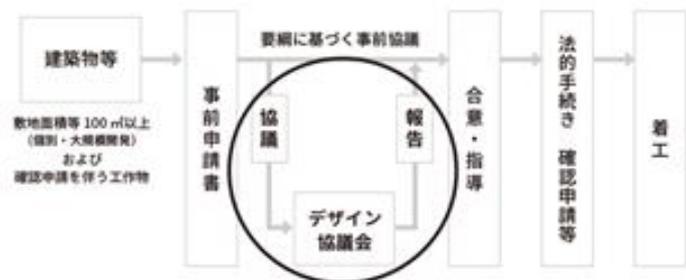
no.9 銀座地区のまちづくり

実施地域	東京都中央区
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の有志による銀座デザイン協議会の設置 ○銀座らしさを表現するデザインルールの策定 ○一定規模以上の開発計画などについて開発業者と協議を行い、銀座のまちにふさわしい計画となるようコントロール

開始時期	<p>2004年 銀座街づくり会議設立</p> <p>2006年 銀座デザイン協議会発足</p>
背景	<ul style="list-style-type: none"> ○明治期よりまちの人たちが自ら話し合いながら物事を決める歴史・風土 ○経済状況や国際化の進展、都市計画や交通計画の考え方、ライフスタイルの価値観が変わる中、「銀座らしさ」とは何かを改めて問う必要性が出現
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○「にぎわいと風格」をコンセプトに、建物の高さ制限・容積率の緩和、最小限の壁面後退、建物用途の制限などを定めた地区計画「銀座ルール」を策定 ○銀座での土地利用の仕方に東京都駐車場条例が合致しないため、区の要項として、銀座地区独自のルール「駐車場銀座ルール」を策定 ○これらの計画をもとに、銀座デザイン協議会が開発業者と協議を行い、銀座のまちにふさわしい内容とすることで、まちのブランド力の維持・向上を図る ○その時々々の課題に即したシンポジウムを開催して啓発に努め、学生の銀座研究を支援
工夫や特徴等	<ul style="list-style-type: none"> ○地区計画「銀座ルール」「駐車場ルール」を完成形と認識せず、今後のさらなる充実化を目指し、2011年に「銀座デザインルール」第2版を発行

「銀座デザインルール 第二版」目次

- 第1章 デザインルールを支える仕組み
 - 地区計画と要綱による街づくりのルール
 - 話し合いをベースとした街づくりのルール
 - 判断基準
- 第2章 デザインガイドライン
 - 街づくりの背後にある考え方
 - 銀座全体に共通する街の特徴
 - 通りの空間構成に対する考え方
 - 銀座デザインの方向性
 - 大規模開発における銀座らしさの実現
 - 街並みの維持・生成についての考え方
 - エリア・通りごとの観察
- 第3章 これからの街の課題
- 第4章 街づくりの組織と歩み
- 第5章 銀座デザイン協議会の協議
 - 概要と手続きの進め方



出典	<p>一般財団法人都市みらい推進機構 http://www.toshimirai.jp/machidukuri/areamanagement.pdf</p> <p>銀座街づくり会議 銀座デザイン協議会 https://www.ginza-machidukuri.jp/design/rule_chuoku.php</p>
----	--

2. 今津駅周辺地域での適用可能性

収集事例の特徴と今津駅周辺地域のまちづくりの課題とを照らし合わせ、今津駅周辺地域において可能性があると思われる展開の方向性を概略検討した。

表 今津駅周辺地域における事例の適用可能性

no	事例事業名	今津駅周辺地域への展開方向性	
1	篠山城下町ホテル	浜通り 辻川通り	<ul style="list-style-type: none"> ・古民家活用と事業者誘致 ・まち全体を一つのホテルに見立てた分散型エリア開発 ・まちの雰囲気づくり ・住民を巻き込んだ取組
2	おぢかアイランドツーリズム	まち全体	<ul style="list-style-type: none"> ・古民家活用と事業者誘致 ・体験プログラム ・住民を巻き込んだ取組
3	舟屋を活用した農泊	浜通り 辻川通り	<ul style="list-style-type: none"> ・泊食分離の運営（＝分散型エリア開発） ・体験プログラム ・住民を巻き込んだ取組
4	佐賀「わいわい!!コンテナ2」プロジェクト	駅南市有地	<ul style="list-style-type: none"> ・法に縛られにくい移動可能なコンテナ活用 ・ビワイチの拠点としてカフェや自転車店への活用
5	酒蔵を活用した地域全体の観光振興策	まち全体	<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の活性化事例 ・川魚に置き換え、特産品としての売り込み ・市内の各酒蔵協働による取組
6	若手中心の新たな商店街組織づくりと自立的な集客事業による商店街の再生	まち全体	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の再認識と活用 ・竹生島クルーズ船乗客の取り込み
7	みさきまぐろきっぷ	まち全体	<ul style="list-style-type: none"> ・JR、琵琶湖汽船、まち全体での連携
8	むらかみ町屋再生プロジェクト	浜通り	<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の景観づくり
9	銀座地区のまちづくり	浜通り	<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の景観づくり ・景観規制

第6章 今津駅周辺地域の観光まちづくりを検討する際の方向性

今津駅周辺地域内外の環境特性とまちづくりの課題を踏まえ、観光交流を基盤として住民のくらしを豊かにできる地域活性化の実現に向けて、今後地域が取り組んでいく観光まちづくりを検討する際の方向性を、以下のように提案した。

1. 地域の目指すべき姿

<人と地域の将来像>

○来訪者

- 京阪神をはじめ、東京圏など遠隔地からも来訪者が訪れ、日帰りや宿泊でまちを巡っている。
- 来訪者が滞在、回遊して、びわ湖が育み・人々が伝えてきた、自然、まちなみ、暮らし、流れる時間などを楽しんでいる。
- まちの環境に魅入られて、仕事をしながら滞在する人、地域の人と地域づくりに参加する人、など様々な滞在スタイルが広がり、住んでみたいと考える人も生まれてくる。

○今津駅周辺地域の住民・事業者

- 今津駅周辺地域に暮らす住民・事業者、さらに新たにやってきた人などを加え、来訪者を迎える取り組みを行い、さらに相互に連携し情報発信されることで魅力とにぎわいが徐々に生み出されていく。
- これらを通じて、地域の再発見、愛着と誇り、価値の継承が生まれ、仕事やまちづくりの新たな取り組みが創出される好循環が生じている。

○高島市の今津

- 北陸新幹線利用者をはじめとする広域から高島市を訪れる人の玄関口としての今津駅周辺地域。
- 市内各地の観光スポットを周遊する際のゴール・スタート地点として各地の関係情報案内などを提供している。

2. 取組の方向性

方向性1 「今津」ブランド構築に結び付く地域リソースの再評価と磨き上げによる魅力づくり

- 琵琶湖、ヴォーリズをはじめとする他地域に負けない個性的な資源を再評価し魅力を再構築。
- 地域に根差した食べ物やお店等を活かし、個性的な観光周遊のコンテンツを作り出す。

<取組みイメージ>

A 琵琶湖・浜通りの魅力づくり

A 1 楽しめる琵琶湖岸の形成

- 辻子や石垣など既存の資源を含め、湖岸を景観や水辺の環境を活かして四季折々に楽しめる親水空間としてつくりあげる。
- 来訪者がのんびりと時間を過ごしまちと琵琶湖を満喫できる、今津を代表する魅力的な空間として活用。

【例】

- 浜辺を巡る散歩道、浜から水へのアクセスが可能な親水空間、辻子のパブリックエリア化により、まち・浜・湖のつながりを感じられる空間づくり
- コンテナハウスなど簡易店舗を利用した、若年層が楽しめるアウトドアアクティビティ（カヌー、サップ、湖水浴等）の拠点づくり
- 琵琶湖の風景を眺める休憩所やベンチ、湖上ステージ等の設置

A 2 琵琶湖を楽しむ多様な機会の提供

- 体験イベントや季節限定の飲食施設などを通じて、琵琶湖の多面的な魅力を来訪者が体験できる機会や空間を提供。
- 琵琶湖の四季・時間折々の自然や景観、住民が日ごろ何気なく琵琶湖から受け取っている恩恵など。

【例】

- 琵琶湖の魅力を前面に出した企画の実施（ご来光ツアー、浜辺ヨガ合宿、湖岸に面する一般住宅の「あけっぴろげ」など）
- 間接的に「竹生島」の魅力をアピールし、巡礼を意識したしかけづくり
- 季節限定のカフェ、ビアガーデン、水辺遊びイベントなど、浜辺を楽しむ機会の提供
- ビワイチの拠点として、メンテナンスサービスや休憩所の提供

A 3 「琵琶湖周航の歌」の再生と新たなファンの獲得

- 「琵琶湖周航の歌」を知らない世代を対象に再ブレイクをねらうとともに、既存のファン層である中高年代へも新たな魅力を感じてもらう。
- 「琵琶湖周航の歌」に関連するコンテンツの再編集と積極的なプロモーションを展開。

【例】

- 若手ミュージシャンによる新バージョン楽曲製作、アニメなど映像ストーリー化などによる、

- 琵琶湖周航の歌のまちとして再アピール
- 琵琶湖周航の歌資料館PRを含む、琵琶湖周航の歌ポータルサイト開設による総合的な情報発信
 - 琵琶湖周航の歌クルーズツアーの実施など、関連する他地域と連携した取組みの実施

B ヴォーリズ通り（辻川通り）のまちなみ景観の維持・創出と通りの魅力づくり

B 1 通りのまちなみ景観と魅力づくり

- 街道沿いのまちなみ、ヴォーリズ建築、レトロなお店など、点在する魅力的な景観を維持・向上。
- 買い物や飲食が気軽に行われる環境づくりや空地の活用を図り、点在する既存店舗間の距離を縮めた、通りのつながりを感じられる動線づくり。

【例】

- 食べ歩きやショッピング機会充実、期間限定歩行者天国など、通りを中心としたにぎわいづくり
- フードトラックやコンテナハウス、イベント実施など空地を活用したにぎわい創出
- 若者等の公共空間利用（音楽、ダンス、Xゲームなど）を促すしくみ
- 古民家を活用した宿泊施設誘致、空家マッチングなどによる、空家・更地化の抑制
- 地域イメージにあわせた建築ガイドラインの作成など、景観維持向上のしくみづくり

B 2 ヴォーリズ建築の多面的活用

- ヴォーリズ建築を、飲食店や小売店などの多面的な店舗運営や、コンサートや展示会の開催、さらにはワーケーション来訪者の仕事の場などに多面的に活用。
- 歴史的でデザイン性が高い建築空間と店舗・利用サービスとの相乗効果により誘客・利用を向上。

【例】

- 一流料理人によるレストランの運営
- 今津、高島市の産品、在住作家のクラフトなどを集めたショップの運営
- 定期的なコンサートや美術展の開始
- コ・ワーキングスペースなど新たな来訪に対応した利用促進

C 今津らしいとっておきの食や店舗づくり

C 1 今津らしい食・特産品の発掘・開発

- 今津地域・高島市の農林水産品の使用やイメージを前面に出した、今津らしい食べ物やお土産を発掘・開発しPRしていく。
- オリーブや地ビールなど新たな産物づくりとの連携やユーザーのSNSでの今津の思い出情報の分析等を通じて、旧来の特産品にこだわらない新しい地域ブランドづくり。

【例】

- 湖魚、オリーブ、かき、箱館山のソバ、地ビール等、今津、今津周辺地域の食材や素材となる地下水などを活かした物産や飲食メニューの開発・提供
- クレープ、ラーメンなど、特産品利用にこだわらない魅力的な食づくり

C 2 また訪れたい魅力的なお店・宿泊施設の運営

- ・滞在を楽しむためのサービス施設を、地域への再訪や滞在時間を延長する上での魅力的な地域コンテンツのひとつととらえ、個性的な飲食店や宿泊施設の立地や運営。

【例】

- ・今津らしい食・特産品を用いた飲食店やマルシェ、キッチンカー等による臨時店舗の設置、食のイベントの開催
- ・浜通り、ヴォーリズ通りの古民家を活用したホテルや一棟貸し宿泊施設の立地誘導
- ・宿では素泊まりし地元店舗で飲食や買い物を行うバウチャー制度創設
- ・名小路商店街、駅から今津港への道などでの店舗設置、特産市の開催、Aコープ今津店の道の駅化などによる、土産物販売環境の充実
- ・レストランや土産物店での、高島5酒蔵、多数ある湖魚加工品のテイastingサービスの提供
- ・高島屋など今津にゆかりのある企業と関連づけたテーマパークや商業施設などの誘致

方向性2 楽しさと快適さを感じる、来訪者が周遊し滞在したくなるしかけづくり

- ・今津と資源の魅力をもっと高い水準で楽しんでもらうことができるようなしかけをつくる。
- ・様々な体験の機会、物語を感じながら周遊するプログラム、旅の前・中・後の情報などの提供、新しい滞在スタイルの受け皿づくりなど。

<取組みイメージ>

D 今津文化・コト体験の機会・プログラム

- ・琵琶湖とともにある生活、生業や食、陸と湖の接点に育まれたまちやヴォーリズ建築など今津の個性全体を「今津文化」ととらえ、これを基本的なテーマに住民の体験を活かす。
- ・今津を見聞し体験し楽しむことのできるプログラムを作成し来訪者に提供。
- ・今津周辺地域と楽しみ方を分担する魅力の向上を図る広域的周遊・体験プログラムについても検討。

【例】

- ・今津暮らしの365日の再点検による「今津学」と体験プログラムの作成
- ・湖魚の漁業体験と今津漁港の探検ツアープログラムの作成
- ・オリーブ摘み取りや湖魚釣りと収穫物の加工体験など、周辺地域とも連携した食に関する体験プログラムの作成
- ・特産品製造体験など、事業者と協働による来訪者サービスメニューの開発
- ・マキノや新旭、朽木など周辺地域を含めた広域周遊プログラムの作成

E 「今津のストーリー」を歩く、まち歩きプログラム、環境づくり

E1 まち歩きルート・プログラムの開発・普及

- ・点在する幅広い分野の地域資源をつなぎ、今津らしさを感じられるストーリーに沿って今津を巡ることのできるまち歩きルートを作成
- ・ルートにあわせたイベントプログラムの作成やルートを案内するガイド育成のしくみを構築。
- ・滞在時間に合わせて複数ルートを作成し、少しの時間でも楽しみ再訪につなげるきっかけに。

【例】

- ・今津のソフト・ハードの資源を読み解いた地域ストーリーの作成
- ・季節の変化やコト体験を盛り込んだまち歩きルートの作成
- ・まち案内のガイド（名物おじさん・おばさん）の育成
- ・スタンプラリーやミステリーツアー、家族向け歴史学習まちあるきなどのイベント実施

E 2 歩いて楽しめる情報・基盤の形成

- ・まち歩きルートを記したマップや案内サインなど、周遊に役立つ今津の情報発信ツールを充実する。
- ・休憩スペースや歩きやすい道路環境、身軽に行動できるしくみづくりなど、幅広い世代がまち歩きを楽しめる環境を整える。

【例】

- ・まち歩きルートマップ（紙版、スマホ版）の作成
- ・QRコード利用などスマホによるまち案内、解説機能、wifi環境の構築
- ・通り毎のネーミング（巡礼通り、近江鉄道通り他）による個性化と案内サインの充実
- ・地元店舗による食べ歩きできる商品の開発
- ・ベンチや東屋、ばったり床几など、休憩スペースの充実
- ・名小路商店街のアーケード活用など、雨でも楽しめるしかけづくり
- ・グリーンスローモビリティや人力車など、ゆったりまちを巡ることができる交通機能の充実
- ・旧江若鉄道近江今津駅舎に関するモニュメントや案内看板の作成

F 暮らすように過ごしたくなる滞在のしかけづくり

- ・近隣都市からのアクセスの良さ、琵琶湖などゆったりと過ごせる環境、豊かな食等をセールスポイントととらえる。
- ・ワーケーション、二地域居住、地域づくり参加など、観光来訪から一歩進んだ滞在や活動ができる地域としての機能や受け入れ体制、今津での暮らし体験機会の提供など。

【例】

- ・一棟貸しの宿泊施設や宿泊施設を利用した時間貸し別荘の提供
- ・都市住民を対象とした地方暮らし体験や来訪者が地域の困りごとを手伝い交流と旅を楽しむ体験など、今津での生活体験プログラムの実施
- ・リモートワークに対応するネットワーク環境の充実
- ・近江今津駅周辺へのテレワークや集まりに使えるスペース整備、コミュニティカフェなど住民と来訪者の交流の起点となる居場所づくり

G 今津の魅力と楽しみ方を伝える情報の発信・プロモーション

- ・旅先として今津地域を選んでもらい気持ちよく地域を巡り楽しんでもらう情報の充実。
- ・旅前（地域イメージや観光コンテンツ、訪問手段等）、旅中（現地ルート案内やリアルタイムサービス等）、旅後（今津の印象や評価等）、各段階の情報を総合的に提供。

【例】

- ・地域イメージを伝える（仮称）「水辺を暮らすまち今津」冊子やWEBサイトの制作
- ・JR西日本との連携によるキャンペーンの実施（ラッピング車両、ツアー企画など）
- ・親しみやすく発信しやすい今津特有のキャラクターの作成
- ・今津観光ポータルサイト制作と観光協会サイトなどとのリンク

- ・多様な主体・媒体による情報発信のしくみづくり
- ・QRコード利用などスマホによるまち案内・解説機能、wi-fi環境の充実(再掲)
- ・SNS活用による今津観光評価の研究
- ・高島市観光の入り口として市内各地への案内情報提供等

方向性3 住民・事業者のアイデアと意欲を具体化できる地域協働の体制づくり

- ・地域の観光に幅広く地域住民や事業者が参加し、それぞれの役割を發揮できる体制づくり。
- ・地域の再発見や見直しの促し、意欲やアイデアをまちづくり活動としていくためのしくみ

<取組みイメージ>

H 地元住民の意識醸成、住民がまちを再発見するプログラム

- ・わがまちの魅力や問題点に気付き、その価値を大切に守り育て改善し、生活・事業活動やまちづくりで活かすことができる意識と行動力を持つ住民・事業者の育ちを促す、情報提供や学習・体験の機会を提供。

【例】

- ・住民が地域を知り楽しむイベントの開催
- ・地域学学習講座などの学習機会充実
- ・特色ある今津の自然・歴史資源台帳を作成しPR

I 観光まちづくりの担い手や事業の育成と活躍の支援

- ・今津地域の観光まちづくりを多様な主体の協働によりすすめていくために、アイデアと意欲を持ち事業を開始したい人やまちの魅力にひかれ新たに地域に関わりたい人等を受け入る。
- ・アイデア実現を促していくための支援体制の構築、関係者のネットワークと地域ぐるみで取り組む体制の構築。

【例】

- ・地域での開業希望者への空家紹介などのマッチング制度の充実
- ・「高島縁人」、「高島でくらそう」などの移住・関係人口関連の施策との連携
- ・地域内起業やまちづくり事業の提案・実現を支援するしくみづくり
- ・「学生による『たかしま空家 Life Design コンペ』」など、まちづくりアイデアの創出、先導事業の実施、活用
- ・観光まちづくりに関わる主体の参加によるまちづくり組織形成
- ・高島高校、自衛隊、漁協、農協、商工会など多様な主体との協働

3. 周辺遊休地の有効活用

(1) 市有地の状況

- ・今津駅周辺地域内やその周辺には、駅南市有地（南沼）や旧郡民会館跡地などの更地のほか、旧琵琶湖周航の歌資料館など、現在利用されていない土地、建物がある。
- ・個人所有の空き地や空き家が小規模なものが多いことに対し、これら市有の物件は中～大規模なものであり、地域活性化の拠点としての利用も想定できる。

(2) 駅南市有地の活用の方向性

駅南市有地は、利活用の内容に応じてまちづくりに大きなインパクトを与えるものであり、構想に示す地域活性化の方向性と整合のとれた適切な利用を図る必要がある。一方、相当規模の投資も想定され、事業主体となり得る民間事業者の意向等も確認して方向性を決めることが望ましい。そのため、現段階では大まかな活用イメージの検討に留め、今後、関係者の意見やアイデアを収集しながら検討を深めるものとする。

① 駅南市有地の概要

- ・今津地域の南端、近江今津駅から約 500m に位置し、琵琶湖と JR 湖西線に挟まれた約 3.5ha の平坦な土地であり、土地の中央を南北に湖周道路が貫いている。
- ・元は内湖（南沼）で、埋め立てにより昭和 51 年ごろには現在の姿になった。
- ・準工業地域に指定され、北・東・南の一部に住宅が立地。現在は空き地で日常的な利用はなく、市などが行うイベントや、今津港来訪者の駐車場として使われている。

② 活用例

○広域周遊ネットワークと今津駅周辺地域とが連携する場として利用

- ・今津駅周辺地域の広域的な位置づけを高め周遊客を誘引するために、琵琶湖周遊や北陸地域と今津地域のネットワークを強化する場所として利用する。

【イメージ】

- ・「ピワイチ」サイクルツーリズム拠点
- ・道の駅 など。

○今津駅周辺地域の新たな集客の目玉となる場として利用

- ・今津駅周辺地域の歴史や文化を感じられる、今津にゆかりのある出来事を活かした集客空間として利用する。

【イメージ】

- ・高島屋などゆかりのある企業と関連つけたテーマパークや商業施設などの誘致

○琵琶湖の自然とくらしの記憶を伝える場として利用

- ・今津駅周辺地域のキーコンセプトである「琵琶湖」を印象付け、より深く楽しむことができるような場所として利用する。

【イメージ】

- ・南沼とその自然を復元した緑地

・舟運や三高ボートを体験できる場 など。

○観光交流活動の取組をバックアップする多目的利用、実験的利用

- ・今津駅周辺地域の観光交流活動を下支えするサービス機能の提供、他エリアで実施できないイベント空間等として、また住民等が新たな事業を試行的に行うチャレンジ広場など、地域住民や事業者の創意と熱意を形にできる場所として活用する。

【イメージ】

- ・浜通りなどの街歩きの起点となる駐車場
- ・夏祭りなどのイベント会場
- ・テント・仮設店舗による事業実証実験会場 など。

4. 取組の推進体制

構想の実現には、今津駅周辺地域に住み活動する住民や事業者の参加が欠かせない。そのため、構想の推進体制として、関係する幅広い地域の主体をネットワークする組織をつくり、これが中心になって取組の実現、さらに効果的なものとなるよう取り組みを進めていくことが望ましい。

【基本的な考え方】

- ・住民、住民団体、観光事業者、商業者等からなる今津駅周辺地域観光まちづくり組織を設立し、これが先導して、取組の立案、取組間の調整、実行管理などを実施。
- ・行政は、関連制度や施策の情報提供、また関係機関との調整などで取組を支援し、協働体制を構築する。
- ・以上の体制で、①地域へ現状などを知らせ共有する、②地域でやりたいことを考え話し合う、③その中からできることを実際にやってみる、④取組結果の成果や問題を確認し次の取組に反映する、というサイクルにより効果的に取り組みを進める。

第7章 今津駅周辺地域の観光まちづくりに当たっての留意点と今後の進め方

令和2年度から3年度の検討により、今津地域の現状と課題を分析・抽出し、まちづくり関係主体等の意見を参考にするとともに庁内プロジェクトチームでの協議を経て、観光まちづくりを進める基本的な考え方をとりまとめた。今後は、この考え方をベースとしてまちづくり構想を作成し、さらに構想の具体化により地域活性化を目指して行くものとする。

この観光まちづくりを推進する担い手として、地域内の住民、住民団体や事業者、地域外の実業家等の活動を促し、それぞれが主体的に取り組むことが、今津駅周辺地域が目指す観光まちづくり、民間活力による地域活性化の必須条件となる。

地域内においては令和3年度に今津地域住民自治協議会が設立され、地域活性化やまちづくりについて議論や活動が展開されることから、今後は当該地域の行政の窓口である今津支所を通じて、地域への情報提供や情報共有を図ることとする。

なお、地域外の実業家等による地域活性化への参画については、一定のビジネスの要素（事業性、収益性）が求められること、また事業者が持つ幅広く柔軟なアイデアを活かすためにも、事業構想段階から民間事業者の参加を求め意見を募ることが有効であると考えられる。このため、令和4年度はサウンディング型市場調査を実施し、その結果とこれまでの調査分析結果とをあわせて、まちづくり構想の策定に繋げていくことが有意義であると見込まれる。

参考資料 庁内プロジェクトチーム会議による検討

1. 実施概要

(1) 役割

- 地域活性化に関連する分野の庁内部局で構成し、各分野の専門的視点を活かして効果と実行性の高いまちづくりの方向、方策について検討を行う。
- 検討に必要な行政関連情報を提供するとともに、地域づくりのあり方、方策のアイデアと課題、行政として担える範囲等を検討する。
- 会議を通じて、部局間の連携を深める、計画・事業間の整合性を高める。

(2) メンバー

リーダー	商工観光部		次長	藤田 英治
メンバー	政策部	企画広報課	主監	北村 洋子
		総合戦略課	参事	向井 隆晋
	総務部	財産管理課	参事	曾根 正彦
	市民生活部	市民協働課	参事	加藤 圭子
		今津支所	参事	弘部 亮二
	農林水産部	農業政策課	主監	太田 幸代
		森林水産課	主任	石田 吉央
	商工観光部	商工振興課	参事	岸本 広樹
	都市整備部	都市政策課	参事	栞原 隆二
教育総務部	文化財課	参事	宮崎 雅充	
事務局	商工観光部	観光振興課	課長	竹井 正人
			主監	渡会 純一
			主任	土井川 雅智

(3) 開催概要

回	日時	場所	出席者数	議事他
1	令和3年 7月29日(木) 14:00~16:00	市役所内 会議室	委員:10名 事務局:3名	<ul style="list-style-type: none"> ・事業概要、令和2年度成果 ・令和3年度の検討内容 ＜会議後提出意見項目＞ →所掌業務と今津地域との関わりについて →活性化に向けた関連施策・事業 →まちづくりの課題
2	令和3年 8月30日(月) 14:00~16:00	今津地域 現地	委員:10名 事務局:2名	<ul style="list-style-type: none"> ・今津地域のまち歩き調査 ＜会議後提出意見項目＞ →地域の魅力的な場所やモノ →地域を売り出すセールスポイント →活性化の方向、アイデア
3	令和3年 10月18日(月) 10:00~12:00	市役所内 会議室	委員:8名 事務局:3名	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を取り巻く動向 ・活性化に向けた課題 ・活性化のイメージと取組 ＜会議後提出意見項目＞ →来訪者と滞在スタイルのイメージ →実現のための方法
4	令和3年 11月24日(月) 10:00~12:00	市役所内 会議室	委員:11名 事務局:3名	<ul style="list-style-type: none"> ・今津地域の観光まちづくりの方向 ＜会議後提出意見項目＞ →まちづくりの方向に関する修正、提案等
5	令和4年 1月28日(金) 13:00~14:30	市役所内 会議室	委員:8名 事務局:3名	<ul style="list-style-type: none"> ・今津地域の観光まちづくりの方向(修正版)
6	令和4年 3月15日(火) 14:00~14:50	市役所内 会議室	委員:8名 事務局:3名	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の成果について ・今後の予定

2. 検討結果

庁内プロジェクトチーム会議を通じて多くの意見やアイデアを得ることができた。その主なものとして、まちづくりの課題、地域のセールスポイント、取組方策に関するものを以下に示す。

(1) まちづくりの課題について

① 地域資源に関して

1) 地域資源の活用

地域内には魅力的な資源があるが、十分に活用されておらず、時代や来訪者ニーズに合わせた活用方法が課題とされている。

- ・今津駅周辺地域には、ヴォーリズ通りや琵琶湖周航の歌資料館をはじめとする多くの資源が存在するが、それらを今津地域の活性化（特に、観光誘客のニーズ）とどのようにマッチさせていくか検討を要する。
- ・九里半街道の起点、金沢藩の代官所、民家と民家の間から浜へ抜ける辻子（ずし）、お寺やお地藏さんなど興味深い場所はたくさんあるが、活かされていない。（京都の「うなぎの寝床」ではないが浜沿いの古い家は玄関から入って浜まで抜けるような作りになっていた）

2) 地域資源の点在

点在する地域資源を関連づけてストーリー化し、観光ルートとして打ち出すことで、個々の地域資源を含め地域全体の知名度を上げることが課題とされている。また、今津駅周辺地域内にとどまらず、範囲を広げた観光ルートの整備も必要である。

- ・文化、歴史、産業などの賑わいを活用した観光振興の拠点となる資源（スポット）が点在していて、地域全体としてまとまりがない。
- ・今津駅周辺地域内の魅力ある資源（スポット）相互、あるいは地域内と地域外の資源を関連づける（ストーリー性を持たせる）ことにより知名度を上げることが必要。
- ・（今津駅周辺地域内だけでなく）広域的観光ルートの整備が必要。

3) 地域資源の保存継承

地域資源を価値ある存在として認識し、子どもたちへの伝承をはじめ、保存継承に取り組むことが課題とされている。

- ・琵琶湖の近くに暮らす人で特に第一次産業従事者は、琵琶湖への感謝の気持ちを持っている人が多い。そういう人の話を子どもたちに聞いてほしいと思う。
- ・今津地域をはじめ市内には多くの文化財の資源が存在するが、いずれも少子高齢化や人口流出、地域コミュニティの希薄化など、文化財や地域資源の保存継承を取り巻く環境が厳しくなっている。
- ・周航の歌についての市民理解度が低いと思われるので、理解を深める取り組みが必要。
- ・周航の歌に関連付け、ヒツジグサの育成とメダカの飼育をセットにしてストーリー性を持たせてはどうか。

4) 名物・特産品としての打ち出し

特徴的な生産物や取り組みがある一方で、地域に根付く特産品として打ち出せておらず、課題としてあがっている。

- ・「今津と言えば〇〇」と言う特産品が弱い
- ・梅原でのハバネロ特産化は広げられないか。
- ・まくわのブランド力を向上すべき。

- ・子牛競り市場。近江牛関連で何かできないか。
- ・県下一番の早場米産地。
- ・アレルギー対応の発酵食品を販売する企業など、オリジナリティある企業、商品がある。
- ・御来光の道（レイライン）に位置する町として情報発信してはどうか。

② 琵琶湖を楽しむ空間づくりに関して

琵琶湖岸が誰でも楽しめる親水空間として管理されておらず、琵琶湖を眺められるお店も少ない状態である。気軽に立ち寄れ、琵琶湖を楽しむよう、空間整備、イベントの開催、琵琶湖の眺めを売りにするお店作りが課題としてあげられている。また、特徴的な資源の一つとして、湖岸沿いの民家の「琵琶湖のある暮らし」を来訪者に紹介するイベントの提案もあった。

- ・琵琶湖があるのに湖岸を楽しめる場所になっていない。
- ・湖岸が砂浜というより砂利に近いので、歩きにくい感じがするかも。打ち上げられた魚の死骸や水草、枯草（葦）などが気になる。
- ・レイクビューを生かした店が少ない。
- ・朝日が売りにできる（日の出がみられる場所）のだから、朝に楽しめる場所をつくるべき。
- ・地域の名物的な人（ユニークな人）をメインにしたイベント（ごみ拾いウォーキングなど）の実施、お寺の開放やライトアップなど。
- ・朝日は美しく、湖岸の住宅からの眺めはすばらしいと思う。日の出とともに仏壇に水を備える人、リンをたたく音などが聞こえてくる。「あけっぴろげ」のような感じの日限定イベントで、一般住宅を解放し「私から見えるびわ湖」などでできればと思う。（今津駅周辺地域だけでなく、市内の湖岸沿いの家が協力してもらえれば更に良い）
- ・逆にトワイライトを湖上から見るプランがあってもよい。

③ 立ち寄りやすい空間づくりに関して

1) 交流拠点の創出

今津駅周辺地域全体として住民の人通りが少ない状況であり、来訪者と住民や住民同士の交流空間づくりが課題としてあげられている。また、空き店舗を利用した居場所づくりの提案がみられた。

- ・商店街の空きテナントなどを利用した貸しスペースの整備が必要。（テレワークやちょっとした集まりなどに使える）
- ・年々寂しくなっている駅前付近に、だれでも気軽に集える居場所づくりが必要。
- ・人通りが少なく、外から来た人や住民同士の接点（交流の起点）が少ない。
- ・商店街アーケードの使い方（活用方法）を考える必要がある。

2) 立ち寄りやすい店づくり

土産物店やカフェなどの気軽に立ち寄れるお店が少ない状態であり、来訪者向けの店や空間の整備が課題としてあげられている。

- ・竹生島への巡礼口として、駅前から今津港までの間で土産物の販売などをおこない、活性化を図る。
- ・汽船乗り場周辺に、若い女性が寄れる洒落た場所（店）がない。本格的に店舗を構えるまでいなくてもよいが、キッチンカーみたいなものがあれば良いのではないかな？
- ・運動公園は子育て世代の女性の利用が多い。おしゃれな店に対するニーズはある。
- ・今津駅周辺地域に複数ある老舗喫茶をオシャレにPR。
- ・食事や、ちょっとした買い物などができると良い。

④ 地域住民に関して

1) 今津住民の特徴

旧町時代からの町の特徴（住民と役場の役割分担）もあり、まちづくりを先導する住民が少ない点が課題としてあげられている。また、市街地と山間部、自衛隊とのつながり等、地域特性を考慮したまちづくりが必要である。

- ・今津は木津（古い港）に対する「新しい港」なので、もともとは移住者が多いと聞いたことがある。
- ・旧町時代のイベントでも役場職員が段取りして、あまり町民が関わってこなかったのも、昔からいる人には「全部役場がしてくれる」と思っている人が多いと感じる。住民の主体性を高める必要がある。
- ・まちのいいところを見ている人がいる一方で、無関心な人も多く、古くからの慣習や世間体を気にして自由な発想、新しい取り組みが生まれにくい雰囲気があると感じる。
- ・住民自治協議会が設立され、住民主体で進めるまちづくりの司令塔ができつつある。
- ・「今津地域」といっても課題は多様なので、ひとくりにしないような配慮が必要
- ・今津地域は面積も広く、にぎわいのある市街地と高齢化が進む山間部では、人材や財政力などに大きな格差がある。
- ・今津地域は自衛隊とのつながりが大きいですが、住民と交流する機会が少ない。

2) 住民の理解・参加意欲づくり

新住民と旧住民の関係性を考慮しつつ、地域住民のニーズを確認したうえで、まちづくりを進めることが課題としてあがっている。また、意欲的な住民の存在により、市役所が協力しやすい環境が生まれるため、高校生や子育て世代等を含め多様な人が参画できるような機会が必要である。

- ・地域住民が現状を認識する必要がある。
- ・地域住民のニーズを確認し、住民主体で対応できるかどうかを考える。
- ・今津駅周辺地域、あるいは今津地域全体の地域住民が自分たちの手で観光を支える意向があるかを確認し、人材育成やノウハウを蓄積する。
- ・高校があるのだから、高校生の意見を聞かないともったいない。
- ・「地域の課題は区・自治会ではなく、市が解決するもの」という意識が強い区・自治会があると感じることもあり、市からの丁寧なアプローチが必要。
- ・移り住んで来る人が打ち解けにくい雰囲気がある地域もあり、丁寧なヒアリングが必要である。
- ・孫ターンやIターンの移住者には、地域と調和のとれた生活を知ってもらうような機会があれば良いと思う。
- ・高校生、女性、子育て世代など多様な市民、世代による情報発信（伝統や文化のほか、旬や今の情報）が必要。多様な人がまちづくりに参画する機会を提供することにより、地域住民の意識改革を図る。
- ・民間独自のものは公平性の観点から、良いことをしていても全体周知は難しいが、市と民間が協働で行っている事業であれば市も広報をやすく、幅広く市民に周知できる。

3) 事業者の意欲・活力の低下

郊外への大型店の進出や、自衛隊の規模縮小を含む環境変化もあり、事業者の意欲を高めることが課題としてあげられている。

- ・今津地域の消費経済には官公庁、自衛隊、高校生の存在が大きかったが、それらが少なくなった今、商業者にはビジネスモデルの転換を図るなどの気概を持ってほしい。
- ・地域の事業者には保守的な所もあれば、新しい取り組みで実績を上げている所もある。
- ・昔取り組んでいた赤ソバの生産が、いつの間にかなくなってしまった。
- ・コロナ禍で更に、今津地域の商店街（名小路・辻川通）は活気が低下した感じがする。
- ・今津地域の漁協は、組合員の高齢化が進み、また組合員の減少傾向にある。

⑤ 土地利用・インフラに関して

1) まち機能の分散

郊外への大型店進出や、事業者の活力低下などにより、駅周辺にあった中心市街地的な機能が分散・低下し、課題としてあがっている。

- ・かつて駅前のシンボルでもあった名小路商店街から店舗が撤退し、駅周辺の北部エリアに大規模小売店舗、家電量販店などのロードサイド型店舗やホテルなどが集積している。
- ・今津駅は市内で唯一特急列車が停車する駅ではあるが、今津駅周辺地域の空洞化が進みつつある
- ・近江今津駅、今津港、湖西バイパス、旧国道、大規模小売店舗が集積する新商業地域、名小路商店街を中心とした旧商業地域など、まちづくりの基盤が点在している。

2) 遊休地の増加

今津駅周辺地域には空き家、住宅跡や耕作放棄地等、使われていない土地がみられるが、売りに出されることが少なく、空間の有効活用が課題とされている。

- ・農地集約が進みすぎたのか、田植えが間に合っていなかったり、交差点付近の目に付く田が放棄地になったりしている。持て余している耕作放棄地には、オリーブを植えて苗木を育てたらよいのでは。
- ・利用価値が高そうなのに眠っている民有地があり、もったいない。

3) 市有地・市有施設の活用

今後、公有空地の増加が見込まれ、若者定住に向けた利用促進など、公有地の有効活用が課題とされている。

- ・現在ある公有空地の立地条件等（場所や大きさなど）が、どのような利活用に適しているかの調査検討が必要。
- ・公共施設が移転する場合、その跡地の有効活用について検討が必要。
- ・市民会館や住吉公園を若い世代にも使ってもらえるような取組（音楽、ダンス、Xゲームなど）が必要。
- ・廃止予定の指定管理施設（農業作業所、魚揚場）がある。
- ・駅南市有地の有効活用
(例) イベント会場、見本市会場、ドライブシアター、野外フェス会場としての貸出。平時は市民に無料開放し、スケートボード、キックボード、インラインスケート施設として使用。災害時には、他者との接触回避可能な自動車での避難場所として活用。憩いの場としての芝生広場、SUP等マリンスポーツの着替えスポット、観光駐車場としての活用。さらに、このオープニングイベントとして、小浜・今津間（九里半街道）または敦賀・今津間（北国海道）での駅伝（往路・復路）を開催する。

4) その他

施設の老朽化のほか、二次交通、通信ネットワーク環境の整備が課題としてあげられた。

- ・合併前に浜通りの舗装をきれいにしたが、融雪装置が古く、水の勢いが強いところもあり、冬場は傘でよけながら歩かないと濡れるので歩きにくい。
- ・漁港施設が老朽化し、維持管理や改修に多くの経費が必要である。
- ・駅からの二次交通の確保。（駅レンタカー）が求められる。
- ・Free Wi-Fi などのインターネット環境の導入が求められる。

(2) 活性化のイメージについて（今津駅周辺地域のセールスポイント）

- 駅と湖の近さ～「駅から2分でウォーターフロント」
- びわ湖を前面に～「びわ湖を感じる街」「びわ湖と共に歩んできた街」
- 琵琶湖と湧水と食～「琵琶湖と食」（湖魚・お酒）
- 歴史を感じる街並みと琵琶湖～うまく活用すれば散策コースとしてセールスポイントに
- 都会との違いをアピール～「のどかな日常に包まれるまち」「何もない時間」「『私だけの琵琶湖』を愉しむ」「琵琶湖に一番近い OLD TOWN」（略して「ビワイチ OLD TOWN」）「琵琶湖の香り漂う港町・近江今津」「近江米・近江牛・近江今津」
- 外国人向けに～「京都から一番近い雪国の街」
- 「昭和レトロにタイムスリップ 高島市今津」
- 「港・雪・風」
- 「往来～湖の道、山の道を通じた人々や文化の行き来」
- 生産物～早場米や果実などの生産物をいかに素敵な形で届けるのか
- 「今の『今津』～幾重にも歴史ページの『今津』が見つかる」
- 電車よし、自動車よし、自転車よしの『三車よし』～「ふらっと訪れても、いつでも楽しめる街」
- 「京阪神から日帰りでぶらり旅 ちょっとレトロな港町・今津」
- ウォーキングコースとしてPR～ウォーキングを楽しむ人が多く市外へ魅力発信ができる、浜通りは旧街道で琵琶湖へのアクセスが良く、他にはない魅力がある
- セールスポイントを分けたPR～浜通り、ヴォーリズ通り、辻川通りをまとめてPRすると個々の魅力が伝わらないので、ポイントを分けてPRする

(3) 取組の方向やアイデアについて

<p>○浜通り、辻川通りの動線づくり</p> <ul style="list-style-type: none">・ 駅～今津港に店がなく、浜通り・辻川通りへお土産購入や食べ歩きで人の流れを・ ヴォーリズ建築を人やAIで説明。資料館手前の民間空地の活用 <p>○とんがったものを集積する</p> <ul style="list-style-type: none">・ ストーリー性は難しく、テーマに一貫性がなくても、マニアックなモノ、コト、スポット、ヒトを集め、スタンプラリーやミステリーツアーに仕立てる <p>○魅力的な食づくり</p> <ul style="list-style-type: none">・ クレープが人気であるように、滋賀県独特の食はもちろんだが、それ以外の食情報も積極的に取り上げる
<p>○湖岸オープンカフェ</p> <ul style="list-style-type: none">・ 湖岸で季節限定で、テイクアウト・デリバリー利用のオープンスペースカフェを行うことで、若い世代にも来てもらいSNSで情報が広まることを期待・ 地域の飲食店の協力を求めるとよい <p>○イベント実施</p> <ul style="list-style-type: none">・ ヴォーリズ通り手前の民間所有地でマルシェなどを実施して、浜通り一帯の活性化を図る
<p>○辻子（ずし）を活用して琵琶湖岸を満喫できる散策ルートの設定</p> <ul style="list-style-type: none">・ 浜通りで浜側の琵琶湖を眺められる古民家をホテルや一棟貸し宿泊施設として活用・ 浜通り以外の通りでは、店が点在し空き家が目立ち寂しいため、住民自治協議会と連携し活性化案を考える <p>○南沼市有地に集客力のある商業施設等の誘致</p> <p>○対象地域内におけるターゲット地域の絞り込み</p> <ul style="list-style-type: none">・ 対象地域全体は広すぎるので、まずは浜通り、ヴォーリズ通り、名小路商店街、南浜市有地など、どこから始めるかを決めて、徐々に広げていく・ 居住者や商店との調整が必要となるため、市役所の権限で始められる南浜市有地から取り組んでもよいか（佐賀市「わいわい！！コンテナ2」のようなもの）
<p>○案内情報を便利に</p> <ul style="list-style-type: none">・ 案内図はあるがお店や景観ポイントなどがよくわからない。スマートフォンでQRコードを読み込む案内看板設置やルート案内、お店の紹介など <p>○くつろぐ場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none">・ 琵琶湖や風景を眺める休憩所やベンチを置く。そういうスペースがあれば、食べ歩きをしやすくなる。
<p>○びわ湖の魅力を前面に出した企画</p> <ul style="list-style-type: none">・ 駅からびわ湖までの距離が近いことを前面に出し、<ol style="list-style-type: none">①「びわ湖へ行ってみませんか？」と呼びかける（PR媒体、ツアーなど）②辻子を通ってびわ湖へのルートを魅力的に演出する（特別な体験）③湖岸と浜通りを、辻子を通って「行ったり来たり」する・ 途中で「ヴォーリズ建築」や「食や酒」などの魅力を紹介（話やパネル）し、追加で立ち寄ってもらうように誘導する。・ びわ湖を前面に出して客を引き寄せつつ「気が付いたら他にも立ち寄っていた」となるように、他の場所へ誘導するための話術や紹介方法を考える
<p>○魅力的な場所のPR</p> <ul style="list-style-type: none">・ 他から来られる方には魅力的な場所であり、PRすることで観光客を呼びこむことができる <p>○浜通りに立ちよりのできるカフェなど</p> <ul style="list-style-type: none">・ ちょっと立ち寄れて、インスタ映えするようなカフェのようなものがあると人の流れを浜通りに呼び込めるのではないかと

- 誰しものが思わず『ただいま』と口にしような、皆が思い描く、ほっとする、ふるさと（実家感…）のイメージ
 - 住民、関係人口（観光客を含む）の「自助的」な、持続可能な、文化面、商業面、観光面、スポーツ面等での「選択」の幅が広くて、リピート訪問できる仕組み
 - 個人商店などの魅力を地域情報紙にて発信
 - ・既存のものと折り合いをつけながら
 - 魅力的な店・空間の設置
 - ・地域商品の販売店設置と土産商品の開発
 - ・地域の特産品を使った料理が食べられるレストラン
 - ・今津産オリーブを使ったイタリア料理店
 - ・意欲と実力のある料理人（市内にも結構おられると聞く）の誘致
 - ・今津駅周辺地域で核となり得る商業施設を道の駅化（地元生産者販売コーナーの拡大、湖周道路沿いに案内看板を設置するだけでも、かなりの集客が見込めるのでは）
 - ・江若鉄道近江今津駅跡や廃線跡の整備
 - ・既存建物の活用と店舗整備に対する支援（【活用候補建物】今津ヴォーリズ資料館／旧今津郵便局／酒蔵や銭湯など）
 - ・遊休地の活用（南浜市有地に、花をメインとしたテーマパークを誘致／高島屋創業者ゆかりの地として「高島屋ローズガーデン」を運営／石田食品跡に開店したレストランと併せ、駅近なのに自然豊かな「見る・食べる」スポットとする）
 - 今津特有のキャラクターの作成
 - ・親しみやすく発信しやすい
 - ・パッケージに統一感が出る
 - ・モデルはザゼンソウとか・・・
 - JR 近江今津駅を発着場所にした散策コースの設定とガイドの育成
 - ・「街道めぐりコース」「近代化遺産コース」「ざぜん草コース」の3コースくらいはあっても良いと思う。
 - 駅周辺の街歩きマップや街歩き看板づくり
 - 周航の歌の街として再度アピールする
 - 間接的に「竹生島」の魅力をアピールする
 - ・陸路とともに湖上交通の要衝である
 - ・湖西線（近江今津駅）が竹生島への玄関口である
 - アウトドア客を対象とした環境整備
 - ・今津総合運動公園にフィールドアスレチックを整備する
 - 環境に配慮した観光地としてPRする
 - ・使い捨て容器を使用しない等
 - 湖西線に観光列車を走らせる
-
- 浜通りを湖岸と一体的にPR
 - ・浜通りは琵琶湖と密接しており、辻子や砂浜（湖岸）と絡めてPRすべき
 - 地域住民の意識改革
 - ・住民は暮らしに不満がなく変革を求めている人も多いが、町に活気がないことは事実であり、活性化のためには外から人を呼んでこようとする意識変革が必要
 - ・住む人の意識が変われば、食べ歩きに対応する飲食店や、琵琶湖でのアクティビティ体験を生業とする事業者など、意欲のある事業者も増えてくる
 - 行政による大規模なハード整備は不要
 - ・江戸時代風の景観とか、目玉施設を行政が整備するのは違う